

令和4年度
男女共同参画に関するアンケート調査
結果報告書

令和5年4月
柏市

目次

第1章 調査概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査項目	2
3. 調査設計	2
4. 回収結果	2
5. 報告書の見方	2
6. 調査精度	3
第2章 調査結果の概要	4
第3章 調査結果の分析	9
1. あなたのことについて	10
(1) 性別	10
(2) 年齢	10
(3) 婚姻状況	10
(4) 家族構成	11
(5) 子どもの有無	11
(5-1) 一番下の子ども	11
(6) 職業	12
(7) 配偶者・同居のパートナーの職業	12
2. 家庭生活について	13
(1) 日常的な事柄の現在の役割分担	13
(2) 日常的な事柄の理想的な役割分担	18
(3) 理想と現実に見る日常的な事柄の役割分担	24
(4) 結婚や離婚に関する考え方	26
(5) 子どもの育て方に関する考え方	33
(6) 男性の各活動への参加促進	38
3. 就労について	40
(1) 女性の働き方の理想	40
(2) 女性の現実の働き方	44
(3) 女性の働き方の理想と現実	46
(4) 職場での休暇・休業のとりやすさ	48
(5) 男性の育児休業や介護休業取得	50
(6) 仕事と家庭の両立に必要なこと	54

4. 少子・高齢化について	57
(1) 出生率低下の原因	57
(2) 子どもを産み育てやすい社会にするために必要なこと	59
(3) 老後の不安	61
(4) 身の回りの世話をしてもらいたい相手	63
5. 性・暴力と人権について	66
(1) 女性の人権が侵害されていると感じること	66
(2) DV（ドメスティック・バイオレンス）だと思うこと	71
(3) DVの被害経験、加害経験	74
(4) 「された経験（被害経験）」と「した経験（加害経験）」の有無	82
(5) 相談の有無	83
(6) 相談先	85
(7) 相談しなかった理由	86
6. 性別の意識や考え方について	87
(1) 性別で役割を分担する考え方	87
(2) ポジティブ・アクションの考え方	90
(3) 進路や職業を選択する際の性別意識	92
(4) 各分野での男女平等	94
7. 個人の活動や行政への期待について	98
(1) 現在参加している地域活動	98
(2) 今後参加したい、または引き続き行いたい地域活動	101
(3) 現在の地域活動と今後の参加意向	104
(4) 「男女共同参画社会」形成のために取り組むべき施策	105
(5) 男女平等推進策の認知状況	108

第 1 章 調査概要

1. 調査の目的

市民の生活と意識を把握し、柏市男女共同参画社会推進計画の見直しのための資料とするとともに、今後の男女共同参画に関する施策を効果的に推進する上での基礎資料とする。

2. 調査項目

- (1) 家庭生活について
- (2) 就労について
- (3) 少子・高齢化について
- (4) 性・暴力と人権について
- (5) 性別の意識や考え方について
- (6) 個人の活動や行政への期待について

3. 調査設計

- (1) 調査地域 柏市内全域
- (2) 調査対象 柏市内在住の満 18 歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000 人
- (4) 標本抽出 等間隔無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査期間 令和 5 年 2 月 8 日～令和 5 年 2 月 17 日
- (7) 調査実施機関 (株) 物流科学研究所

4. 回収結果

- (1) 標本数 (アンケート票配布数) 2,000
- (2) 有効回収数 618
- (3) 有効回収率 30.9%

5. 報告書の見方

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率 (%) の計算は、小数第 2 位を四捨五入し、小数第 1 位まで表示した。したがって、単数回答 (1 つだけ選ぶ問) においても、四捨五入の影響で、% を足し合わせて 100% にならない場合がある。同様に、複数の選択肢の合計値 (例: 『そう思う (計)』 = 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計) についても、個々の数値の合計と一致しない場合がある。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映している。
- ・複数回答 (2 つ以上選んでよい問) においては、% の合計が 100% を超える場合がある。

6. 調査精度

男女共同参画に関する市民意識調査は、対象となる柏市に住む満18歳以上のもの（全体）の中から無作為に選ばれた一部の人（標本）について調査を行う「標本調査」である。

標本調査では、標本から全体における数値を推定するときに誤差がともなう。

調査で生じた標本誤差（ β ）はおおよそ下表のとおりである。標本誤差（ β ）の値は、全体数（N）、比率算出の基数（n）、及び回答の比率（P）によって異なる。

$$\beta = 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

「男女共同参画に関する市民意識調査」の標本誤差

回答比率（P） 基数（n）		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
		総数	618	±2.36%	±3.15%	±3.61%
女性	361	±3.09%	±4.12%	±4.72%	±5.05%	±5.16%
男性	242	±3.78%	±5.04%	±5.77%	±6.17%	±6.30%

※この表の見方

例えば、「女性 361 人のある設問中の選択肢の回答比率が 30.0%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±4.72%以内（25.28%～34.72%）である」とみることができる。

第2章 調査結果の概要

家庭生活について

問1 日常的な事柄の現在の役割分担

「C. 食事の支度」など9項目中4項目は「主として妻」が半数を超え、他も「主として妻」が「両方同じくらい」「主として夫」を上回る。

問2 日常的な事柄の理想的な役割分担

「B. 洗濯」「C. 食事の支度」は「両方同じくらい」が6割台、それ以外は7割を超える。「主として妻」は「B. 洗濯」「C. 食事の支度」で3割を超え、「主として夫」は「I. 役所・銀行等の手続き」のみ1割を超える。

問3 結婚や離婚に関する考え方

『そう思う (計)』が最も多いのは「B. 結婚する、しないは、個人の自由であるから、どちらでもよい」で、11項目中6項目で『そう思う (計)』が5割を超える。一方、『そう思わない (計)』が最も多いのは「E. 結婚した以上、離婚すべきでない」となっている。

問4 子どもの育て方に関する考え方

「A. 性別に関係なく炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」「B. 性別に関係なく勇気や決断力、思いやりを身につけさせるほうがよい」「C. 性別に関係なく経済的に自立できる子に育てる方がよい」は『そう思う (計)』が9割を超える。一方、「D. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」については、女性は『そう思わない (計)』、男性は『そう思う (計)』が4割を超える。

問5 男性の各活動への参加促進

「夫婦・家族間のコミュニケーションをよく図る」が5割を超え最も多い。女性は「労働時間の短縮や休暇制度の普及」「男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」、男性は「労働時間の短縮や休暇制度の普及」も多い。

就労について

問6 女性の働き方の理想

「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が約4割で最も多く、平成21年度と比べほぼ倍増した。一方、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ方がよい」「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（フルタイム）を持つ方がよい」は平成21年度以降減少が続き、2割を下回った。

問7 女性の現実の働き方

「子どもができて、ずっと仕事を続ける」が約3割で最も多いが、理想に比べ1割程少ない。「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（フルタイム）を持つ方がよい」も理想に比べ少なく、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ方がよい」は1割近く多い。

問8 職場での休暇・休業のとりやすさ

『とりやすい（計）』は「A. 有給休暇」が6割を超え最も多く、「B. 育児休業」「C. 介護休業」は5割未満となっている。

問9 男性の育児休業や介護休業取得

育児休業、介護休業とも『男性も取得した方がよい（計）』が8割を超え、平成26年度に比べ約1割増加した。

問10 仕事と家庭の両立に必要なこと

「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること」が4割を超え、増加傾向にある。

少子・高齢化について

問11 出生率低下の原因

「子育てにかけられる経済的余裕がない（子育てにお金がかかる）」が6割を超え最も多く、「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない」が5割台で続く。前者は男性で7割を超える。

問12 子どもを産み育てやすい社会にするために必要なこと

「子育てに対する経済的な支援」が4割を超え最も多く、女性は5割を超える。「保育施設の整備や保育時間の延長など、保育事業の充実」は約2割を占めるが、近年減少傾向にある。

問13 老後の不安

「介護が必要になったときのこと」「健康のこと」が6割を超え、女性は前者、男性は後者が最も多い。

問14 身の回りの世話をしてもらいたい相手

「特別養護老人ホーム等の施設に入る」が5割を超え最も多く、「ホームヘルパーに世話をしてもらおう」「配偶者に世話をしてもらおう」が4割台で続く。「配偶者に世話をしてもらおう」は男性で5割を超えるが女性は3割台であり、また、「娘に世話をしてもらおう」は女性で約2割を占めるが男性は1割未満、「息子に世話をしてもらおう」は男女とも1割未満となっている。

性・暴力と人権について

問 15 女性の人権が侵害されていると感じること

「A. レイプ・痴漢などの女性への性犯罪」など9項目中6項目で『人権侵害だと思う派』が8割を超え、「B. 売春・買春・援助交際」「H. ポルノ映画・ポルノビデオ・ポルノ雑誌等による性の商品化」「I. 新聞やテレビなどのマスメディアで、記事とは無関係の女性の裸や下着姿を用いたり、体の一部を誇張するなどの性表現」は7～5割となっている。9項目すべて女性の方が『人権侵害だと思う派』が多く、「B. 売春・買春・援助交際」など3項目は10ポイント以上、「F. 夫や恋人からの言葉の暴力」「G. 夫婦や恋人間における一方的な性的行為の強要」は5ポイント以上上回る。

問 16 DV（ドメスティック・バイオレンス）だと思うこと

「A. なぐったり、けったりする」など12項目中4項目で「DVだと思う」が9割を超え、6項目が8割台となっている。一方、「F. 何を言っても長期間無視し続ける」「I. 電話やメールを細かくチェックする」は「DVだと思う」が7割台、「DVだと思わない」が2割前後となっている。

問 17 DVの被害経験、加害経験

『被害経験あり（計）』『加害経験あり（計）』とも「G. 大声でどなる」が最も多く、「F. 何を言っても長期間無視し続ける」も1割を超える。「D. 嫌がっているのに性的な行為を強要する」「G. 大声でどなる」の『被害経験あり（計）』は女性が、「G. 大声でどなる」の『加害経験あり（計）』は男性が他方より10ポイント以上多い。

問 18 相談の有無

「相談しなかった」が全体の7割、男性の8割を占める。「相談しなかった」は年代が上がるにつれ増加する傾向にある。

問 18-1 相談先

「友人・知人」「家族・親戚」が6割を超え、女性は前者、男性は後者が最も多い。

問 18-2 相談しなかった理由

「相談するほどでもないと思った」が4割を超え最も多く、「自分にもわるいところがあると思った」が3割台で続く。

性別の意識や考え方について

問 19 性別で役割を分担する考え方

『賛成派』が23.8%、『反対派』が54.5%で、平成26年度に比べ『賛成派』はほぼ半減し、『反対派』は2割近く増加した。『反対派』は女性が男性より9.9ポイント多い。

問20 ポジティブ・アクションの考え方

『賛成派』が78.2%、『反対派』が4.9%で、平成26年度に比べ『賛成派』『反対派』ともほぼ同程度となっている。『反対派』は女性が男性より5.7ポイント多い。

問21 進路や職業を選択する際の性別意識

『性別を意識して選択した（計）』が2割台、『性別を意識せずに選択した（計）』が7割台となっている。『性別を意識して選択した（計）』は女性で27.1%と男性より1割以上多い。

問22 各分野での男女平等

「平等である」は「C. 学校教育の場で」が最も多く、唯一5割を超える。「男性が優遇されている」は「D. 政治の場で」が7割を超え最も多く、「G. 社会通念や慣習で」など3項目も5割台となっている。8項目すべてで、「男性が優遇されている」は女性、「平等である」は男性が多く、「A. 家庭生活で」など4項目は10ポイント以上、それ以外も7ポイント以上上回る。

個人の活動や行政への期待について

問23（1） 現在参加している地域活動

「A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動」「H. 町内会・自治会などの活動」が1割台、それ以外は1割未満となっている。上位2項目は女性で2割前後を占め、「H. 町内会・自治会などの活動」は男性より6ポイント多い。

問23（2） 今後参加したい、または引き続き行いたい地域活動

「A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動」が3割近くで最も多く、「E. 災害の予防や救助に関する活動」など7項目が1割台となっている。いずれも男性の方が多く、「まちづくりに関する活動」は1割以上上回る。

問24 「男女共同参画社会」形成のために取り組むべき施策

「保育施設の整備や保育時間の延長など、保育事業の充実」が45.5%で最も多く、「学校における男女平等（ジェンダー平等）教育の推進」「男性が家事・育児・介護・地域活動に参画しやすい環境整備」も4割を超える。女性は「特別養護老人ホーム等施設の整備やホームヘルパーの養成など、介護事業の充実」「男性が家事・育児・介護・地域活動に参画しやすい環境整備」、男性は「イベント・講座の開催、情報誌の発行など、男女平等意識を啓発する事業の充実」が他方より10ポイント以上多い。

問25 男女平等推進策の認知状況

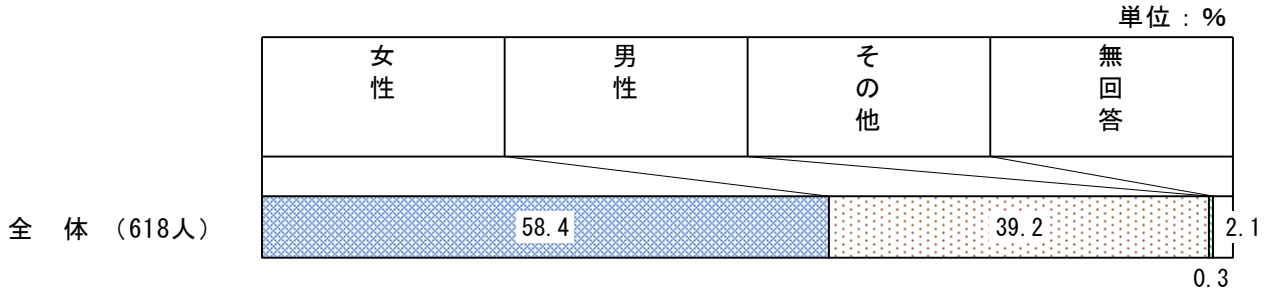
「公民館・近隣センターで行う女性セミナー等」が10.0%で最も多く、「情報紙「フリートーク」」以下は1割未満となっている。「公民館・近隣センターで行う女性セミナー等」についても、認知度は減少傾向にある。

第3章 調査結果の分析

1. あなたのことについて

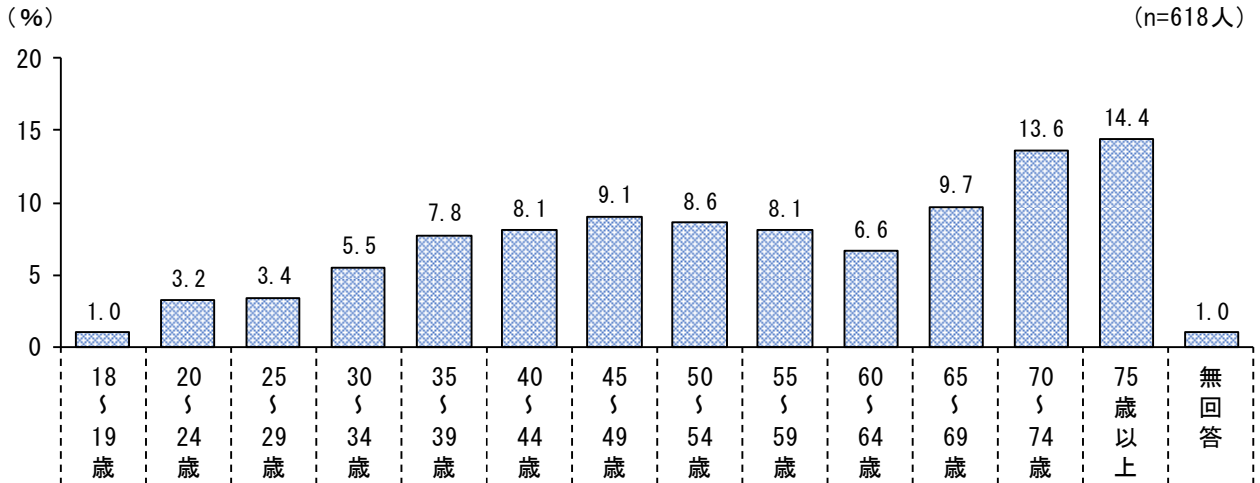
(1) 性別

F 1 性別についてお答えください。(ひとつに○)



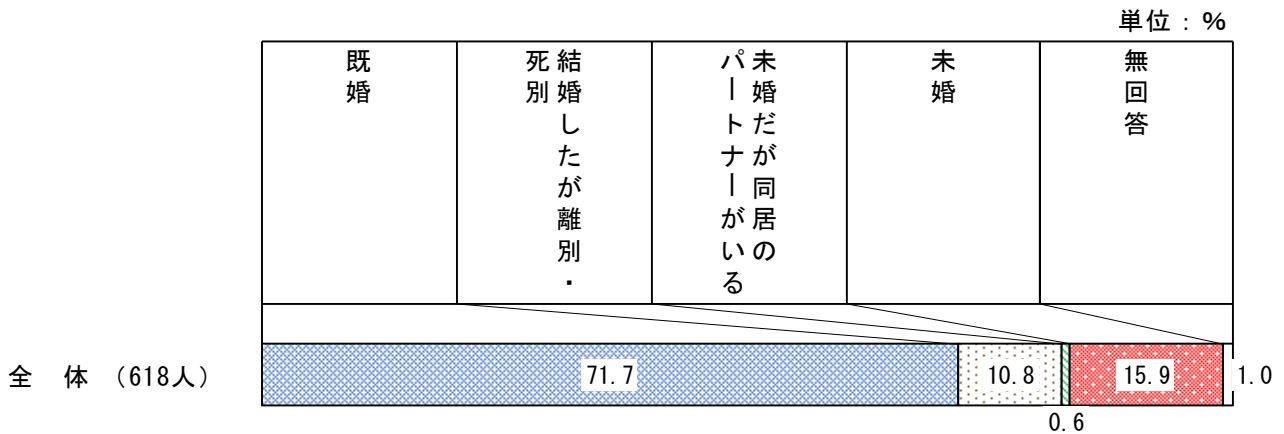
(2) 年齢

F 2 年齢についてお答えください。(ひとつに○)



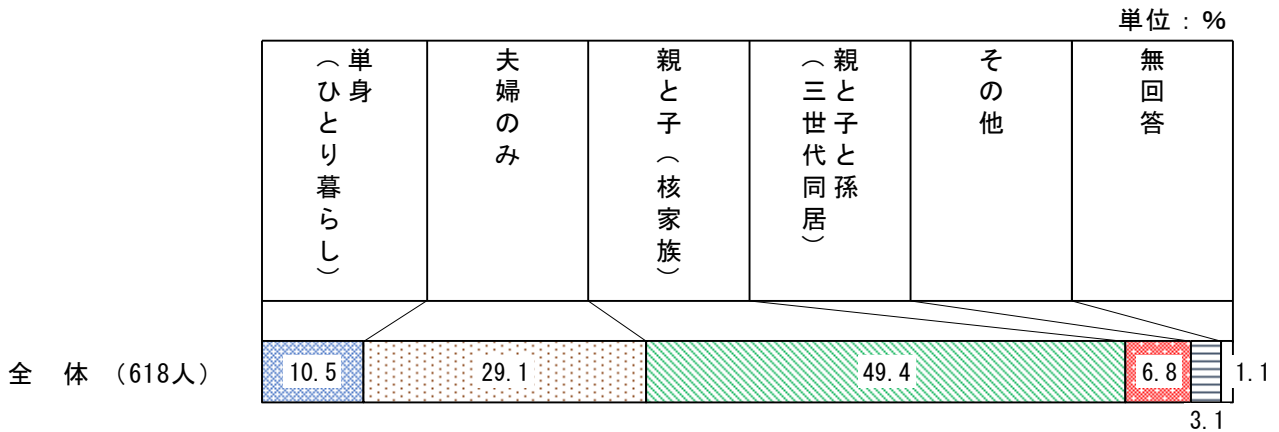
(3) 婚姻状況

F 3 結婚していますか。(ひとつに○)



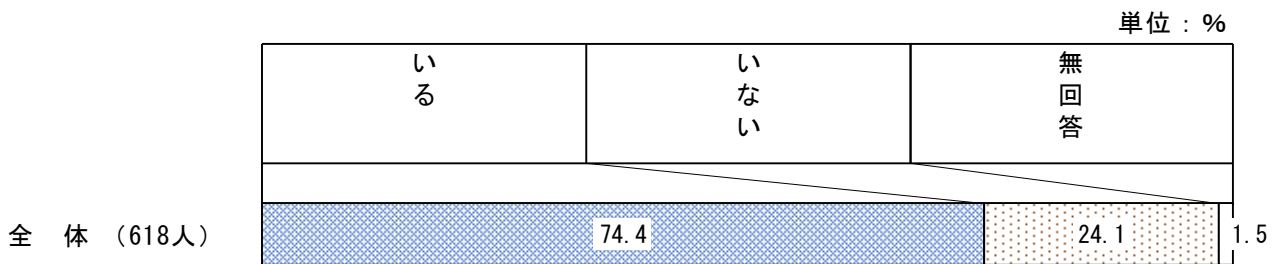
(4) 家族構成

F 4 家族構成について教えてください。(ひとつに○)



(5) 子どもの有無

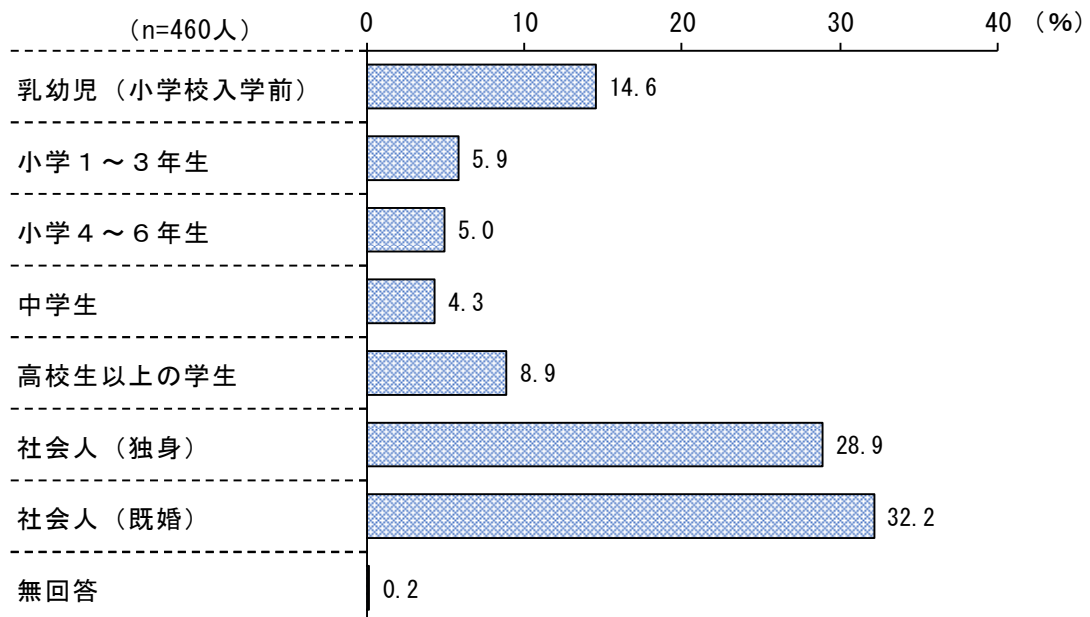
F 5 お子さんはいらっしゃいますか。(ひとつに○)



(5-1) 一番下の子ども

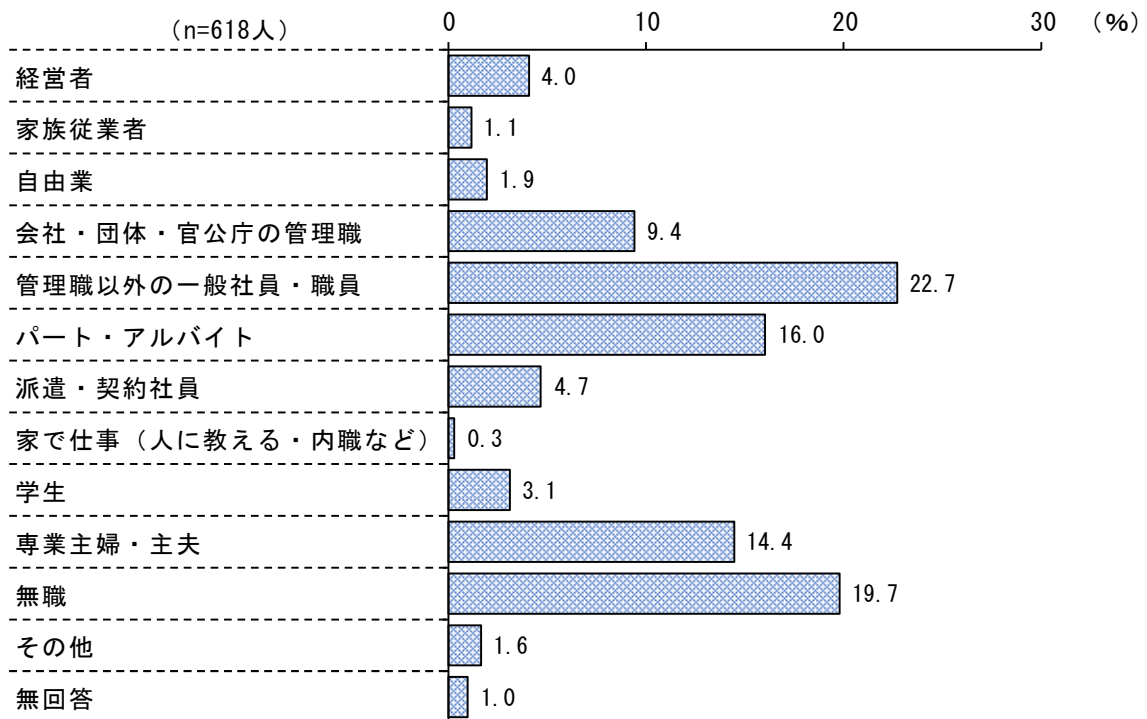
【F 5で「1. いる」とお答えの方におたずねします】

F 5-1 一番下のお子さんは次のどれにあてはまりますか。(ひとつに○)



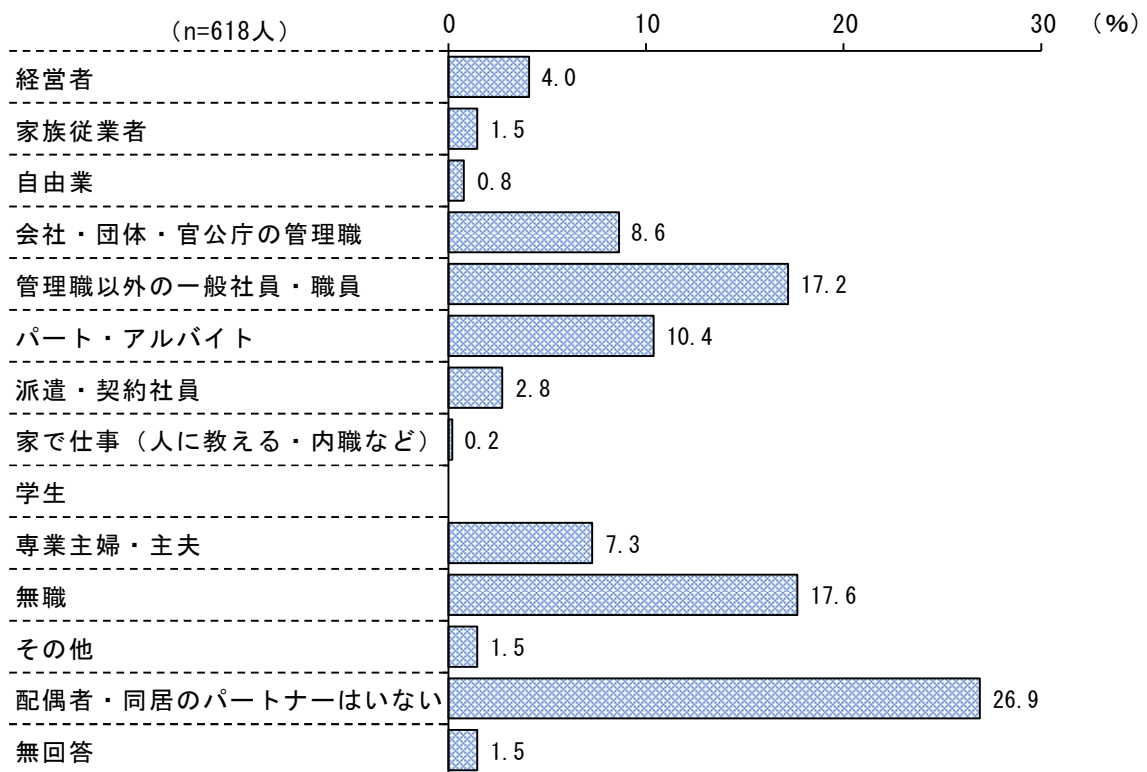
(6) 職業

F 6 現在どのような仕事についていますか。(ひとつに○)



(7) 配偶者・同居のパートナーの職業

F 7 配偶者・同居のパートナーは現在どのような仕事についていますか。(ひとつに○)



2. 家庭生活について

(1) 日常的な事柄の現在の役割分担

問1 次のような日常的な事柄は、主に誰がしていますか。

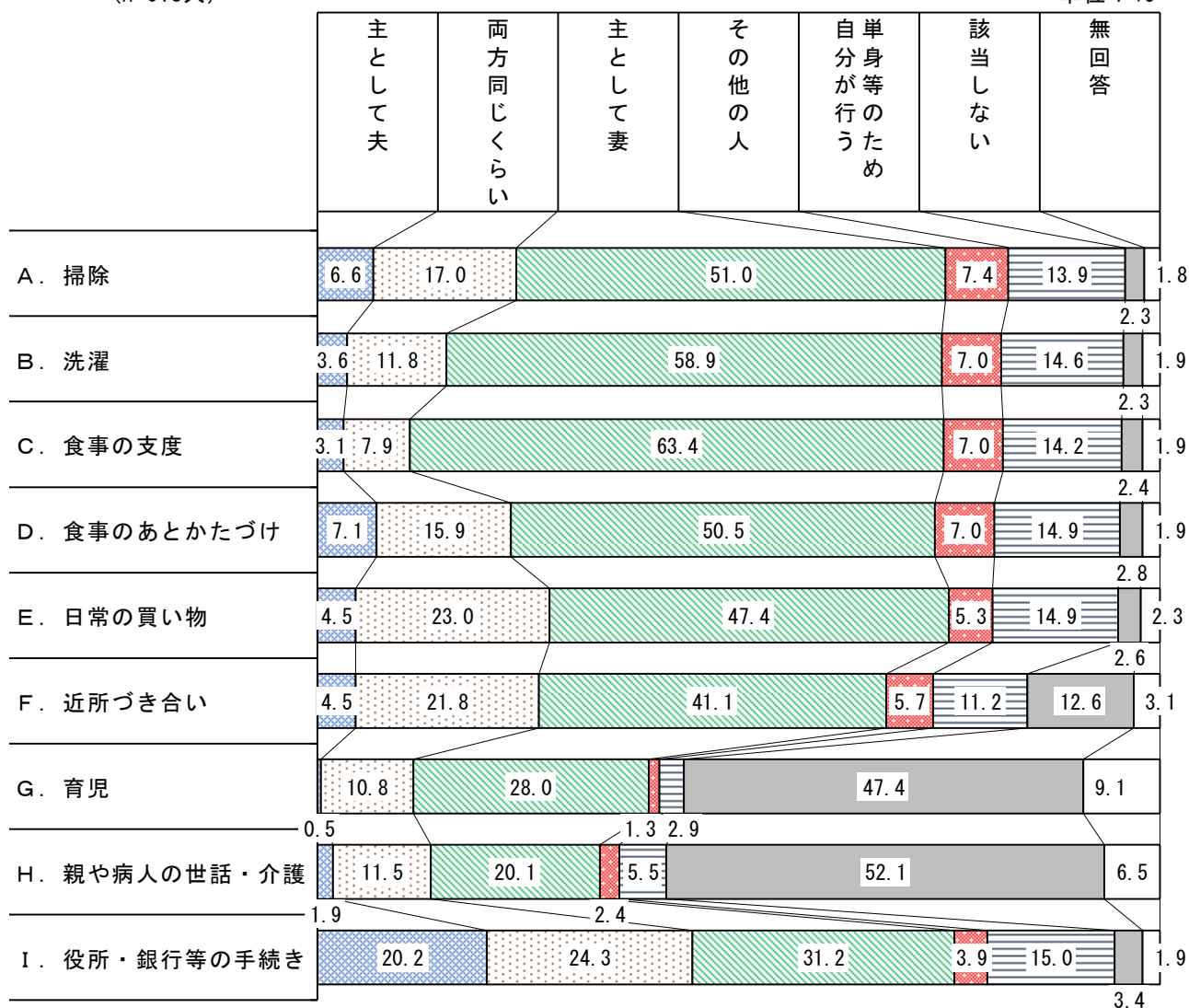
(A～Iのそれぞれについて、1～6のどれかにひとつずつO)

日常的な事柄の担い手については、「G. 育児」「H. 親や病人の世話・介護」は「該当しない」、それ以外は「主として妻」が最も多い。

「両方同じくらい」については、「I. 役所・銀行等の手続き」(24.3%)が最も多く、次いで「E. 日常の買い物」(23.0%)、「F. 近所づき合い」(21.8%)の順となっている。また、「主として夫」は「I. 役所・銀行等の手続き」が20.2%で最も多い。

(n=618人)

単位：%

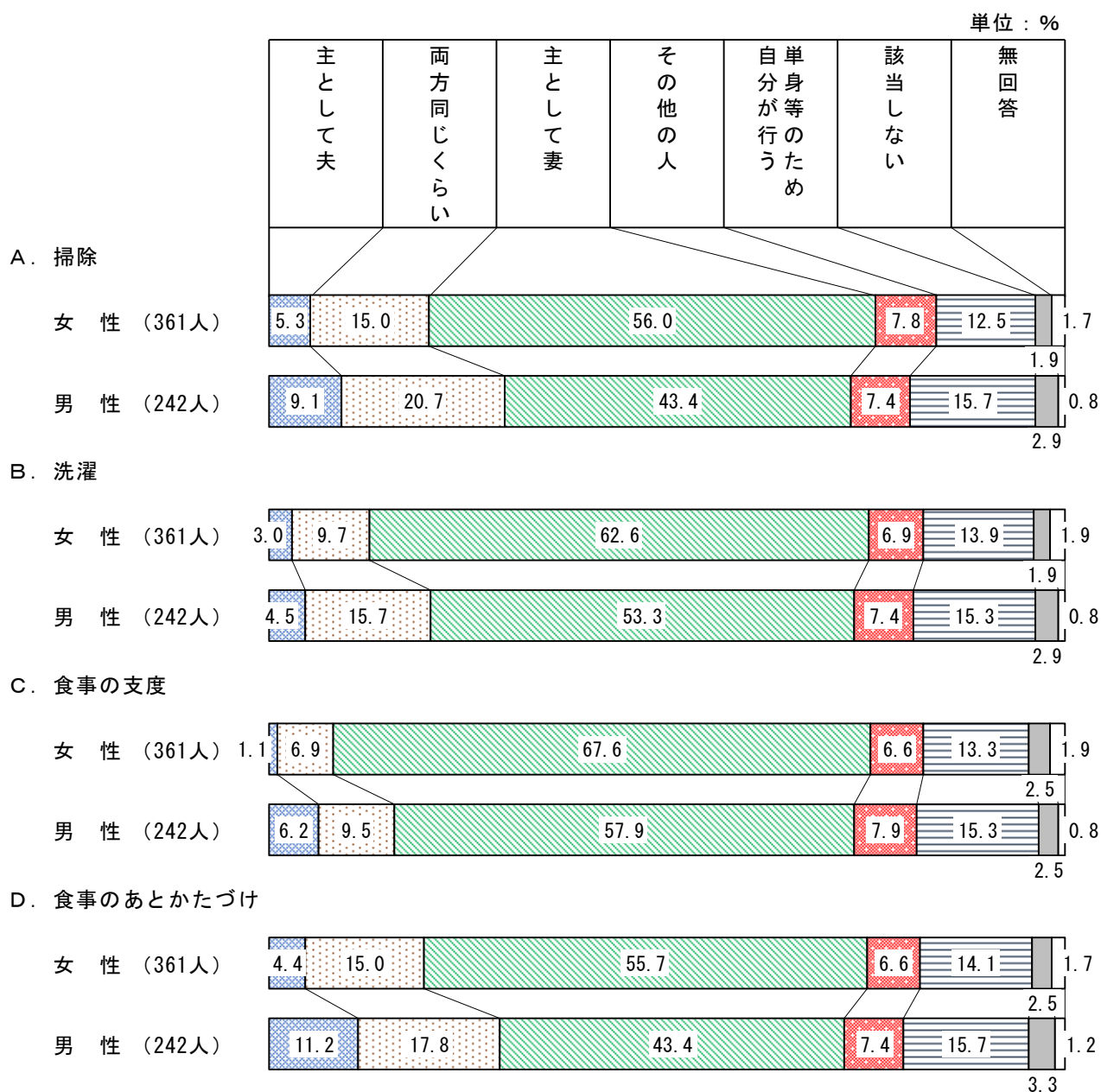


性別にみる「日常的な事柄の現在の役割分担」

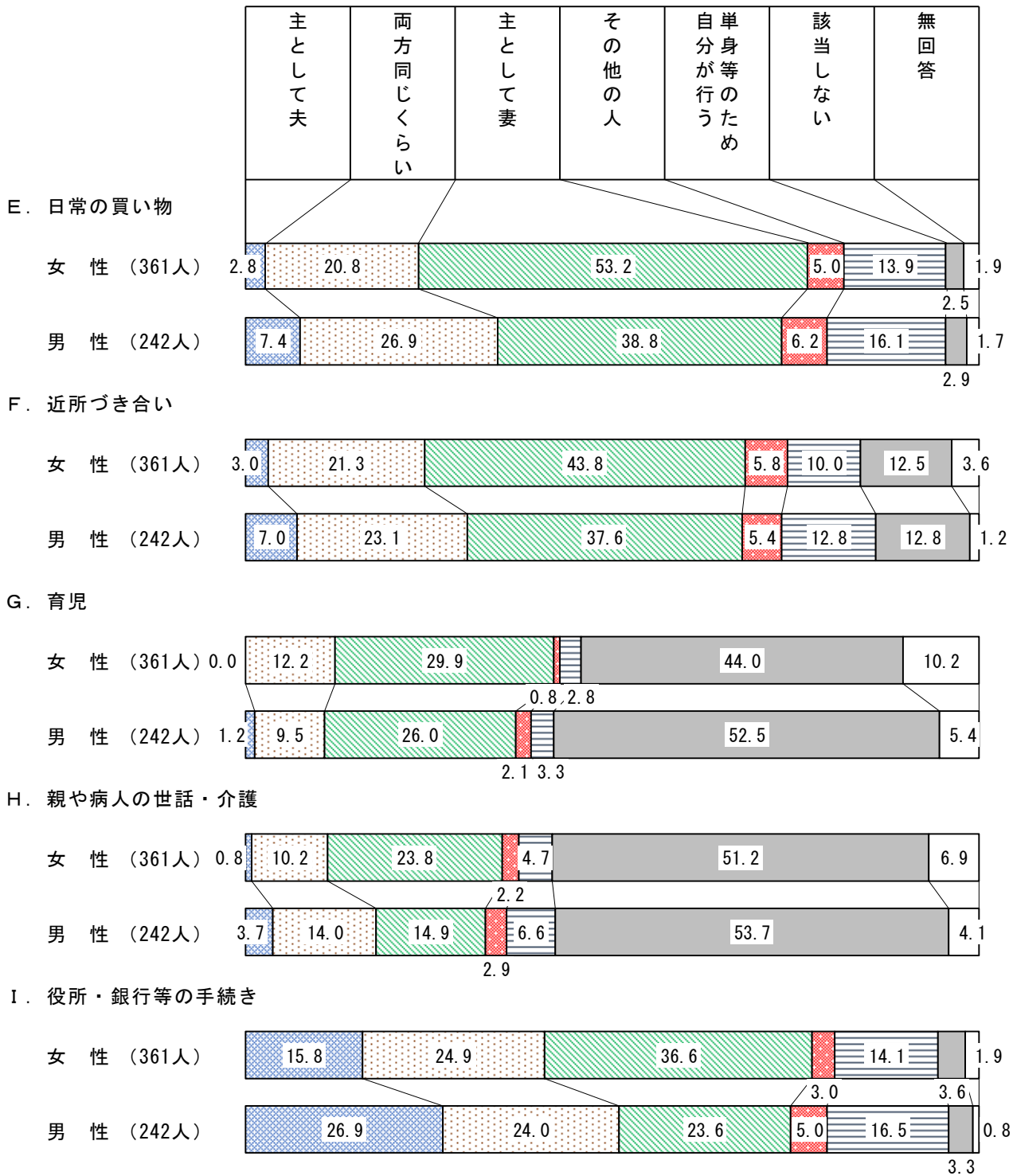
性別にみると、男女とも「A. 掃除」「B. 洗濯」「C. 食事の支度」「D. 食事のあとかたづけ」「E. 日常の買い物」「F. 近所づき合い」は「主として妻」、「G. 育児」「H. 親や病人の世話・介護」は「該当しない」が最も多い。「I. 役所・銀行等の手続き」については、女性は「主として妻」(36.6%)、男性は「主として夫」(26.9%)が最も多い。

女性はすべての項目で男性より「主として妻」が多く、「A. 掃除」(56.0%)「D. 食事のあとかたづけ」(55.7%)「E. 日常の買い物」(53.2%)「I. 役所・銀行等の手続き」は1割以上上回る。

一方、男性はすべての項目で女性より「主として夫」が多く、「I. 役所・銀行等の手続き」は1割以上上回る。「両方同じくらい」についても、「G. 育児」「I. 役所・銀行等の手続き」を除き、男性が女性より多い。



単位：%



共働きの有無別にみる「日常的な事柄の現在の役割分担」

共働きの有無別にみると、「H. 親や病人の世話・介護」はどちらも「該当しない」が最も多い。「G. 育児」は共働きの家庭は「主として妻」(46.2%)、共働きではない家庭は「該当しない」(55.4%)が最も多く、それ以外の項目はどちらも「主として妻」が最も多い。

共働きではない家庭は「B. 洗濯」「C. 食事の支度」「D. 食事のあとかたづけ」「F. 近所づき合い」で共働きの家庭より「主として妻」が多く、「B. 洗濯」(84.8%)は1割以上上回る。

一方、共働きの家庭は共働きではない家庭より「G. 育児」(46.2%)で2割近く、「H. 親や病人の世話・介護」「I. 役所・銀行等の手続き」で6ポイント以上「主として妻」が多い。

(%)

	総数 (人)	主として夫	両方同じくらい	主として妻	その他の人	自単 分 身 等 の 行 う た め	該 当 し な い	無 回 答
A. 掃除								
共働きの家庭	223	6.3	21.5	67.7	2.7	1.3	0.4	-
共働きではない家庭	224	9.8	21.0	66.1	0.9	1.3	-	0.9
B. 洗濯								
共働きの家庭	223	4.5	19.7	71.3	2.7	1.8	-	-
共働きではない家庭	224	3.1	9.4	84.8	0.4	1.3	0.4	0.4
C. 食事の支度								
共働きの家庭	223	3.1	10.8	80.7	3.6	1.3	0.4	-
共働きではない家庭	224	3.6	8.5	86.2	-	1.3	-	0.4
D. 食事のあとかたづけ								
共働きの家庭	223	9.9	20.6	63.7	4.0	1.3	0.4	-
共働きではない家庭	224	8.5	17.9	71.0	0.4	1.3	-	0.9
E. 日常の買い物								
共働きの家庭	223	3.1	28.7	65.0	1.8	1.3	-	-
共働きではない家庭	224	7.1	29.0	60.3	0.9	1.3	-	1.3
F. 近所づき合い								
共働きの家庭	223	6.3	28.7	52.0	1.8	0.9	10.3	-
共働きではない家庭	224	4.5	28.6	56.3	1.3	0.9	6.3	2.2
G. 育児								
共働きの家庭	223	-	23.3	46.2	-	-	26.9	3.6
共働きではない家庭	224	0.4	5.4	27.7	0.9	-	55.8	9.8
H. 親や病人の世話・介護								
共働きの家庭	223	0.9	17.5	30.5	2.2	0.4	46.2	2.2
共働きではない家庭	224	2.2	11.6	23.7	0.9	-	55.4	6.3
I. 役所・銀行等の手続き								
共働きの家庭	223	24.2	27.8	45.7	-	0.9	1.3	-
共働きではない家庭	224	27.7	33.0	37.5	0.4	0.9	-	0.4

※ 「結婚 (F3)」で、「既婚」か「未婚だが同居のパートナーがいる」のいずれかを回答した人のみを対象に集計した。
「本人の仕事 (F6)」と「配偶者・同居のパートナーの仕事 (F7)」で、本人、配偶者・パートナーともに「経営者」、「家族従業者」、「自由業」、「会社・団体・官公庁の管理職」、「管理職以外の一般社員・職員」、「パート・アルバイト」、「派遣・契約社員」、「家で仕事 (人に教える・内職など)」のいずれかを回答した人について「共働きの家庭」とし、それ以外の回答 (無回答を含む) については「共働きではない家庭」としている。以降の「共働きの有無別」の各設問の傾向についても同様である。

経年変化にみる「日常的な事柄の現在の役割分担」

経年変化でみると、平成17年度と比べ、男女とも「主として妻」は「A. 掃除」「B. 洗濯」「C. 食事の支度」「E. 日常の買い物」「F. 近所づき合い」で1割以上、「G. 育児」で1割前後減少した。男性は「A. 掃除」「D. 食事のあとかたづけ」「E. 日常の買い物」で「主として妻」が5割を下回っているが、女性は5割を超え、男女で1割以上差が生じている。

「両方同じくらい」については、女性は「B. 洗濯」「E. 日常の買い物」「F. 近所づき合い」、男性は「A. 掃除」「B. 洗濯」が平成17年度と比べ5ポイント以上増加し、「E. 日常の買い物」「F. 近所づき合い」「I. 役所・銀行等の手続き」は男女とも2割を超えた。

(%)

	年 度	主として夫		両方 同じくらい		主として妻		その他・ 無回答など	
		女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
A. 掃除	令和4年度	5.3	9.1	15.0	20.7	56.0	43.4	23.8	26.9
	平成26年度	3.1	6.7	9.7	14.4	66.4	63.0	20.7	15.9
	平成21年度	2.6	5.6	10.4	15.8	66.2	63.7	20.8	14.9
	平成17年度	2.5	7.7	11.1	14.4	71.2	67.0	15.1	10.8
B. 洗濯	令和4年度	3.0	4.5	9.7	15.7	62.6	53.3	24.7	26.4
	平成26年度	1.4	5.0	6.2	8.9	70.9	70.1	21.5	16.1
	平成21年度	2.3	5.6	5.6	8.5	71.7	70.3	20.3	15.5
	平成17年度	2.0	5.3	3.9	7.2	78.2	76.6	15.8	10.8
C. 食事の支度	令和4年度	1.1	6.2	6.9	9.5	67.6	57.9	24.4	26.4
	平成26年度	1.4	3.7	6.4	8.5	71.3	71.7	21.0	16.1
	平成21年度	2.2	4.1	5.6	7.3	71.1	72.9	21.1	15.8
	平成17年度	0.7	5.2	4.2	5.7	79.9	77.8	15.2	11.3
D. 食事のあとかたづけ	令和4年度	4.4	11.2	15.0	17.8	55.7	43.4	24.9	27.7
	平成26年度	3.7	7.8	11.6	20.3	62.7	55.8	22.0	16.1
E. 日常の買い物	令和4年度	2.8	7.4	20.8	26.9	53.2	38.8	23.3	26.9
	平成26年度	2.2	5.7	15.3	25.9	61.7	53.2	20.8	15.2
	平成21年度	2.9	5.8	15.2	19.8	61.3	58.3	20.7	16.1
	平成17年度	2.1	6.4	14.3	23.9	68.3	58.2	15.3	11.5
F. 近所づき合い	令和4年度	3.0	7.0	21.3	23.1	43.8	37.6	31.9	32.2
	平成26年度	1.6	6.8	16.9	27.4	56.2	46.4	25.3	19.4
	平成21年度	1.5	5.9	20.4	26.6	53.5	49.0	24.7	18.4
	平成17年度	1.0	5.3	16.0	23.0	63.9	55.2	19.0	16.5
G. 育児	令和4年度	-	1.2	12.2	9.5	29.9	26.0	57.9	63.2
	平成26年度	-	0.2	6.8	7.4	35.0	27.0	58.2	65.4
	平成21年度	0.2	0.5	7.5	6.6	31.7	24.2	60.5	68.6
	平成17年度	0.3	0.5	8.7	8.6	43.0	35.4	48.1	55.4
H. 親や病人の世話・介護	令和4年度	0.8	3.7	10.2	14.0	23.8	14.9	65.1	67.4
	平成26年度	0.5	3.1	9.5	8.9	25.3	18.7	64.7	69.3
	平成21年度	0.6	3.2	6.7	7.6	23.0	17.3	69.7	71.9
	平成17年度	0.7	1.9	11.0	11.7	21.9	14.3	66.4	72.2
I. 役所・銀行等の手続き	令和4年度	15.8	26.9	24.9	24.0	36.6	23.6	22.7	25.6
	平成26年度	12.2	27.7	21.7	26.1	45.9	31.8	20.3	14.3

※ 経年変化では、過去に実施してきた柏市の、男女共同参画実態調査における同様の質問の結果と比較している。
平成17年度については、「育児」は「子どものしつけ」として「その他の人」「該当しない」については、「その他・無回答など」に含めて表記している。すべての設問は回答者すべてを対象としている。

(2) 日常的な事柄の理想的な役割分担

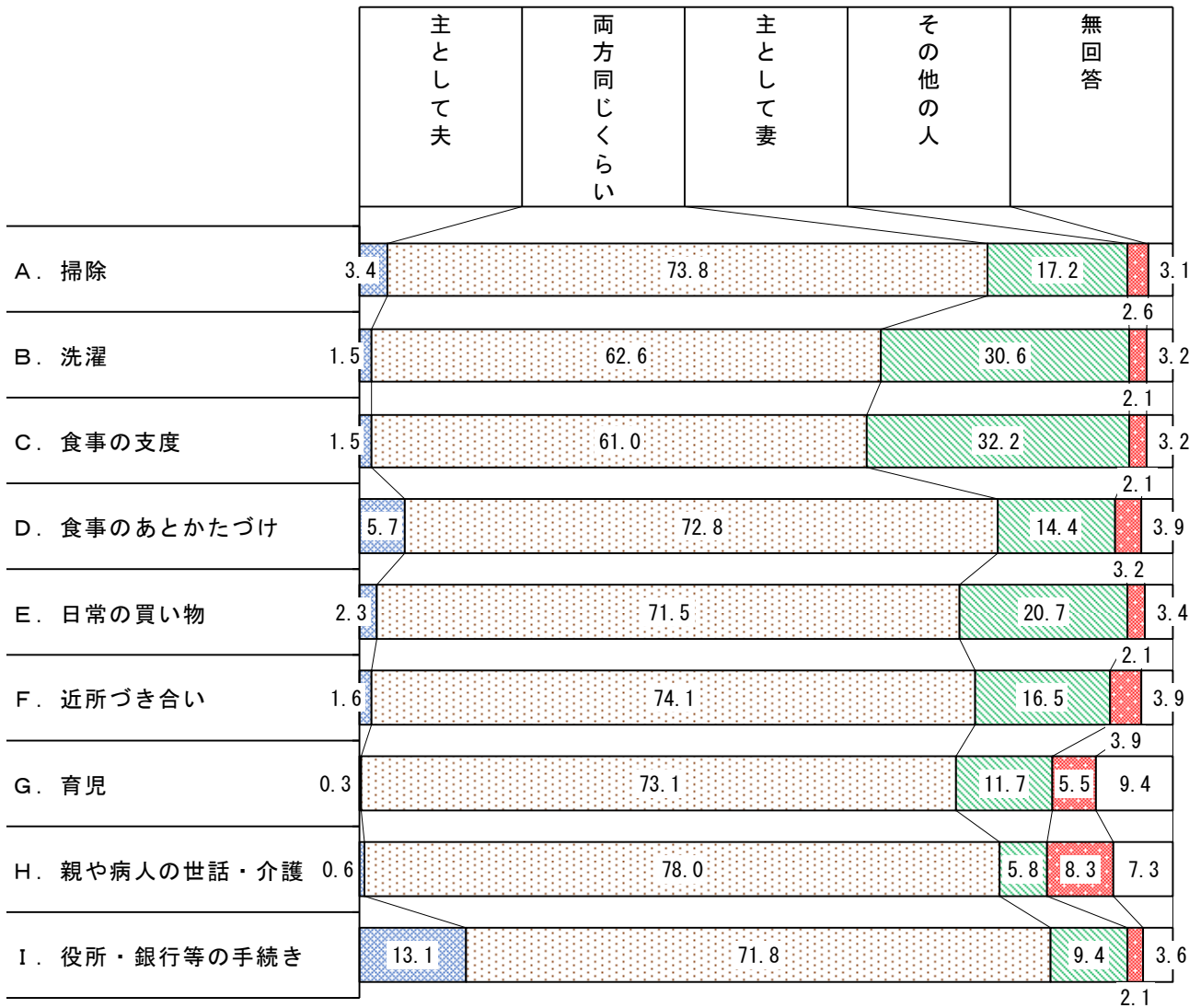
問2 次のような日常的な事柄は、主に誰がするのが理想的だと思いますか。

(A～Iのそれぞれについて、1～4のどれかにひとつずつ〇)

日常的な事柄の理想的な担い手については、すべての項目で「両方同じくらい」が6割を超え、最も多い。「主として妻」は「B. 洗濯」(30.6%)「C. 食事の支度」(32.2%)で3割を超える。

(n=618人)

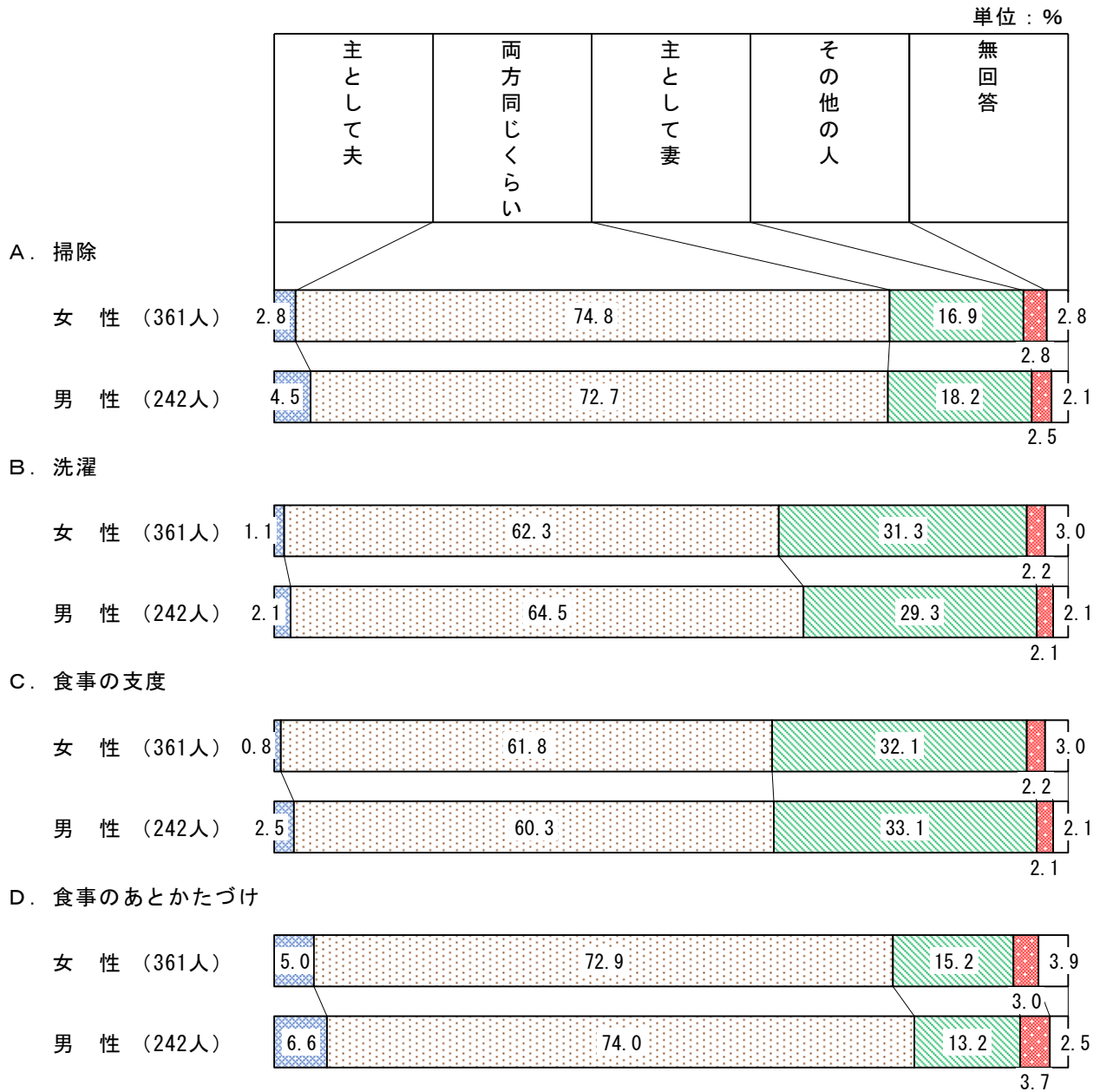
単位：%



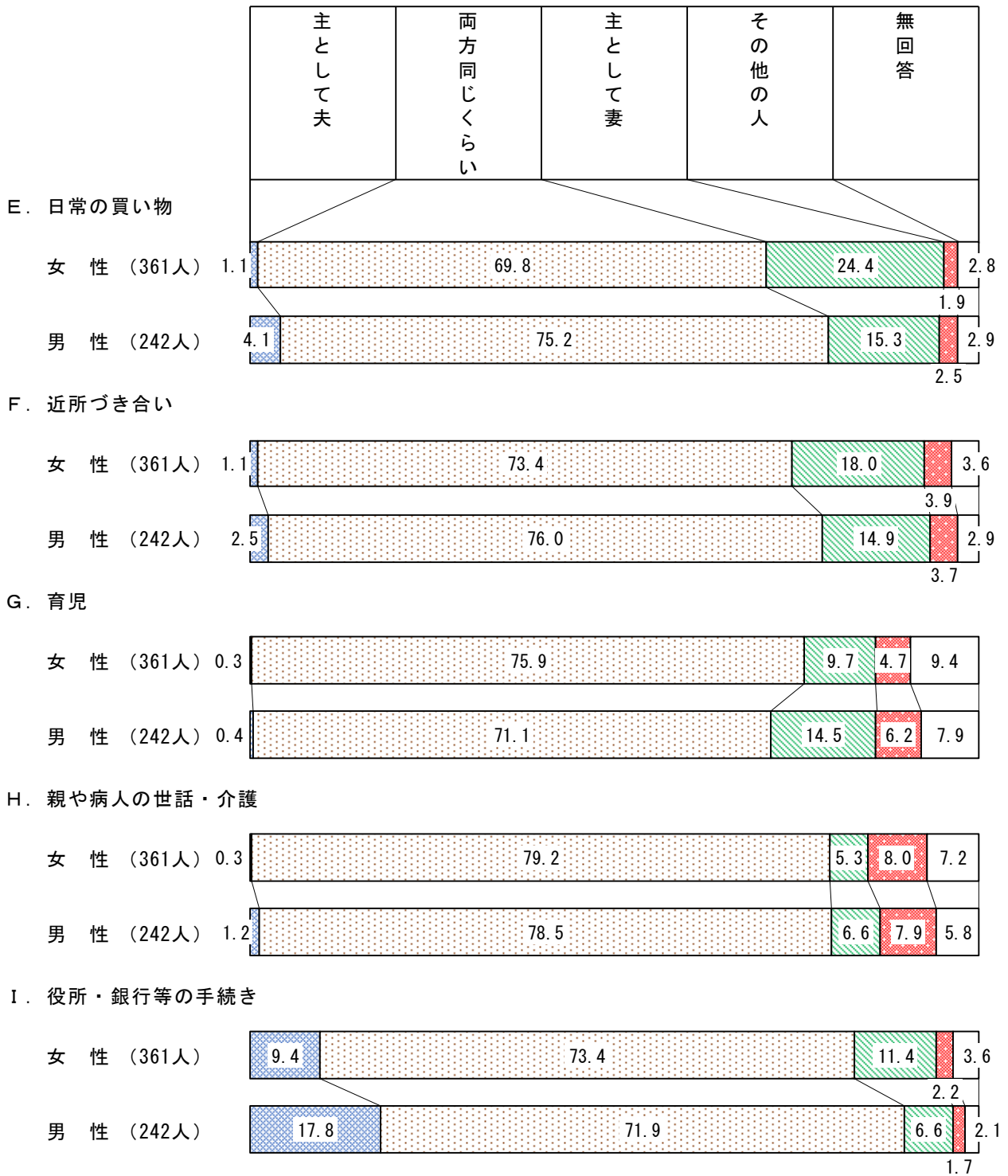
性別にみる「日常的な事柄の理想的な役割分担」

性別にみると、男女ともすべての項目で「両方同じくらい」が6割を超え、最も多い。

女性は「E. 日常の買い物」を「主として妻」(24.4%)とする回答が男性(15.3%)より9.1ポイント多く、男性は「I. 役所・銀行等の手続き」を「主として夫」(17.8%)とする回答が女性(9.4%)より8.4ポイント多い。



単位：%



性別で役割を分担する考え方（問 19）にみる「日常的な事柄の理想的な役割分担」

性別で役割を分担する考え方別にみると、どちらもすべての項目で「両方同じくらい」が5割を超え、最も多い。

『反対派』はすべての項目で「両方同じくらい」が『賛成派』より多く、「A. 掃除」(82.8%)「B. 洗濯」(71.2%)「C. 食事の支度」(70.0%)「G. 育児」(80.1%)「I. 役所・銀行等の手続き」(77.4%)は1割以上上回る。一方、『賛成派』はすべての項目で「主として妻」が『反対派』より多く、「A. 掃除」(29.3%)「B. 洗濯」(45.6%)「C. 食事の支度」(40.8%)「D. 食事のあとかたづけ」(21.8%)「G. 育児」(21.8%)は1割以上上回る。『賛成派』は「B. 洗濯」「C. 食事の支度」で「両方同じくらい」「主として妻」が4～5割で近接する一方、『反対派』は「両方同じくらい」が7割を超え、「主として妻」より5割近く多い。

							(%)
	総数 (人)	主として夫	両方同じくらい	主として妻	その他の人	無回答	
A. 掃除							
賛成派	147	4.8	63.9	29.3	1.4	0.7	
反対派	337	2.4	82.8	9.8	3.3	1.8	
B. 洗濯							
賛成派	147	1.4	50.3	45.6	1.4	1.4	
反対派	337	2.1	71.2	22.6	2.4	1.8	
C. 食事の支度							
賛成派	147	2.0	54.4	40.8	1.4	1.4	
反対派	337	1.5	70.0	24.0	2.4	2.1	
D. 食事のあとかたづけ							
賛成派	147	6.1	68.7	21.8	2.0	1.4	
反対派	337	6.2	76.6	10.7	3.6	3.0	
E. 日常の買い物							
賛成派	147	4.8	70.7	21.1	2.0	1.4	
反対派	337	1.5	77.4	16.6	2.1	2.4	
F. 近所づき合い							
賛成派	147	3.4	72.8	18.4	3.4	2.0	
反対派	337	1.2	78.9	13.6	3.9	2.4	
G. 育児							
賛成派	147	1.4	61.2	21.8	6.1	9.5	
反対派	337	-	80.1	8.6	4.7	6.5	
H. 親や病人の世話・介護							
賛成派	147	2.0	74.1	10.2	8.2	5.4	
反対派	337	0.3	82.5	3.9	7.7	5.6	
I. 役所・銀行等の手続き							
賛成派	147	18.4	67.3	11.6	1.4	1.4	
反対派	337	10.1	77.4	8.3	2.1	2.1	

共働きの有無別にみる「日常的な事柄の理想的な役割分担」

共働きの有無別にみると、どちらもすべての項目で「両方同じくらい」が5割を超え、最も多い。

共働きの家庭はすべての項目で「両方同じくらい」が共働きではないより多く、「B. 洗濯」(70.0%)「G. 育児」(84.8%)は1割以上上回る。一方、共働きではない家庭は「B. 洗濯」(42.4%)で「主として妻」が共働きの家庭より14.1ポイント多い。「B. 洗濯」「C. 食事の支度」については、共働きではない家庭は「両方同じくらい」「主として妻」が4～5割で近接する一方、共働きの家庭は「両方同じくらい」が「主として妻」より3割以上多い。

(%)						
	総数 (人)	主として 夫	両方 同じく らい	主として 妻	その 他の 人	無 回 答
A. 掃除						
共働きの家庭	223	3.6	78.5	17.5	0.4	-
共働きではない家庭	224	4.5	71.9	20.5	0.9	2.2
B. 洗濯						
共働きの家庭	223	1.3	70.0	28.3	0.4	-
共働きではない家庭	224	1.3	54.0	42.4	0.4	1.8
C. 食事の支度						
共働きの家庭	223	1.8	64.1	33.6	0.4	-
共働きではない家庭	224	0.9	55.8	42.0	-	1.3
D. 食事のあとかたづけ						
共働きの家庭	223	6.7	76.7	14.3	2.2	-
共働きではない家庭	224	4.5	73.7	18.3	0.4	3.1
E. 日常の買い物						
共働きの家庭	223	1.8	74.9	22.9	0.4	-
共働きではない家庭	224	3.1	70.1	25.0	-	1.8
F. 近所づき合い						
共働きの家庭	223	2.7	79.8	16.6	0.9	-
共働きではない家庭	224	0.9	74.1	19.2	2.7	3.1
G. 育児						
共働きの家庭	223	0.4	84.8	10.3	2.2	2.2
共働きではない家庭	224	-	66.5	14.3	5.8	13.4
H. 親や病人の世話・介護						
共働きの家庭	223	0.4	85.2	7.2	5.8	1.3
共働きではない家庭	224	0.4	76.8	5.4	8.0	9.4
I. 役所・銀行等の手続き						
共働きの家庭	223	12.6	75.3	10.8	0.4	0.9
共働きではない家庭	224	17.4	73.2	7.6	-	1.8

経年変化にみる「日常的な事柄の理想的な役割分担」

経年変化でみると、平成17・26年度と比べ、男女ともすべての項目で「両方同じくらい」が多くなっている。平成26年度時点で「両方同じくらい」が5割未満であった「B. 洗濯」「C. 食事の支度」についても令和4年度は6割を超え、すべての項目で「両方同じくらい」が過半数を占めている。

一方、「主として妻」は男女ともすべての項目で平成17・26年度を下回り、「A. 掃除」「B. 洗濯」「C. 食事の支度」は2割以上、「E. 日常の買い物」は2割前後少なくなっている。

(%)

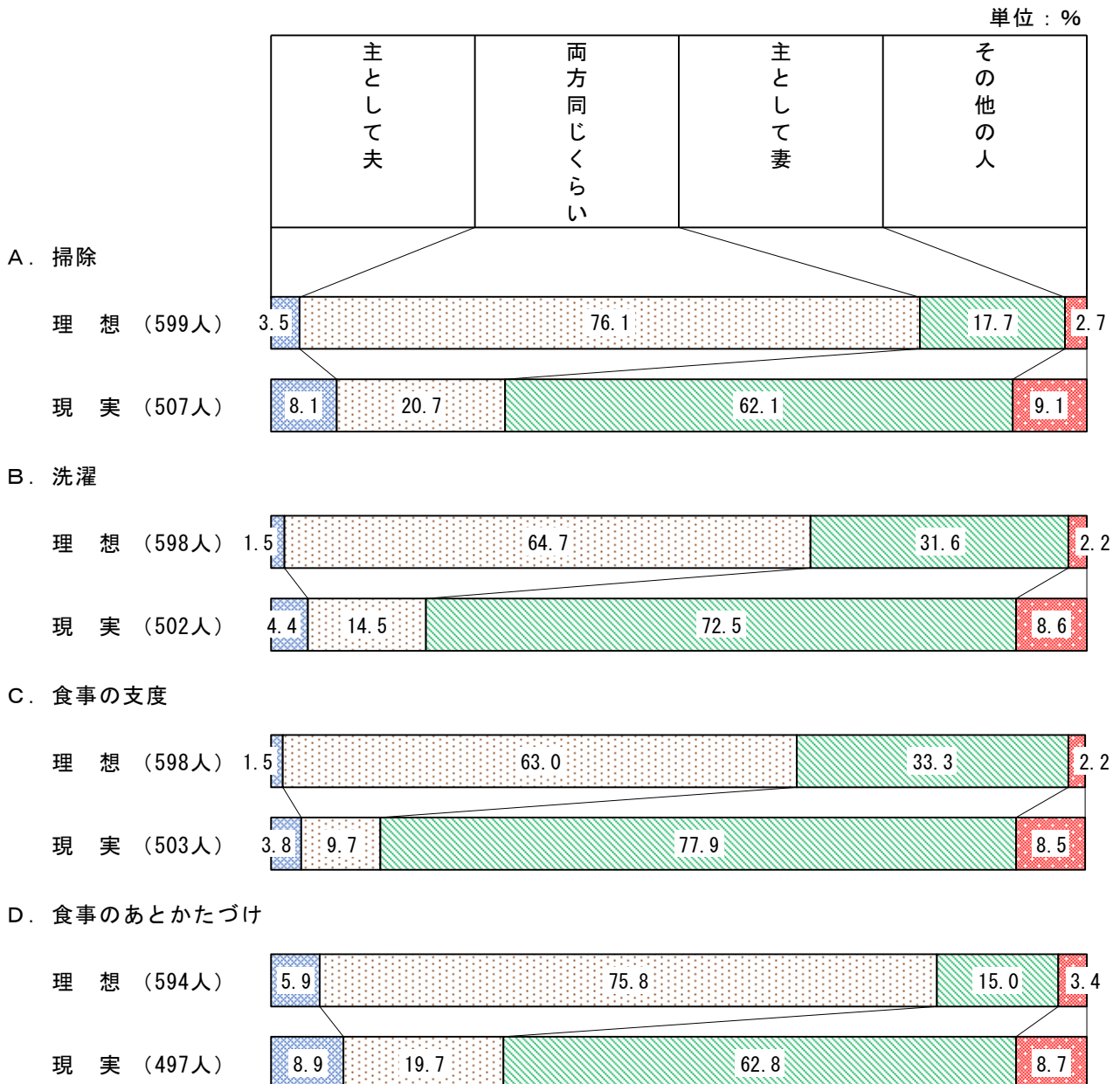
	年 度	主として夫		両方 同じくらい		主として妻		その他の人		無回答	
		女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
A. 掃除	令和4年度	2.8	4.5	74.8	72.7	16.9	18.2	2.8	2.5	2.8	2.1
	平成26年度	2.6	2.0	57.4	57.9	34.5	35.1	1.5	1.5	4.1	3.5
	平成21年度	1.5	2.2	55.8	52.2	36.7	41.7	2.0	1.2	4.1	2.7
	平成17年度	2.2	1.9	52.8	50.5	37.4	40.5	1.5	1.5	6.0	5.5
B. 洗濯	令和4年度	1.1	2.1	62.3	64.5	31.3	29.3	2.2	2.1	3.0	2.1
	平成26年度	0.4	0.9	41.5	45.5	52.1	49.0	1.6	1.1	4.3	3.5
	平成21年度	0.9	1.4	36.3	38.3	56.6	56.4	1.9	1.0	4.3	2.9
	平成17年度	0.6	0.2	34.8	36.4	57.2	57.0	1.4	1.2	6.0	5.2
C. 食事の支度	令和4年度	0.8	2.5	61.8	60.3	32.1	33.1	2.2	2.1	3.0	2.1
	平成26年度	1.1	0.4	42.1	36.8	51.7	57.9	1.1	1.5	4.1	3.5
	平成21年度	0.7	1.2	38.4	31.9	54.8	62.9	2.0	1.2	4.2	2.9
	平成17年度	-	0.2	35.3	32.0	56.6	61.2	1.8	1.2	6.3	5.5
D. 食事のあとかたづけ	令和4年度	5.0	6.6	72.9	74.0	15.2	13.2	3.0	3.7	3.9	2.5
	平成26年度	5.0	5.9	62.0	61.0	27.1	27.9	1.6	1.8	4.3	3.3
E. 日常の買い物	令和4年度	1.1	4.1	69.8	75.2	24.4	15.3	1.9	2.5	2.8	2.9
	平成26年度	0.4	1.8	56.3	60.8	37.9	32.5	1.2	1.5	4.2	3.3
	平成21年度	0.9	1.5	51.4	53.6	41.1	40.5	2.0	1.4	4.6	3.1
	平成17年度	0.6	1.0	48.9	52.7	42.3	38.7	1.7	1.4	6.6	6.2
F. 近所づき合い	令和4年度	1.1	2.5	73.4	76.0	18.0	14.9	3.9	3.7	3.6	2.9
	平成26年度	1.2	1.5	70.4	73.6	21.9	18.9	2.0	1.1	4.5	5.0
	平成21年度	0.8	2.2	70.4	69.5	21.6	22.9	2.1	2.0	5.1	3.4
	平成17年度	0.4	0.9	66.3	62.5	23.7	28.4	1.8	1.0	7.7	7.2
G. 育児	令和4年度	0.3	0.4	75.9	71.1	9.7	14.5	4.7	6.2	9.4	7.9
	平成26年度	0.1	0.2	68.2	59.1	15.2	21.8	4.1	4.8	12.4	14.0
	平成21年度	0.2	0.2	66.9	58.8	14.3	19.8	3.8	5.1	14.7	16.1
	平成17年度	-	0.2	65.6	55.5	17.8	24.7	2.1	2.6	14.5	17.0
H. 親や病人の世話・介護	令和4年度	0.3	1.2	79.2	78.5	5.3	6.6	8.0	7.9	7.2	5.8
	平成26年度	0.4	1.1	75.2	71.9	9.9	10.2	4.5	5.7	10.0	11.1
	平成21年度	0.3	1.2	77.1	71.2	6.0	9.8	4.5	5.1	11.9	12.7
	平成17年度	0.3	0.7	72.8	68.2	8.4	10.1	5.6	5.3	12.9	15.6
I. 役所・銀行等の手続き	令和4年度	9.4	17.8	73.4	71.9	11.4	6.6	2.2	1.7	3.6	2.1
	平成26年度	7.8	18.1	66.4	64.0	20.2	13.5	0.9	0.9	4.6	3.5

(3) 理想と現実における日常的な事柄の役割分担

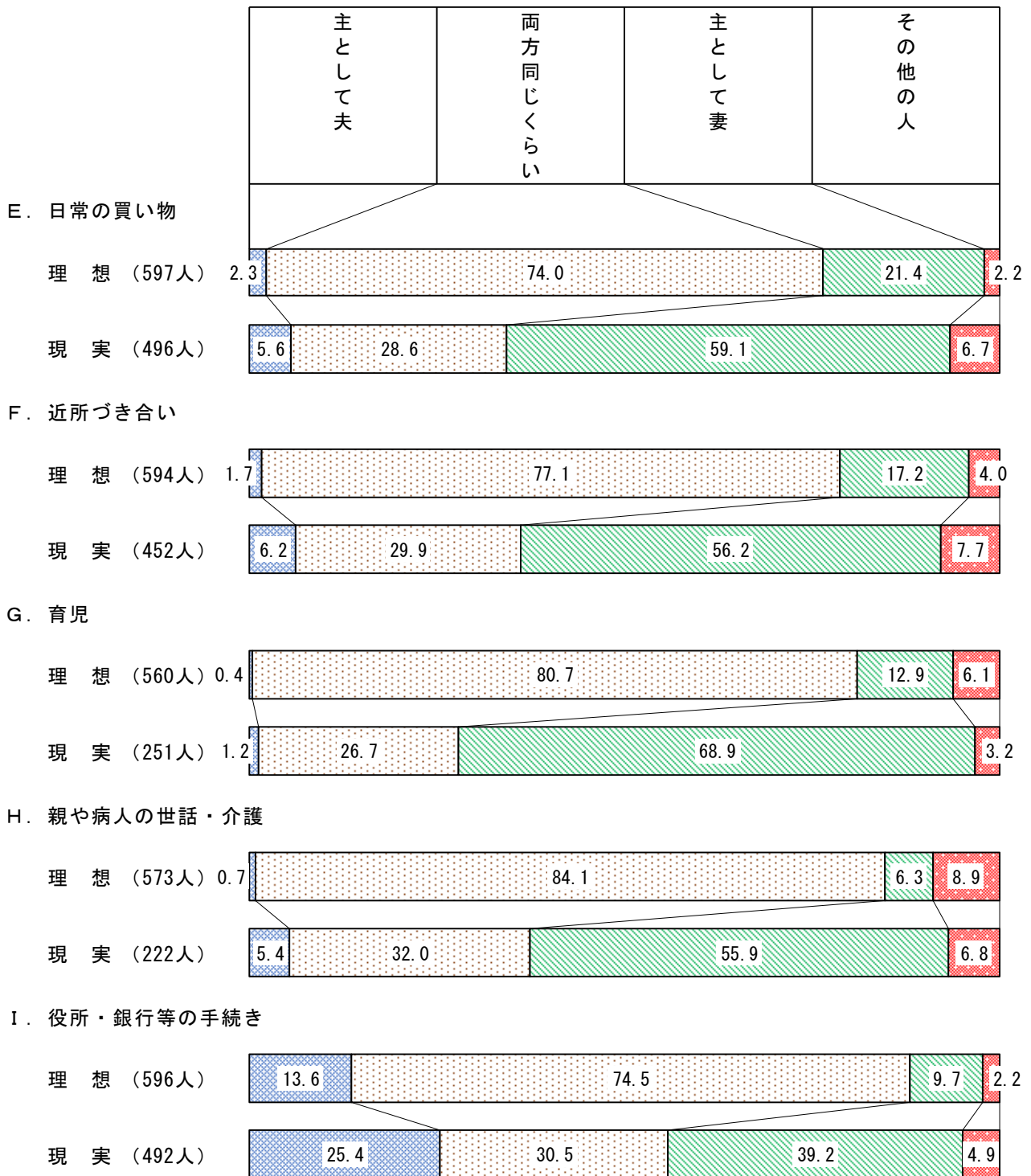
※問1、問2の回答のうち、「単身等のため自分が行う」、「該当しない」、「無回答」を除いて割合を算出したものを比較した。

理想的な役割分担と現実との違いについては、すべての項目で「両方同じくらい」を理想とする割合が6割を超える一方、現実はいずれも半数に満たず、「A. 掃除」(理想76.1%、現実20.7%)「B. 洗濯」(理想64.7%、現実14.5%)「C. 食事の支度」(理想63.0%、現実9.7%)「D. 食事のあとかたづけ」(理想75.8%、現実19.7%)「G. 育児」(理想80.7%、現実26.7%)は5割以上差が生じている。

「主として夫」「主として妻」はいずれも理想より現実が多くなっているが、「主として夫」は「I. 役所・銀行等の手続き」(理想13.6%、現実25.4%)以外の項目で理想、現実とも1割未満であるのに対し、「主として妻」は「I. 役所・銀行等の手続き」以外の項目で現実5割以上、理想も「B. 洗濯」(31.6%)「C. 食事の支度」(33.3%)など「主として夫」より多くなっている。



単位：%

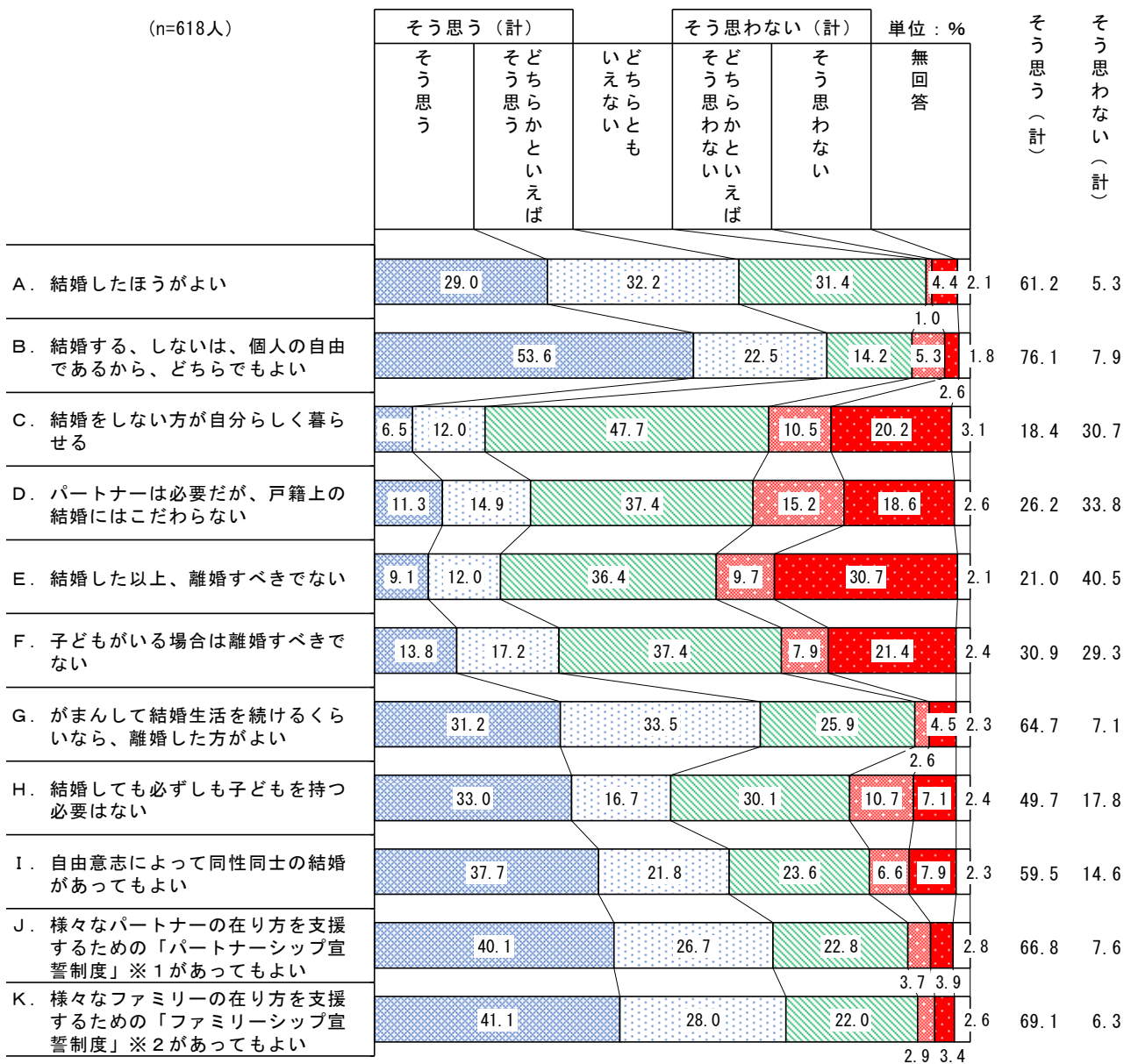


(4) 結婚や離婚に関する考え方

問3 結婚や離婚についてどう思いますか。

(A~Kのそれぞれについて、1~5のどれかにひとつずつ〇)

結婚観については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、「B. 結婚する、しないは、個人の自由であるから、どちらでもよい」が76.1%で最も多く、次いで「K. 様々なファミリーの在り方を支援するための「ファミリーシップ宣誓制度」があってもよい」(69.1%)となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』は、「E. 結婚した以上、離婚すべきでない」が40.5%で最も多く、次いで「D. パートナーは必要だが、戸籍上の結婚にはこだわらない」(33.8%)となっている。



性・年代別にみる「結婚や離婚に関する考え方」

A. 結婚したほうがよい

性・年代別にみると、男性は20歳以上で『そう思う（計）』が5割を超える。一方、女性は30～50歳代で『そう思う（計）』と「どちらともいえない」が同程度となっており、『そう思う（計）』は男性（72.7%）が女性（54.3%）より18.4ポイント多い。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）			無回答	（%）	
		そう 思う	そい ど え ち ら か と 思 ば ら か と	い ど え ち ら な い と も	そい ど え ち ら わ な い	そ う 思 わ な い	そ う 思 う （ 計）		そ う 思 わ な い （ 計）	
全 体	618	29.0	32.2	31.4	1.0	4.4	2.1	61.2	5.3	
女性（全体）	361	21.3	33.0	37.1	1.1	5.0	2.5	54.3	6.1	
10歳代	3	-	33.3	33.3	-	33.3	-	33.3	33.3	
20歳代	24	16.7	41.7	25.0	-	16.7	-	58.3	16.7	
30歳代	54	22.2	24.1	46.3	1.9	5.6	-	46.3	7.4	
40歳代	62	16.1	27.4	48.4	1.6	6.5	-	43.5	8.1	
50歳代	63	14.3	33.3	46.0	-	6.3	-	47.6	6.3	
60歳代	59	28.8	37.3	27.1	1.7	3.4	1.7	66.1	5.1	
70歳以上	95	26.3	35.8	28.4	1.1	-	8.4	62.1	1.1	
男性（全体）	242	40.5	32.2	22.7	0.4	3.7	0.4	72.7	4.1	
10歳代	3	-	33.3	33.3	-	33.3	-	33.3	33.3	
20歳代	17	23.5	41.2	23.5	5.9	5.9	-	64.7	11.8	
30歳代	28	32.1	25.0	35.7	-	7.1	-	57.1	7.1	
40歳代	40	35.0	32.5	30.0	-	-	2.5	67.5	-	
50歳代	40	30.0	37.5	25.0	-	7.5	-	67.5	7.5	
60歳代	40	45.0	37.5	17.5	-	-	-	82.5	-	
70歳以上	74	55.4	27.0	14.9	-	2.7	-	82.4	2.7	

B. 結婚する、しないは、個人の自由であるから、どちらでもよい

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『そう思う（計）』が過半数を占めるが、70歳以上は他の年代に比べ少ない。全体では『そう思う（計）』は女性（80.3%）が男性（69.8%）より10.5ポイント多い。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）			無回答	（%）	
		そう 思う	そい ど え ち ら か と 思 ば ら か と	い ど え ち ら な い と も	そい ど え ち ら わ な い	そ う 思 わ な い	そ う 思 う （ 計）		そ う 思 わ な い （ 計）	
全 体	618	53.6	22.5	14.2	5.3	2.6	1.8	76.1	7.9	
女性（全体）	361	57.6	22.7	13.3	4.2	1.4	0.8	80.3	5.5	
10歳代	3	66.7	33.3	-	-	-	-	100.0	-	
20歳代	24	83.3	8.3	4.2	4.2	-	-	91.7	4.2	
30歳代	54	83.3	13.0	1.9	-	1.9	-	96.3	1.9	
40歳代	62	74.2	11.3	11.3	3.2	-	-	85.5	3.2	
50歳代	63	58.7	22.2	15.9	3.2	-	-	81.0	3.2	
60歳代	59	42.4	33.9	11.9	8.5	3.4	-	76.3	11.9	
70歳以上	95	34.7	31.6	23.2	5.3	2.1	3.2	66.3	7.4	
男性（全体）	242	47.5	22.3	16.5	7.4	4.5	1.7	69.8	12.0	
10歳代	3	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	
20歳代	17	70.6	11.8	17.6	-	-	-	82.4	-	
30歳代	28	60.7	25.0	7.1	7.1	-	-	85.7	7.1	
40歳代	40	55.0	22.5	15.0	-	5.0	2.5	77.5	5.0	
50歳代	40	50.0	20.0	22.5	7.5	-	-	70.0	7.5	
60歳代	40	45.0	25.0	17.5	5.0	7.5	-	70.0	12.5	
70歳以上	74	31.1	24.3	17.6	14.9	8.1	4.1	55.4	23.0	

C. 結婚をしない方が自分らしく暮らせる

性・年代別にみると、男性は年代が上がるにつれ『そう思う（計）』が減少し、『そう思わない（計）』が増加する傾向にあり、70歳以上は『そう思わない（計）』（52.7%）が5割を超える。女性も30歳以上で『そう思わない（計）』が『そう思う（計）』を上回る。全体として「どちらともいえない」が女性（50.7%）、男性（43.4%）とも最も多く、『そう思わない（計）』は男性（36.8%）が女性（27.1%）より9.7ポイント多い。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）			無回答	（%）	
		そう 思う	そい ど え ち ら か と	い ど え ち ら な い と も	そい ど え ち ら か と	そ う 思 わ な い	そ う 思 う （ 計）		そ う 思 わ な い （ 計）	
全 体	618	6.5	12.0	47.7	10.5	20.2	3.1	18.4	30.7	
女性（全体）	361	5.0	13.9	50.7	11.1	16.1	3.3	18.8	27.1	
10歳代	3	-	66.7	33.3	-	-	-	66.7	-	
20歳代	24	16.7	12.5	50.0	12.5	4.2	4.2	29.2	16.7	
30歳代	54	3.7	13.0	61.1	7.4	13.0	1.9	16.7	20.4	
40歳代	62	6.5	21.0	38.7	14.5	19.4	-	27.4	33.9	
50歳代	63	4.8	19.0	49.2	15.9	11.1	-	23.8	27.0	
60歳代	59	3.4	8.5	52.5	13.6	22.0	-	11.9	35.6	
70歳以上	95	3.2	8.4	53.7	6.3	17.9	10.5	11.6	24.2	
男性（全体）	242	8.7	9.5	43.4	9.9	26.9	1.7	18.2	36.8	
10歳代	3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	66.7	-	
20歳代	17	11.8	23.5	47.1	5.9	11.8	-	35.3	17.6	
30歳代	28	10.7	21.4	35.7	7.1	25.0	-	32.1	32.1	
40歳代	40	12.5	15.0	40.0	5.0	25.0	2.5	27.5	30.0	
50歳代	40	2.5	7.5	62.5	10.0	17.5	-	10.0	27.5	
60歳代	40	5.0	7.5	47.5	5.0	32.5	2.5	12.5	37.5	
70歳以上	74	9.5	-	35.1	17.6	35.1	2.7	9.5	52.7	

D. パートナーは必要だが、戸籍上の結婚にはこだわらない

性・年代別にみると、『そう思わない（計）』は女性20歳代（45.8%）、男性60歳以上で4割を超え、男性70歳以上（52.7%）は5割を超える。全体として女性は「どちらともいえない」（38.8%）、男性は『そう思わない（計）』（38.0%）が最も多い。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）			無回答	（%）	
		そう 思う	そい ど え ち ら か と	い ど え ち ら な い と も	そい ど え ち ら か と	そ う 思 わ な い	そ う 思 う （ 計）		そ う 思 わ な い （ 計）	
全 体	618	11.3	14.9	37.4	15.2	18.6	2.6	26.2	33.8	
女性（全体）	361	12.2	15.0	38.8	16.6	15.0	2.5	27.1	31.6	
10歳代	3	66.7	-	33.3	-	-	-	66.7	-	
20歳代	24	4.2	20.8	29.2	33.3	12.5	-	25.0	45.8	
30歳代	54	9.3	14.8	40.7	20.4	14.8	-	24.1	35.2	
40歳代	62	12.9	12.9	51.6	6.5	16.1	-	25.8	22.6	
50歳代	63	14.3	19.0	36.5	15.9	14.3	-	33.3	30.2	
60歳代	59	10.2	13.6	40.7	23.7	11.9	-	23.7	35.6	
70歳以上	95	12.6	13.7	32.6	13.7	17.9	9.5	26.3	31.6	
男性（全体）	242	10.3	14.9	35.1	14.0	24.0	1.7	25.2	38.0	
10歳代	3	-	33.3	66.7	-	-	-	33.3	-	
20歳代	17	5.9	17.6	52.9	17.6	5.9	-	23.5	23.5	
30歳代	28	17.9	17.9	32.1	10.7	21.4	-	35.7	32.1	
40歳代	40	12.5	15.0	37.5	15.0	17.5	2.5	27.5	32.5	
50歳代	40	12.5	20.0	40.0	10.0	17.5	-	32.5	27.5	
60歳代	40	7.5	10.0	42.5	17.5	22.5	-	17.5	40.0	
70歳以上	74	8.1	12.2	23.0	14.9	37.8	4.1	20.3	52.7	

E. 結婚した以上、離婚すべきでない

性・年代別にみると、女性はすべての年代で『そう思わない（計）』が『そう思う（計）』より多い。一方、男性は30～40歳代、60歳以上で『そう思う（計）』が『そう思わない（計）』より多く、40歳代（40.0%）は4割を占める。全体として女性は『そう思わない（計）』（46.8%）、男性は「どちらともいえない」（37.6%）が最も多く、前者は男性（29.8%）を17.0ポイント上回る。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）			無回答	（%）	
		そう 思う	そい どえ ち ら か と	い ど え ち ら い と も	そい ど え ち ら か と	そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い （ 計）		そ う 思 わ な い （ 計）	
全 体	618	9.1	12.0	36.4	9.7	30.7	2.1	21.0	40.5	
女性（全体）	361	4.7	10.0	36.6	9.7	37.1	1.9	14.7	46.8	
10歳代	3	-	-	-	33.3	33.3	33.3	-	66.7	
20歳代	24	12.5	20.8	29.2	8.3	29.2	-	33.3	37.5	
30歳代	54	5.6	13.0	33.3	13.0	35.2	-	18.5	48.1	
40歳代	62	-	6.5	32.3	6.5	54.8	-	6.5	61.3	
50歳代	63	-	15.9	34.9	14.3	33.3	1.6	15.9	47.6	
60歳代	59	1.7	3.4	49.2	5.1	40.7	-	5.1	45.8	
70歳以上	95	10.5	8.4	37.9	9.5	28.4	5.3	18.9	37.9	
男性（全体）	242	15.7	15.7	37.6	9.9	19.8	1.2	31.4	29.8	
10歳代	3	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-	66.7	
20歳代	17	23.5	11.8	29.4	23.5	11.8	-	35.3	35.3	
30歳代	28	14.3	25.0	25.0	3.6	32.1	-	39.3	35.7	
40歳代	40	25.0	15.0	30.0	5.0	22.5	2.5	40.0	27.5	
50歳代	40	5.0	10.0	37.5	15.0	32.5	-	15.0	47.5	
60歳代	40	15.0	17.5	57.5	7.5	2.5	-	32.5	10.0	
70歳以上	74	16.2	16.2	37.8	9.5	17.6	2.7	32.4	27.0	

F. 子どもがいる場合は離婚すべきでない

性・年代別にみると、女性は20歳代、70歳以上を除き『そう思わない（計）』が『そう思う（計）』より多い。一方、男性は50歳代を除き『そう思う（計）』が『そう思わない（計）』より多く、40歳代以下で5割以上となっている。全体として女性は「どちらともいえない」（40.4%）、男性は『そう思う（計）』（44.6%）が最も多く、後者は女性（23.0%）を21.6ポイント上回る。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）			無回答	（%）	
		そう 思う	そい どえ ち ら か と	い ど え ち ら い と も	そい ど え ち ら か と	そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い （ 計）		そ う 思 わ な い （ 計）	
全 体	618	13.8	17.2	37.4	7.9	21.4	2.4	30.9	29.3	
女性（全体）	361	8.6	14.4	40.4	9.1	24.9	2.5	23.0	34.1	
10歳代	3	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-	66.7	
20歳代	24	16.7	29.2	33.3	12.5	8.3	-	45.8	20.8	
30歳代	54	13.0	13.0	40.7	9.3	24.1	-	25.9	33.3	
40歳代	62	1.6	17.7	40.3	3.2	37.1	-	19.4	40.3	
50歳代	63	3.2	15.9	41.3	12.7	27.0	-	19.0	39.7	
60歳代	59	3.4	10.2	47.5	10.2	28.8	-	13.6	39.0	
70歳以上	95	15.8	11.6	37.9	8.4	16.8	9.5	27.4	25.3	
男性（全体）	242	22.3	22.3	34.3	5.8	14.0	1.2	44.6	19.8	
10歳代	3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	66.7	-	
20歳代	17	35.3	17.6	29.4	11.8	5.9	-	52.9	17.6	
30歳代	28	21.4	28.6	35.7	3.6	10.7	-	50.0	14.3	
40歳代	40	30.0	20.0	20.0	5.0	22.5	2.5	50.0	27.5	
50歳代	40	7.5	22.5	35.0	15.0	20.0	-	30.0	35.0	
60歳代	40	22.5	22.5	52.5	2.5	-	-	45.0	2.5	
70歳以上	74	23.0	21.6	32.4	2.7	17.6	2.7	44.6	20.3	

G. がまんして結婚生活を続けるくらいなら、離婚した方がよい

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は女性はずべての年代で6割以上、男性は10歳代を除き5割以上となっているが、女性は年代が上がるにつれ減少する傾向にある。全体として女性（71.5%）は男性（55.4%）より16.1ポイント多い。一方、『そう思わない（計）』は女性はずべての年代で1割未満、男性は1割前後となっている。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）			無回答	（%）	
		そう 思う	そい どえ ちら か と	い ど え ち ら い と も	そい ど え ち ら わ な い	そ う 思 わ な い	そ う 思 う (計)		そ う 思 わ な い (計)	
全 体	618	31.2	33.5	25.9	2.6	4.5	2.3	64.7	7.1	
「性・年代別」	女性（全体）	361	36.8	34.6	22.7	2.2	1.9	1.7	71.5	4.2
	10歳代	3	66.7	33.3	-	-	-	-	100.0	-
	20歳代	24	50.0	41.7	4.2	-	4.2	-	91.7	4.2
	30歳代	54	25.9	48.1	18.5	5.6	1.9	-	74.1	7.4
	40歳代	62	51.6	24.2	21.0	1.6	1.6	-	75.8	3.2
	50歳代	63	34.9	34.9	27.0	1.6	1.6	-	69.8	3.2
	60歳代	59	27.1	39.0	27.1	1.7	3.4	1.7	66.1	5.1
	70歳以上	95	35.8	29.5	26.3	2.1	1.1	5.3	65.3	3.2
	男性（全体）	242	22.3	33.1	31.0	3.3	8.3	2.1	55.4	11.6
	10歳代	3	-	33.3	66.7	-	-	-	33.3	-
	20歳代	17	11.8	47.1	35.3	5.9	-	-	58.8	5.9
	30歳代	28	21.4	28.6	42.9	3.6	3.6	-	50.0	7.1
	40歳代	40	27.5	30.0	22.5	5.0	12.5	2.5	57.5	17.5
	50歳代	40	32.5	32.5	27.5	2.5	5.0	-	65.0	7.5
60歳代	40	22.5	27.5	37.5	2.5	7.5	2.5	50.0	10.0	
70歳以上	74	17.6	36.5	27.0	2.7	12.2	4.1	54.1	14.9	

H. 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は女性40歳代以下、男性50歳代以下で5割を超えるが、男女とも年代が上がるにつれ減少し、『そう思わない（計）』が増加する傾向にある。男性60歳以上は『そう思わない（計）』が『そう思う（計）』より多い。全体として『そう思う（計）』は女性（52.4%）が男性（45.9%）より6.5ポイント多い。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）			無回答	（%）	
		そう 思う	そい どえ ち ら か と	い ど え ち ら い と も	そい ど え ち ら わ な い	そ う 思 わ な い	そ う 思 う (計)		そ う 思 わ な い (計)	
全 体	618	33.0	16.7	30.1	10.7	7.1	2.4	49.7	17.8	
「性・年代別」	女性（全体）	361	37.1	15.2	31.6	9.4	4.4	2.2	52.4	13.9
	10歳代	3	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-
	20歳代	24	70.8	12.5	12.5	4.2	-	-	83.3	4.2
	30歳代	54	55.6	18.5	13.0	5.6	5.6	1.9	74.1	11.1
	40歳代	62	48.4	21.0	22.6	6.5	-	1.6	69.4	6.5
	50歳代	63	31.7	14.3	39.7	11.1	3.2	-	46.0	14.3
	60歳代	59	18.6	13.6	45.8	13.6	8.5	-	32.2	22.0
	70歳以上	95	24.2	11.6	40.0	11.6	6.3	6.3	35.8	17.9
	男性（全体）	242	27.3	18.6	28.1	13.2	11.2	1.7	45.9	24.4
	10歳代	3	66.7	33.3	-	-	-	-	100.0	-
	20歳代	17	29.4	47.1	23.5	-	-	-	76.5	-
	30歳代	28	46.4	25.0	14.3	10.7	3.6	-	71.4	14.3
	40歳代	40	35.0	27.5	22.5	7.5	5.0	2.5	62.5	12.5
	50歳代	40	40.0	17.5	22.5	12.5	7.5	-	57.5	20.0
60歳代	40	10.0	12.5	45.0	17.5	15.0	-	22.5	32.5	
70歳以上	74	16.2	8.1	32.4	18.9	20.3	4.1	24.3	39.2	

I. 自由意志によって同性同士の結婚があってもよい

性・年代別にみると、男女ともすべての年齢で『そう思う（計）』が『そう思わない（計）』より多く、女性 60 歳代以下、男性 50 歳代以下で 5 割を超える。一方、男性 70 歳以上は『そう思わない（計）』（35.1%）が他の年代に比べて多く、『そう思う（計）』（39.2%）に匹敵する。全体として『そう思う（計）』は女性（65.4%）が男性（51.2%）より 14.2 ポイント多い。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）			無回答	（%）	
		そう 思う	そい ど え ち ら か と	い ど え ち ら な い と も	そい ど え ち ら わ な い	そ う 思 わ な い	そ う 思 う （ 計）		そ う 思 わ な い （ 計）	
全 体	618	37.7	21.8	23.6	6.6	7.9	2.3	59.5	14.6	
「性・年代別」	女性（全体）	361	42.1	23.3	20.5	7.2	5.0	1.9	65.4	12.2
	10歳代	3	66.7	-	33.3	-	-	-	66.7	-
	20歳代	24	70.8	20.8	4.2	4.2	-	-	91.7	4.2
	30歳代	54	64.8	22.2	3.7	5.6	1.9	1.9	87.0	7.4
	40歳代	62	53.2	21.0	21.0	1.6	3.2	-	74.2	4.8
	50歳代	63	41.3	31.7	19.0	6.3	1.6	-	73.0	7.9
	60歳代	59	28.8	25.4	32.2	5.1	8.5	-	54.2	13.6
	70歳以上	95	22.1	20.0	27.4	14.7	9.5	6.3	42.1	24.2
	男性（全体）	242	31.0	20.2	28.1	6.2	12.8	1.7	51.2	19.0
	10歳代	3	66.7	33.3	-	-	-	-	100.0	-
	20歳代	17	41.2	23.5	35.3	-	-	-	64.7	-
	30歳代	28	32.1	21.4	28.6	-	17.9	-	53.6	17.9
	40歳代	40	45.0	20.0	20.0	-	12.5	2.5	65.0	12.5
	50歳代	40	37.5	20.0	30.0	7.5	5.0	-	57.5	12.5
60歳代	40	17.5	25.0	42.5	5.0	7.5	2.5	42.5	12.5	
70歳以上	74	23.0	16.2	23.0	13.5	21.6	2.7	39.2	35.1	

J. 様々なパートナーの在り方を支援するための「パートナーシップ宣誓制度」があってもよい

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『そう思う（計）』が 5 割を超える。70 歳以上は男女とも『そう思う（計）』が他の年代に比べ少なく、男性 20 歳代、50 歳代も 5 割台となっている。全体として『そう思う（計）』は女性（69.8%）が男性（63.2%）より 6.6 ポイント多い。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）			無回答	（%）	
		そう 思う	そい ど え ち ら か と	い ど え ち ら な い と も	そい ど え ち ら わ な い	そ う 思 わ な い	そ う 思 う （ 計）		そ う 思 わ な い （ 計）	
全 体	618	40.1	26.7	22.8	3.7	3.9	2.8	66.8	7.6	
「性・年代別」	女性（全体）	361	41.3	28.5	23.3	2.8	2.2	1.9	69.8	5.0
	10歳代	3	66.7	-	-	33.3	-	-	66.7	33.3
	20歳代	24	58.3	29.2	8.3	-	4.2	-	87.5	4.2
	30歳代	54	55.6	25.9	14.8	1.9	1.9	-	81.5	3.7
	40歳代	62	51.6	24.2	21.0	1.6	1.6	-	75.8	3.2
	50歳代	63	38.1	38.1	20.6	3.2	-	-	76.2	3.2
	60歳代	59	30.5	37.3	27.1	3.4	1.7	-	67.8	5.1
	70歳以上	95	29.5	22.1	33.7	3.2	4.2	7.4	51.6	7.4
	男性（全体）	242	38.4	24.8	22.3	5.4	6.6	2.5	63.2	12.0
	10歳代	3	66.7	33.3	-	-	-	-	100.0	-
	20歳代	17	47.1	11.8	29.4	5.9	5.9	-	58.8	11.8
	30歳代	28	57.1	17.9	21.4	-	3.6	-	75.0	3.6
	40歳代	40	52.5	25.0	15.0	-	5.0	2.5	77.5	5.0
	50歳代	40	30.0	27.5	37.5	2.5	2.5	-	57.5	5.0
60歳代	40	25.0	37.5	15.0	10.0	7.5	5.0	62.5	17.5	
70歳以上	74	32.4	21.6	21.6	9.5	10.8	4.1	54.1	20.3	

K. 様々なファミリーの在り方を支援するための「ファミリーシップ宣誓制度」があってもよい

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『そう思う（計）』が5割を超える。全体として『そう思う（計）』は女性（72.6%）が男性（64.9%）より7.7ポイント多い。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）		無回答	（%）		
		そう 思う	そい ど えち ら か と	い ど え ち ら い と も	そい ど え ち ら わ な い	そ う 思 わ な い		そ う 思 わ な い （ 計）	そ う 思 わ な い （ 計）	
全 体	618	41.1	28.0	22.0	2.9	3.4	2.6	69.1	6.3	
〔性・年代別〕	女性（全体）	361	42.9	29.6	21.6	2.2	1.9	1.7	72.6	4.2
	10歳代	3	66.7	-	-	-	33.3	-	66.7	33.3
	20歳代	24	54.2	25.0	16.7	-	4.2	-	79.2	4.2
	30歳代	54	55.6	25.9	18.5	-	-	-	81.5	-
	40歳代	62	54.8	25.8	17.7	-	1.6	-	80.6	1.6
	50歳代	63	38.1	41.3	19.0	1.6	-	-	79.4	1.6
	60歳代	59	30.5	37.3	28.8	3.4	-	-	67.8	3.4
	70歳以上	95	34.7	24.2	25.3	5.3	4.2	6.3	58.9	9.5
	男性（全体）	242	38.4	26.4	22.7	4.1	5.8	2.5	64.9	9.9
	10歳代	3	66.7	33.3	-	-	-	-	100.0	-
	20歳代	17	47.1	17.6	23.5	5.9	5.9	-	64.7	11.8
	30歳代	28	57.1	17.9	25.0	-	-	-	75.0	-
	40歳代	40	50.0	27.5	15.0	-	5.0	2.5	77.5	5.0
	50歳代	40	32.5	22.5	37.5	5.0	2.5	-	55.0	7.5
60歳代	40	22.5	35.0	17.5	10.0	7.5	7.5	57.5	17.5	
70歳以上	74	33.8	28.4	21.6	4.1	9.5	2.7	62.2	13.5	

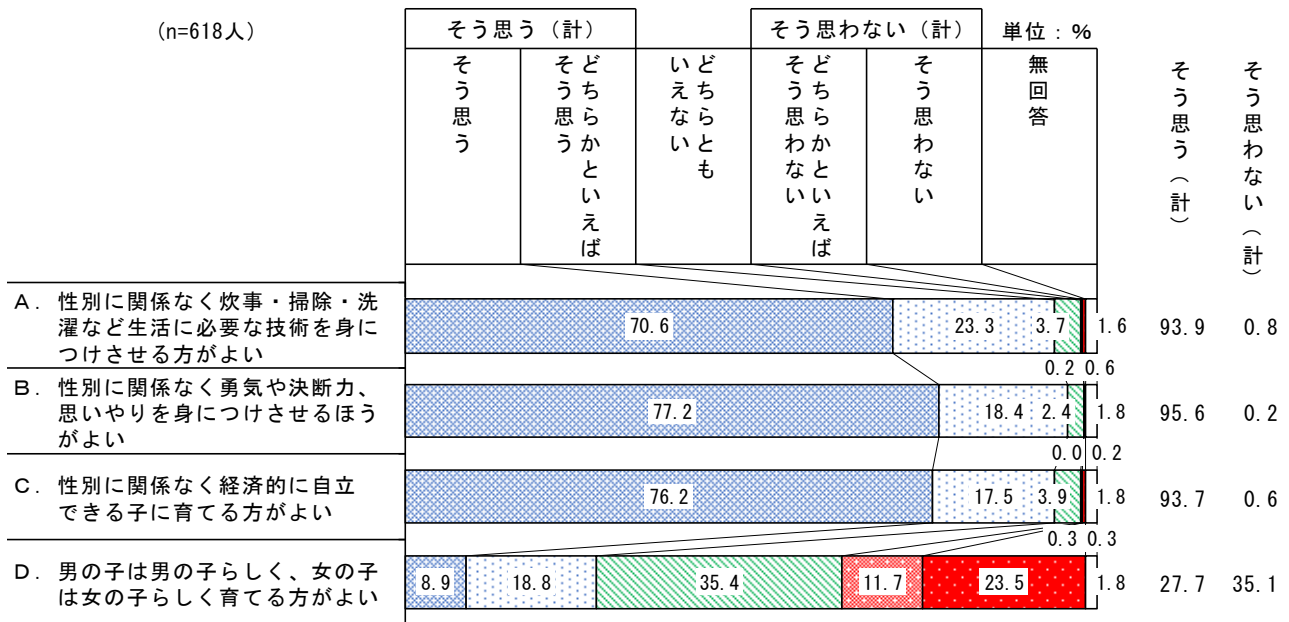
(5) 子どもの育て方に関する考え方

問4 子どもの育て方についてどう思いますか。

(A～Dのそれぞれについて、1～5のどれかにひとつずつ〇)

子どもの育て方に関する考え方については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、「B. 性別に関係なく勇気や決断力、思いやりを身につけさせるほうがよい」が95.6%で最も多く、次いで「A. 性別に関係なく炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」(93.9%)、「C. 性別に関係なく経済的に自立できる子に育てる方がよい」(93.7%)の順となっており、いずれも9割を超えている。

一方、「D. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」については、『そう思う(計)』が27.7%と、『そう思わない(計)』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)の35.1%を下回っている。



性別にみる「子どもの育て方に関する考え方」

性別にみると、「A. 性別に関係なく炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」「B. 性別に関係なく勇気や決断力、思いやりを身につけさせるほうがよい」「C. 性別に関係なく経済的に自立できる子に育てる方がよい」については、男女とも『そう思う（計）』が9割を超え、大きな差はみられない。

一方、「D. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」については、女性は『そう思わない（計）』が42.4%、男性は『そう思う（計）』が43.0%となっており、それぞれ他方より2割前後多くなっている。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）			無回答	（%）	
		そう 思う	そ ど う ち 思 う か と い え ば	い ど え ち な い と も	そ ど う ち 思 わ か な い い え ば	そ う 思 わ な い	そう 思う （計）		そう 思 わ な い （計）	
A. 性別に関係なく炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい										
女 性	361	72.6	21.6	3.6	-	0.8	1.4	94.2	0.8	
男 性	242	68.2	26.4	3.7	0.4	0.4	0.8	94.6	0.8	
B. 性別に関係なく勇気や決断力、思いやりを身につけさせるほうがよい										
女 性	361	78.7	17.5	2.2	-	-	1.7	96.1	-	
男 性	242	76.0	20.2	2.5	-	0.4	0.8	96.3	0.4	
C. 性別に関係なく経済的に自立できる子に育てる方がよい										
女 性	361	78.7	15.8	3.6	-	0.3	1.7	94.5	0.3	
男 性	242	73.6	20.2	4.1	0.8	0.4	0.8	93.8	1.2	
D. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい										
女 性	361	3.9	14.4	37.7	15.0	27.4	1.7	18.3	42.4	
男 性	242	16.9	26.0	33.1	5.8	17.4	0.8	43.0	23.1	

性・年代別にみる「子どもの育て方に関する考え方」

A. 性別に関係なく炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『そう思う（計）』が8割以上となっている。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）			無回答	（%）	
		そう 思う	そい どち ら か と 思 え ば う	い ど ち え な い と も	そい ど ち ら か と 思 わ な い	そ う 思 わ な い	そ う 思 う (計)		そ う 思 わ な い (計)	
全 体	618	70.6	23.3	3.7	0.2	0.6	1.6	93.9	0.8	
女性（全体）	361	72.6	21.6	3.6	-	0.8	1.4	94.2	0.8	
10歳代	3	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	
20歳代	24	83.3	16.7	-	-	-	-	100.0	-	
30歳代	54	83.3	14.8	1.9	-	-	-	98.1	-	
40歳代	62	82.3	14.5	3.2	-	-	-	96.8	-	
50歳代	63	65.1	31.7	3.2	-	-	-	96.8	-	
60歳代	59	62.7	30.5	6.8	-	-	-	93.2	-	
70歳以上	95	67.4	20.0	4.2	-	3.2	5.3	87.4	3.2	
男性（全体）	242	68.2	26.4	3.7	0.4	0.4	0.8	94.6	0.8	
10歳代	3	66.7	33.3	-	-	-	-	100.0	-	
20歳代	17	64.7	17.6	17.6	-	-	-	82.4	-	
30歳代	28	71.4	28.6	-	-	-	-	100.0	-	
40歳代	40	80.0	17.5	-	-	-	2.5	97.5	-	
50歳代	40	70.0	25.0	2.5	2.5	-	-	95.0	2.5	
60歳代	40	55.0	42.5	2.5	-	-	-	97.5	-	
70歳以上	74	67.6	24.3	5.4	-	1.4	1.4	91.9	1.4	

B. 性別に関係なく勇気や決断力、思いやりを身につけさせるほうがよい

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『そう思う（計）』が8割以上となっている。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）			無回答	（%）	
		そう 思う	そい どち ら か と 思 え ば う	い ど ち え な い と も	そい ど ち ら か と 思 わ な い	そ う 思 わ な い	そ う 思 う (計)		そ う 思 わ な い (計)	
全 体	618	77.2	18.4	2.4	-	0.2	1.8	95.6	0.2	
女性（全体）	361	78.7	17.5	2.2	-	-	1.7	96.1	-	
10歳代	3	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	
20歳代	24	87.5	8.3	4.2	-	-	-	95.8	-	
30歳代	54	85.2	14.8	-	-	-	-	100.0	-	
40歳代	62	88.7	11.3	-	-	-	-	100.0	-	
50歳代	63	74.6	20.6	4.8	-	-	-	95.2	-	
60歳代	59	74.6	22.0	3.4	-	-	-	96.6	-	
70歳以上	95	70.5	21.1	2.1	-	-	6.3	91.6	-	
男性（全体）	242	76.0	20.2	2.5	-	0.4	0.8	96.3	0.4	
10歳代	3	66.7	33.3	-	-	-	-	100.0	-	
20歳代	17	70.6	17.6	11.8	-	-	-	88.2	-	
30歳代	28	75.0	21.4	3.6	-	-	-	96.4	-	
40歳代	40	85.0	12.5	-	-	-	2.5	97.5	-	
50歳代	40	72.5	27.5	-	-	-	-	100.0	-	
60歳代	40	72.5	22.5	5.0	-	-	-	95.0	-	
70歳以上	74	77.0	18.9	1.4	-	1.4	1.4	95.9	1.4	

C. 性別に関係なく経済的に自立できる子に育てる方がよい

性・年代別にみると、男女ともすべての年代で『そう思う（計）』が7割以上となっている。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）		無回答	（%）		
		そう 思う	そい ど え ち ら か と 思 う	い ど え ち ら な い と も	そい ど え ち ら か と 思 わ な い	そ う 思 わ な い		そ う 思 う （ 計）	そ う 思 わ な い （ 計）	
全 体	618	76.2	17.5	3.9	0.3	0.3	1.8	93.7	0.6	
「性・年代別」	女性（全体）	361	78.7	15.8	3.6	-	0.3	1.7	94.5	0.3
	10歳代	3	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-
	20歳代	24	91.7	8.3	-	-	-	-	100.0	-
	30歳代	54	87.0	9.3	3.7	-	-	-	96.3	-
	40歳代	62	75.8	17.7	4.8	-	1.6	-	93.5	1.6
	50歳代	63	79.4	19.0	1.6	-	-	-	98.4	-
	60歳代	59	74.6	20.3	5.1	-	-	-	94.9	-
	70歳以上	95	73.7	15.8	4.2	-	-	6.3	89.5	-
	男性（全体）	242	73.6	20.2	4.1	0.8	0.4	0.8	93.8	1.2
	10歳代	3	66.7	33.3	-	-	-	-	100.0	-
	20歳代	17	64.7	11.8	17.6	5.9	-	-	76.5	5.9
	30歳代	28	82.1	17.9	-	-	-	-	100.0	-
	40歳代	40	82.5	15.0	-	-	-	2.5	97.5	-
	50歳代	40	67.5	30.0	2.5	-	-	-	97.5	-
60歳代	40	72.5	22.5	5.0	-	-	-	95.0	-	
70歳以上	74	71.6	18.9	5.4	1.4	1.4	1.4	90.5	2.7	

D. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい

性・年代別にみると、女性はすべての年代で『そう思わない（計）』が『そう思う（計）』を上回るが、年代が上がるにつれ『そう思わない（計）』は減少する傾向にある。男性は30歳以上で『そう思う（計）』が3割を超え、『そう思わない（計）』より多い。男性70歳以上は『そう思う（計）』が50.0%となっている。

	総数 (人)	そう思う（計）			そう思わない（計）		無回答	（%）		
		そ う 思 う	そい ど え ち ら か と 思 う	い ど え ち ら な い と も	そい ど え ち ら か と 思 わ な い	そ う 思 わ な い		そ う 思 う （ 計）	そ う 思 わ な い （ 計）	
全 体	618	8.9	18.8	35.4	11.7	23.5	1.8	27.7	35.1	
「性・年代別」	女性（全体）	361	3.9	14.4	37.7	15.0	27.4	1.7	18.3	42.4
	10歳代	3	-	-	33.3	-	66.7	-	-	66.7
	20歳代	24	4.2	-	20.8	33.3	41.7	-	4.2	75.0
	30歳代	54	1.9	14.8	37.0	20.4	25.9	-	16.7	46.3
	40歳代	62	1.6	6.5	38.7	16.1	37.1	-	8.1	53.2
	50歳代	63	4.8	20.6	46.0	15.9	12.7	-	25.4	28.6
	60歳代	59	3.4	16.9	39.0	10.2	30.5	-	20.3	40.7
	70歳以上	95	6.3	17.9	35.8	9.5	24.2	6.3	24.2	33.7
	男性（全体）	242	16.9	26.0	33.1	5.8	17.4	0.8	43.0	23.1
	10歳代	3	-	-	33.3	-	66.7	-	-	66.7
	20歳代	17	11.8	11.8	52.9	5.9	17.6	-	23.5	23.5
	30歳代	28	17.9	28.6	35.7	10.7	7.1	-	46.4	17.9
	40歳代	40	12.5	25.0	30.0	10.0	20.0	2.5	37.5	30.0
	50歳代	40	7.5	35.0	25.0	5.0	27.5	-	42.5	32.5
60歳代	40	22.5	22.5	45.0	2.5	7.5	-	45.0	10.0	
70歳以上	74	23.0	27.0	27.0	4.1	17.6	1.4	50.0	21.6	

経年変化にみる「子どもの育て方に関する考え方」

経年変化でみると、「A. 性別に関係なく炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」「B. 性別に関係なく勇気や決断力、思いやりを身につけさせるほうがよい」「C. 性別に関係なく経済的に自立できる子に育てる方がよい」については、平成 21 年度以降 9 割台を維持し、大きな変化は見られない。一方、「D. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」については、平成 26 年度以前は『そう思う（計）』が 5 割を超えていたのに対し、令和 4 年度は 27.7% と 3 割ほど減少した。『そう思わない（計）』については、平成 26 年度に比べ 12.5 ポイント増加した。

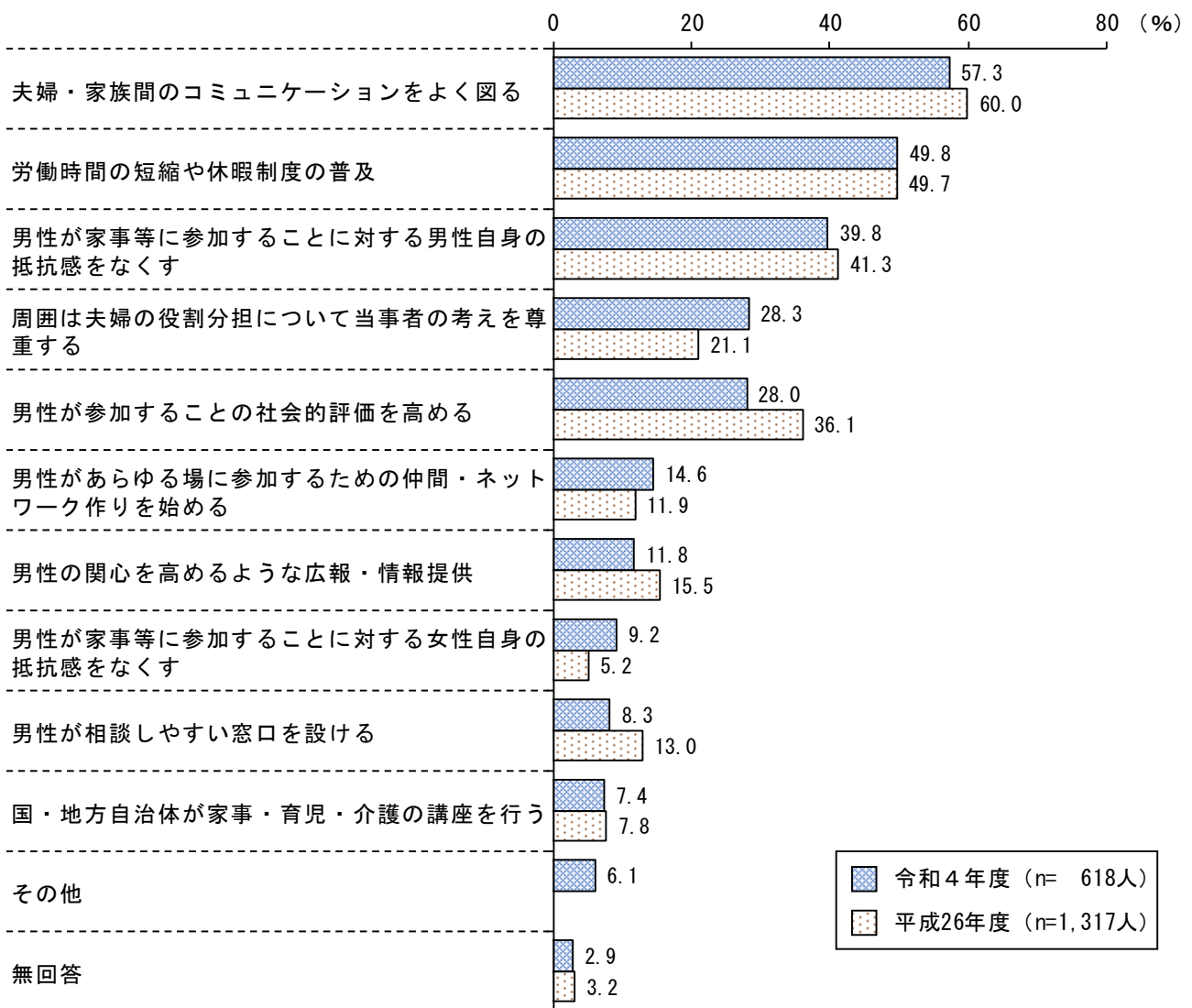
		(%)							
	総数 (人)	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	い ど ち ら も い え な い	そ ど ち ら か な い い え ば	そ う 思 わ な い	無 回 答	そ う 思 う (計)	そ う 思 わ な い (計)
A. 性別に関係なく炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい									
令和 4 年度	618	70.6	23.3	3.7	0.2	0.6	1.6	93.9	0.8
平成26年度	1,317	71.1	23.4	1.6	0.8	1.0	2.1	94.5	1.8
平成21年度	1,475	73.2	21.4	1.9	0.3	0.9	2.3	94.6	1.2
B. 性別に関係なく勇気や決断力、思いやりを身につけさせるほうがよい									
令和 4 年度	618	77.2	18.4	2.4	-	0.2	1.8	95.6	0.2
平成26年度	1,317	81.2	15.8	0.5	0.2	0.3	2.1	97.0	0.5
平成21年度	1,475	83.7	12.7	0.9	0.1	0.3	2.4	96.4	0.3
C. 性別に関係なく経済的に自立できる子に育てる方がよい									
令和 4 年度	618	76.2	17.5	3.9	0.3	0.3	1.8	93.7	0.6
平成26年度	1,317	76.4	19.7	1.3	0.5	0.3	1.8	96.1	0.8
平成21年度	1,475	78.2	17.2	1.7	0.5	0.2	2.2	95.4	0.7
D. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい									
令和 4 年度	618	8.9	18.8	35.4	11.7	23.5	1.8	27.7	35.1
平成26年度	1,317	26.5	32.4	16.2	10.2	12.5	2.3	58.9	22.6
平成21年度	1,475	32.5	31.0	12.0	10.2	11.5	2.8	63.5	21.7

(6) 男性の各活動への参加促進

問5 男性が家事・育児・介護・地域活動に参加するためにどのようなことをすればよいと思いますか。(あてはまるものに3つまで○)

男性の各活動への参加を促すための方法については、「夫婦・家族間のコミュニケーションをよく図る」が57.3%で最も多く、次いで「労働時間の短縮や休暇制度の普及」(49.8%)、「男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(39.8%)、「周囲は夫婦の役割分担について当事者の考えを尊重する」(28.3%)の順となっている。

経年変化でみると、平成26年度と比べ「周囲は夫婦の役割分担について当事者の考えを尊重する」が7.2ポイント増加する一方、「男性が参加することの社会的評価を高める」(28.0%)は8.1ポイント減少した。



※「その他」は、令和4年度新規項目

性・年代別にみる「男性の各活動への参加促進」

性・年代別にみると、男女とも「夫婦・家族間のコミュニケーションをよく図る」が最も多い。「夫婦・家族間のコミュニケーションをよく図る」は女性20歳以上、男性は40歳代を除き5割を超え、全体として男女差は少ない。

女性は「男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が男性より13.2ポイント高く、40～60歳代で5割前後を占める。

男性は「労働時間の短縮や休暇制度の普及」が女性より8.6ポイント高く、20歳代（70.6%）、30歳代（60.7%）などを中心に10歳代を除き5割を超える。また、「周囲は夫婦の役割分担について当事者の考えを尊重する」は男性40歳代で42.5%と、他の年代に比べて多い。

		(%)												
		総数 (人)	夫婦・家族間のコミュニケーションをよく図る	労働時間の短縮や休暇制度の普及	男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	周囲は夫婦の役割分担について当事者の考えを尊重する	男性が参加することの社会的評価を高める	男性がネットワーキングに参加するための仲間づくり	男性の関心を高めるような広報・情報提供	女性が家事等に参加することに対する女性自身の抵抗感をなくす	男性が相談しやすい窓口を設ける	国・地方自治体が家事・育児・介護の講座を行う	その他	無回答
全体		618	57.3	49.8	39.8	28.3	28.0	14.6	11.8	9.2	8.3	7.4	6.1	2.9
「性・年代別」	女性（全体）	361	57.6	46.8	45.4	28.5	28.3	14.7	11.6	9.1	7.5	6.6	6.6	2.2
	10歳代	3	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	33.3	33.3	-	-	-
	20歳代	24	54.2	62.5	45.8	25.0	20.8	16.7	20.8	-	16.7	4.2	8.3	-
	30歳代	54	53.7	59.3	42.6	31.5	29.6	9.3	9.3	7.4	1.9	3.7	11.1	-
	40歳代	62	54.8	51.6	50.0	24.2	33.9	11.3	16.1	9.7	4.8	4.8	12.9	-
	50歳代	63	61.9	38.1	49.2	28.6	22.2	14.3	11.1	7.9	9.5	6.3	6.3	-
	60歳代	59	57.6	55.9	50.8	23.7	33.9	11.9	6.8	15.3	8.5	8.5	3.4	-
	70歳以上	95	61.1	33.7	37.9	33.7	26.3	21.1	11.6	8.4	7.4	9.5	2.1	8.4
	男性（全体）	242	57.4	55.4	32.2	28.5	27.3	14.9	12.8	9.1	9.5	8.7	5.4	2.9
	10歳代	3	100.0	33.3	33.3	66.7	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-
	20歳代	17	82.4	70.6	35.3	23.5	23.5	-	-	5.9	5.9	11.8	-	-
	30歳代	28	57.1	60.7	28.6	21.4	21.4	10.7	10.7	10.7	7.1	7.1	10.7	-
	40歳代	40	47.5	57.5	30.0	42.5	25.0	12.5	10.0	5.0	7.5	12.5	12.5	7.5
	50歳代	40	52.5	50.0	27.5	22.5	37.5	12.5	15.0	12.5	12.5	10.0	-	2.5
60歳代	40	52.5	55.0	37.5	20.0	30.0	15.0	15.0	7.5	15.0	5.0	5.0	5.0	
70歳以上	74	60.8	52.7	33.8	31.1	24.3	23.0	14.9	10.8	8.1	8.1	4.1	1.4	

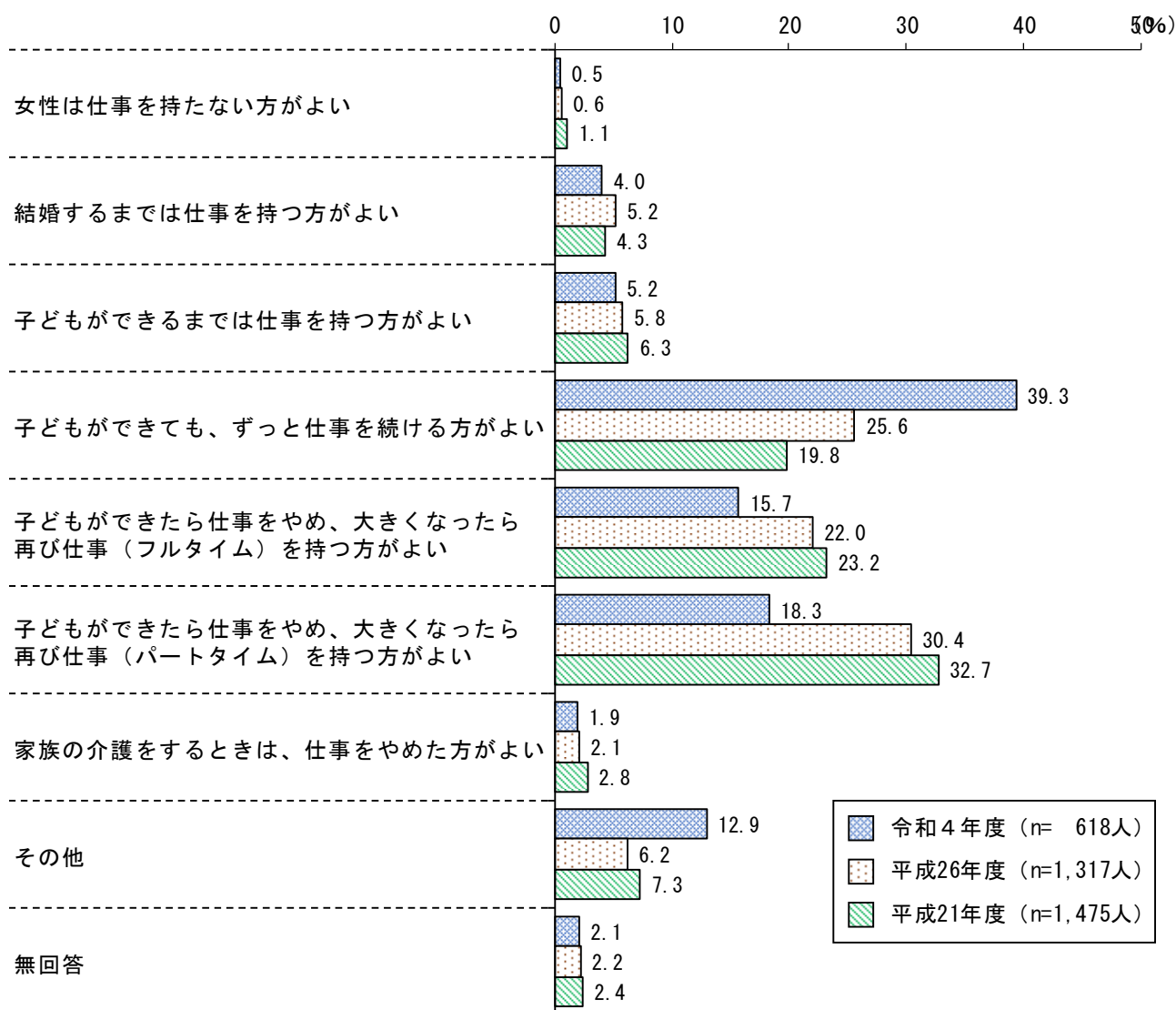
3. 就労について

(1) 女性の働き方の理想

問6 一般的に女性の働き方の理想は次のどれだと思いますか。(ひとつに○)

女性の働き方の理想については、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が39.3%で最も多く、次いで「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ方がよい」(18.3%)、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（フルタイム）を持つ方がよい」(15.7%)、「子どもができるまでは仕事を持つ方がよい」(5.2%)の順となっている。

経年変化でみると、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」は平成21年度以降増加傾向にあり、平成26年度と比べ13.7ポイント増加した。一方、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ方がよい」「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（フルタイム）を持つ方がよい」は平成21年度以降減少が続いており、平成26年度と比べ前者は14.4ポイント、後者は7.5ポイント減少した。



性・年代別にみる「女性の働き方の理想」

性・年代別にみると、男女とも「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が最も多い。「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」は男性10歳代を除き3割を超え、女性20歳代、男性60歳代で5割台となっている。全体として男女差は少ない。

他の項目も大きな男女差はみられないが、「子どもができるまでは仕事を持つ方がよい」は男性20歳代で17.6%と、他の年代に比べて多い。

(%)

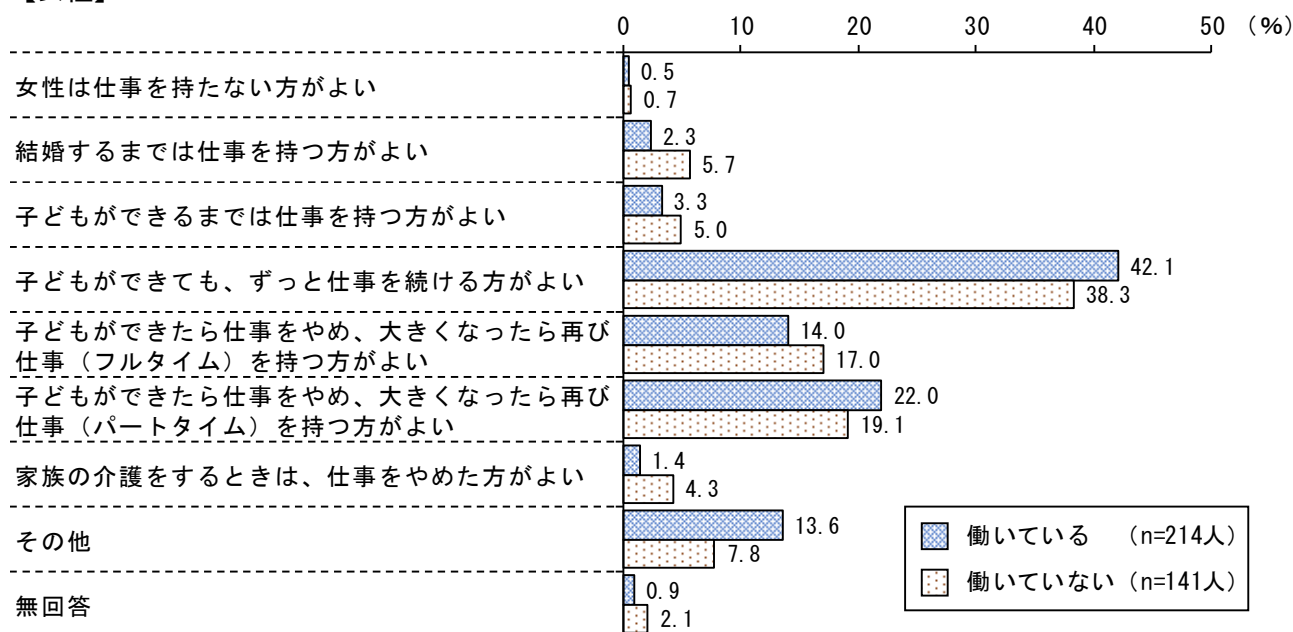
		総数 (人)	女性は仕事を持たない方がよい	結婚するまでは仕事を持つ方がよい	子どもができるまでは仕事を持つ方がよい	子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい	子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい	子どもができたら再び仕事（フルタイム）を持つ方がよい	子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ方がよい	子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ方がよい	家族の介護をするときは、仕事をやめた方がよい	その他	無回答
全体		618	0.5	4.0	5.2	39.3	15.7	18.3	1.9	12.9	2.1		
「性・年代別」	女性（全体）	361	0.6	3.6	3.9	40.4	15.5	20.5	2.5	11.6	1.4		
	10歳代	3	-	-	-	66.7	33.3	-	-	-	-		
	20歳代	24	-	8.3	8.3	54.2	-	16.7	-	12.5	-		
	30歳代	54	1.9	1.9	5.6	40.7	14.8	18.5	-	16.7	-		
	40歳代	62	-	1.6	1.6	48.4	14.5	17.7	-	14.5	1.6		
	50歳代	63	-	3.2	4.8	34.9	17.5	19.0	1.6	19.0	-		
	60歳代	59	-	3.4	1.7	39.0	16.9	23.7	3.4	11.9	-		
	70歳以上	95	1.1	5.3	4.2	35.8	17.9	23.2	6.3	2.1	4.2		
	男性（全体）	242	0.4	4.5	6.6	39.7	15.3	15.7	1.2	14.5	2.1		
	10歳代	3	-	-	-	-	66.7	-	-	33.3	-		
	20歳代	17	-	-	17.6	35.3	11.8	23.5	-	11.8	-		
	30歳代	28	3.6	3.6	7.1	35.7	-	17.9	3.6	28.6	-		
	40歳代	40	-	5.0	2.5	42.5	17.5	7.5	2.5	17.5	5.0		
	50歳代	40	-	-	7.5	37.5	12.5	25.0	-	15.0	2.5		
60歳代	40	-	2.5	2.5	50.0	20.0	12.5	-	12.5	-			
70歳以上	74	-	9.5	8.1	37.8	17.6	14.9	1.4	8.1	2.7			

性別ごとの勤務状況別にみる「女性の働き方の理想」

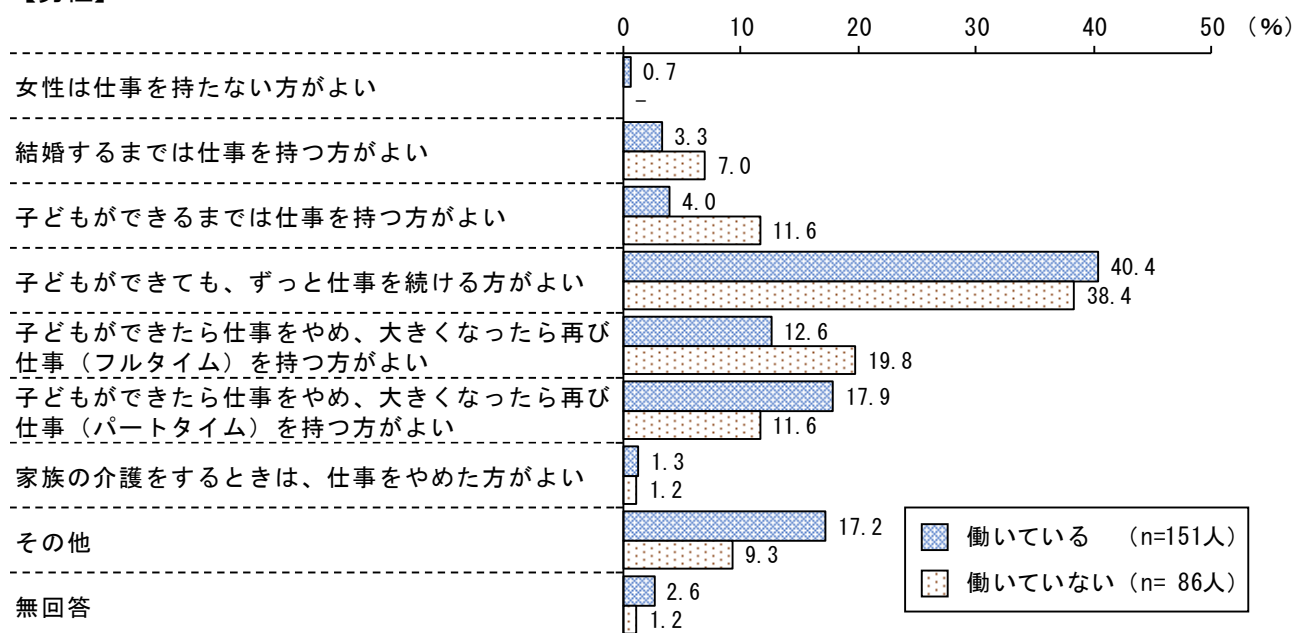
性別・勤務状況別にみると、いずれも「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が最も多い。「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」は男女とも「働いている」に比べ「働いていない」はやや少なくなっている。

男性は女性に比べ「働いている」「働いていない」の差が大きくなる傾向にあり、「子どもができるまでは仕事を持つ方がよい」「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（フルタイム）を持つ方がよい」は「働いていない」が7ポイント以上多い一方、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ方がよい」は「働いている」が6.3ポイント上回る。

【女性】



【男性】



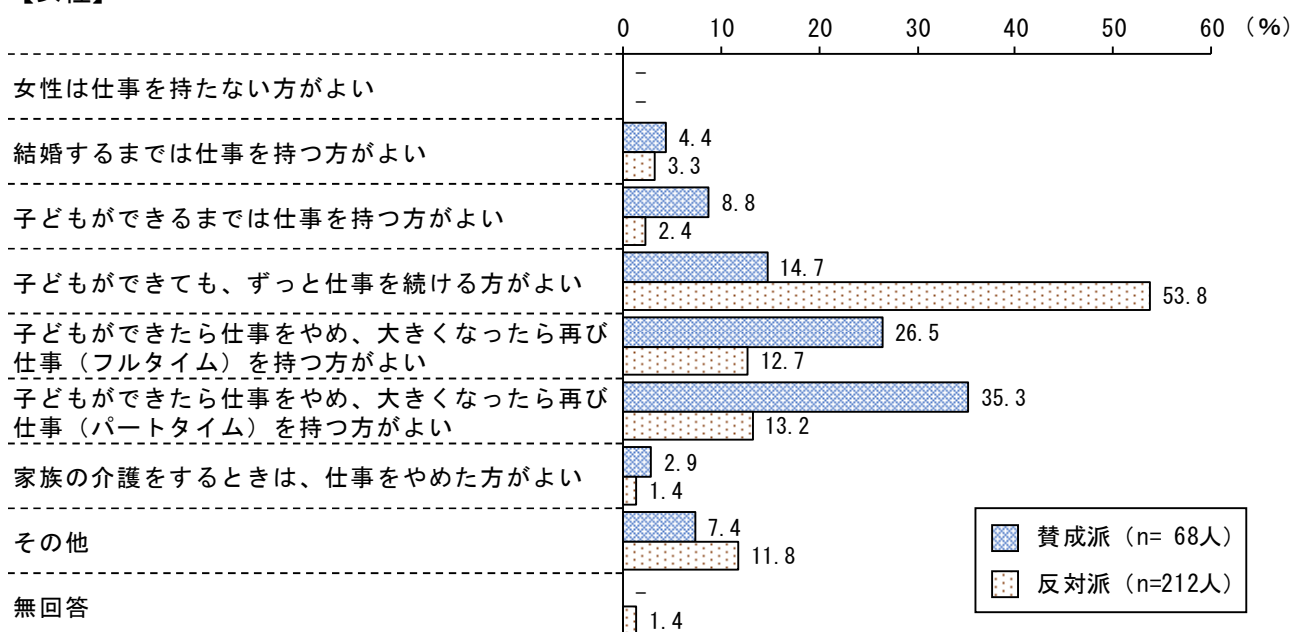
※ 「本人の仕事（F6）」で、「経営者」、「家族従業者」、「自由業」、「会社・団体・官公庁の管理職」、「管理職以外の一般社員・職員」、「パート・アルバイト」、「派遣・契約社員」、「家で仕事（人に教える・内職など）」を回答した人について『働いている』とし、「学生」、「専業主婦・主夫」、「無職」を回答した人について『働いていない』としている。

性別で役割を分担する考え方（問 19）にみる「女性の働き方の理想」

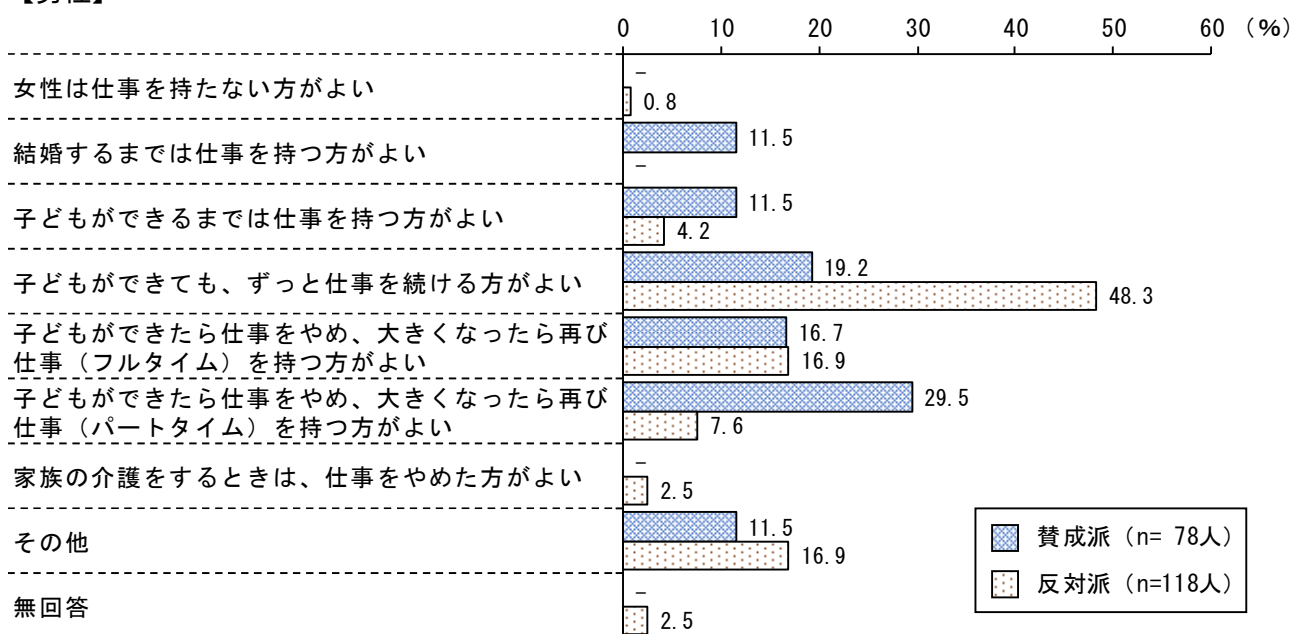
性別で役割を分担する考え方別にみると、『反対派』は男女とも「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」、『賛成派』は男女とも「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ方がよい」が最も多く、それぞれ女性が男性より5ポイントほど多い。

「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」以外の殆どの項目で、『賛成派』が『反対派』より多くなっているが、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（フルタイム）を持つ方がよい」については、女性は『賛成派』が『反対派』を1割以上上回るのに対し、男性は『賛成派』『反対派』がほぼ同率となっている。

【女性】



【男性】



(2) 女性の現実の働き方

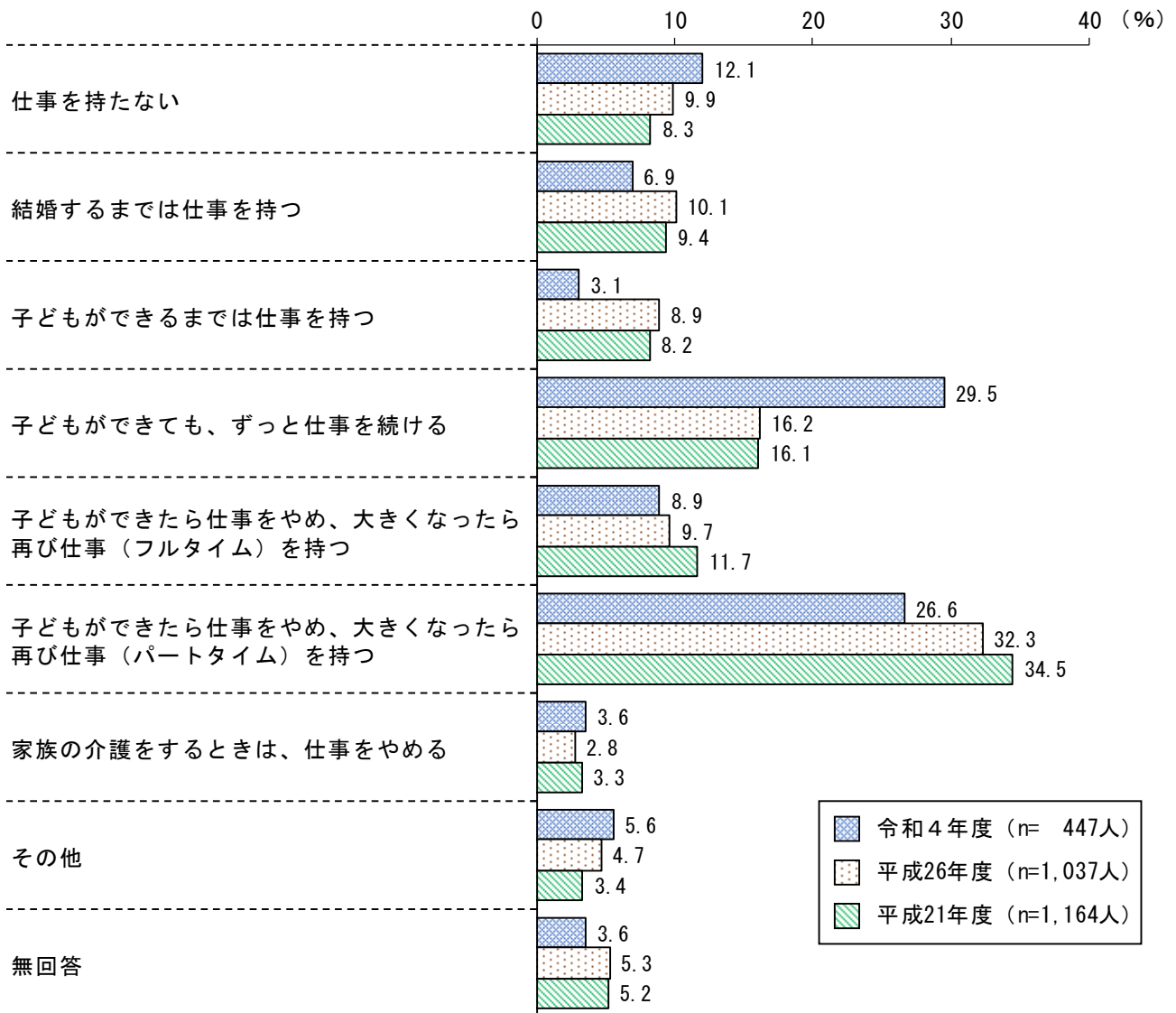
問7 【この間は、配偶者・パートナーがいる方におたずねします】

現在、あなた自身の働き方（男性の場合は配偶者の働き方）はどれにあたりますか。

(ひとつに○)

女性の現実の働き方については、「子どもができて、ずっと仕事を続ける」が29.5%で最も多く、次いで「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ」(26.6%)、「仕事を持たない」(12.1%)、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（フルタイム）を持つ」(8.9%)の順となっている。

経年変化でみると、「子どもができて、ずっと仕事を続ける」「仕事を持たない」は平成21年度以降増加傾向にあり、前者は平成26年度と比べ13.3ポイント増加した。一方、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ」「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（フルタイム）を持つ」などは減少傾向にある。



性・年代別にみる「女性の現実の働き方」

性・年代別にみると、女性は「子どもができて、ずっと仕事を続ける」、男性は「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ」が最も多く、前者は男性に比べ8.4ポイント多い。「子どもができて、ずっと仕事を続ける」は男女とも30歳代で5割以上、女性40～50歳代、男性40歳代で3割台を占めるが、それ以上の年代では低くなっている。「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ」は男性50歳代で53.1%を占め、女性40歳代、60歳代も4割前後と「子どもができて、ずっと仕事を続ける」より多くなっている。

また、男性60歳以上は「仕事を持たない」が2割台、女性60歳以上も2割近くとなっている。

(%)

		総数 (人)	仕事を 持たない	結婚する までは仕事 を持つ	子どもが できるまで は仕事を持 つ	子どもが できて、ず っと仕事を 続ける	子どもが できたなら 再び仕事 (フルタイ ム)を持 つ	子どもが できたなら 再び仕事 (パート タイム)を 持つ	家族の 介護をす るときは、 仕事をや める	その他	無回 答
全 体		447	12.1	6.9	3.1	29.5	8.9	26.6	3.6	5.6	3.6
〔性・ 年代別〕	女性（全体）	268	10.4	6.3	1.5	32.8	7.5	27.2	4.5	5.6	4.1
	20歳代	4	-	-	-	75.0	25.0	-	-	-	-
	30歳代	44	-	-	2.3	70.5	2.3	13.6	-	9.1	2.3
	40歳代	50	8.0	4.0	-	34.0	6.0	38.0	-	8.0	2.0
	50歳代	48	4.2	10.4	2.1	39.6	14.6	22.9	2.1	4.2	-
	60歳代	51	17.6	7.8	-	9.8	7.8	45.1	5.9	5.9	-
	70歳以上	70	18.6	8.6	2.9	18.6	5.7	18.6	11.4	2.9	12.9
	男性（全体）	172	14.5	8.1	5.2	24.4	11.6	25.6	2.3	5.8	2.3
	20歳代	2	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
	30歳代	21	4.8	9.5	-	57.1	4.8	23.8	-	-	-
	40歳代	28	3.6	10.7	7.1	32.1	17.9	14.3	7.1	3.6	3.6
	50歳代	32	-	9.4	6.3	9.4	15.6	53.1	-	6.3	-
	60歳代	27	29.6	-	7.4	22.2	14.8	14.8	7.4	3.7	-
70歳以上	62	24.2	9.7	4.8	19.4	8.1	19.4	-	9.7	4.8	

※10歳代は該当者無し

(3) 女性の働き方の理想と現実

女性の働き方の理想と現実について回答の分布を調べたところ、理想と思う働き方と現実の働き方が合致している人（表の着色部分に該当する人）は全体の34.9%（447人中156人）であり、全体の3割半ばは理想どおりに働いている。

理想と現実の合致度については、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ」が52.3%で最も多く、次いで「子どもができて、ずっと仕事を続ける」（47.2%）、「結婚するまでは仕事を持つ」（33.3%）の順となっている。

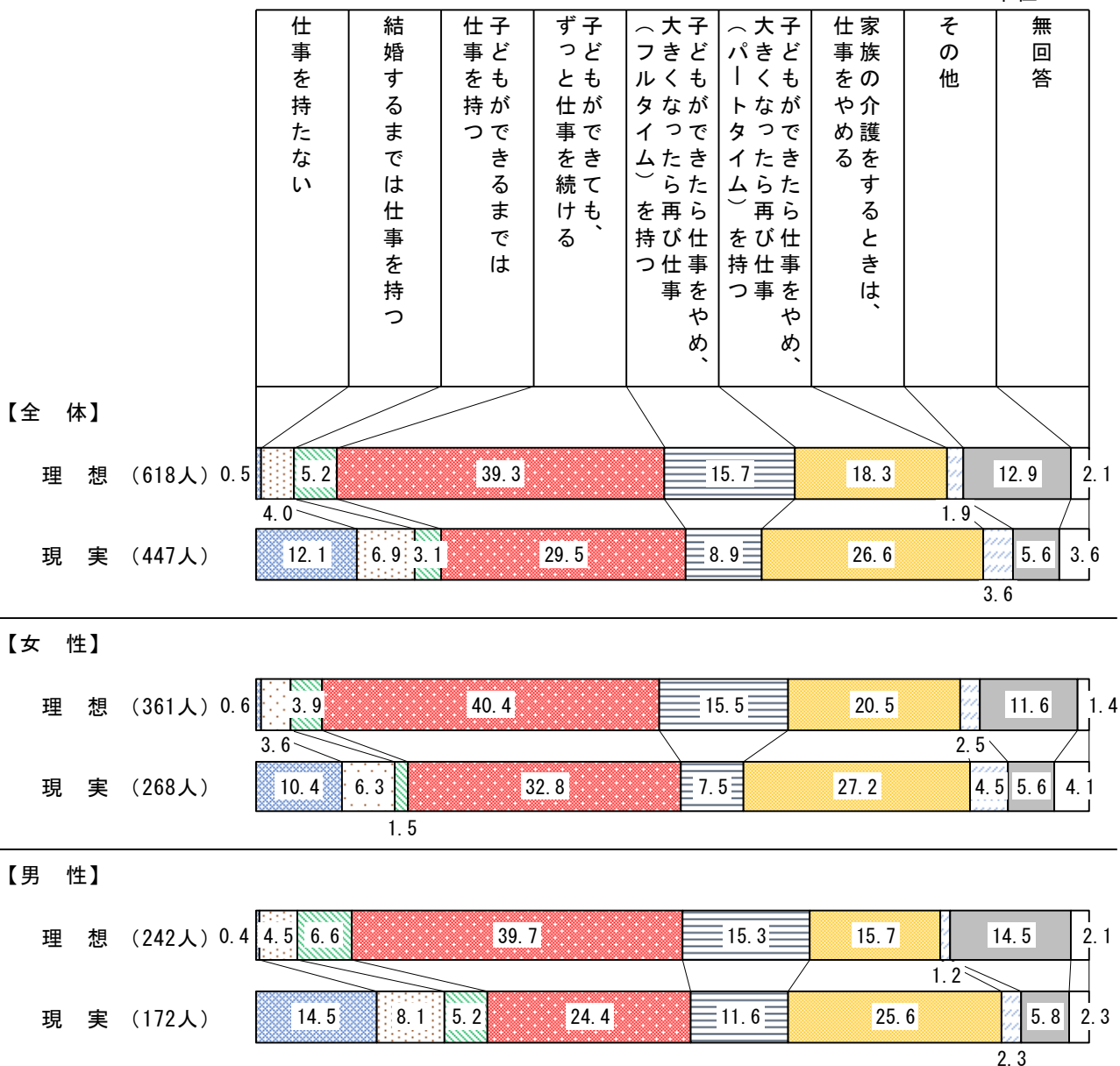
(%)

	総数 (人)	女性の現実の働き方									
		仕事を持たない	結婚するまでは仕事を持つ	子どもができるまでは仕事を持つ	子どもができて、ずっと仕事を続ける	子どもができれば、大きくなったら再び仕事（フルタイム）を持つ	子どもができれば、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ	子どもができれば、大きくなったら仕事をやめ、家族の介護をするときは、仕事をやめた方がよい	その他	無回答	
全 体	447	12.1	6.9	3.1	29.5	8.9	26.6	3.6	5.6	3.6	
女性の働き方の理想	女性は仕事を持たない方がよい	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	結婚するまでは仕事を持つ方がよい	18	11.1	33.3	5.6	16.7	5.6	16.7	-	5.6	5.6
	子どもができるまでは仕事を持つ方がよい	22	22.7	9.1	9.1	13.6	9.1	27.3	4.5	4.5	-
	子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい	180	10.6	4.4	2.8	47.2	6.7	21.7	1.7	3.3	1.7
	子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（フルタイム）を持つ方がよい	71	15.5	2.8	1.4	18.3	21.1	19.7	7.0	7.0	7.0
	子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ方がよい	88	9.1	9.1	3.4	12.5	5.7	52.3	5.7	1.1	1.1
	家族の介護をするときは、仕事をやめた方がよい	8	50.0	-	-	12.5	-	-	25.0	-	12.5
	その他	53	9.4	7.5	1.9	28.3	9.4	20.8	-	20.8	1.9

性別にみる「女性の働き方の理想と現実」

性別ごとに女性の働き方についての理想と現実を比較すると、理想と現実の差は「子どもができて、ずっと仕事を続ける」は女性が7.6ポイントに対し、男性は15.3ポイントで、いずれも現実が少なくなっている。一方、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ」については、女性が6.7ポイント、男性が9.9ポイントで、いずれも現実の方が多くなっている。また、「仕事を持たない」については、理想は男女とも1%未満に対し、現実には1割を超え、特に男性で14.1ポイントの差が生じている。

単位：%



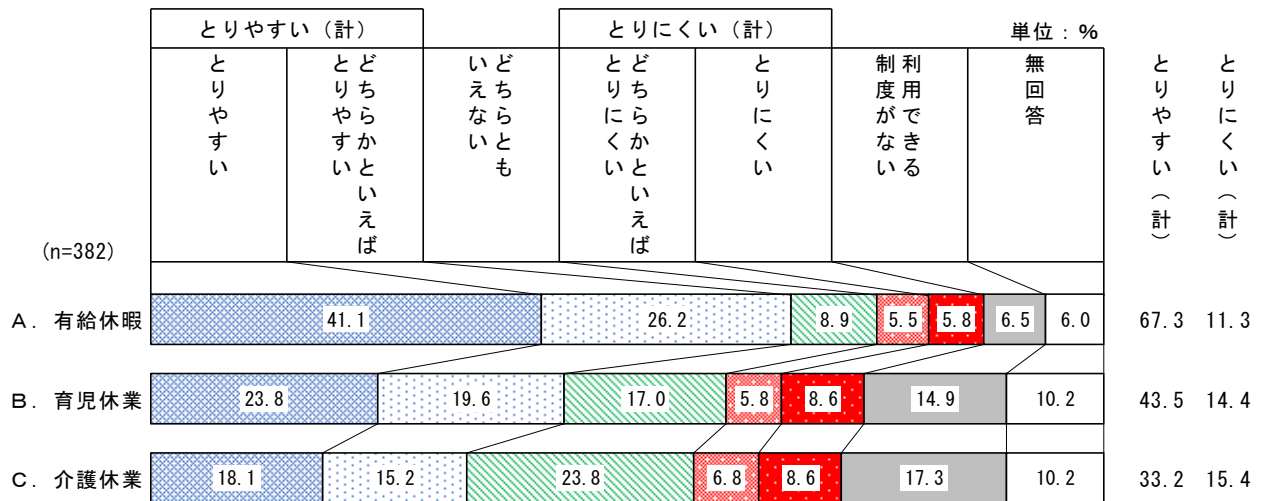
(4) 職場での休暇・休業のとりやすさ

問8 【この間は、現在働いている方におたずねします】

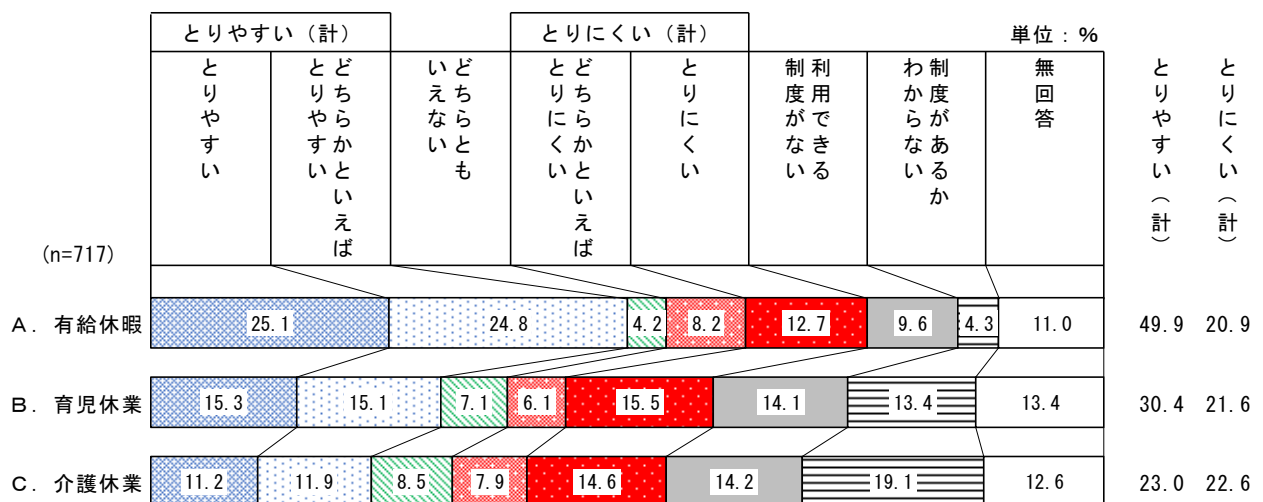
あなたの職場は有給休暇・育児休業・介護休業はとりやすいですか。

(A～Cのそれぞれについて、1～6のどれかにひとつずつ〇)

職場での休暇・休業のとりやすさについては、「とりやすい」「どちらかといえばとりやすい」を合わせた『とりやすい(計)』は「A. 有給休暇」で67.3%、「B. 育児休業」で43.5%、「C. 介護休業」で33.2%となっている。



参考資料 (平成26年度調査結果)



※選択肢数が異なるため、参考値として記載

職業別にみる「職場での休暇・休業のとりやすさ」

職業別にみると、「A. 有給休暇」の『とりやすい(計)』については、「会社・団体・官公庁の管理職」「派遣・契約社員」「管理職以外の一般社員・職員」が7割台、「パート・アルバイト」が55.6%となっている。

「B. 育児休業」の『とりやすい(計)』については、「管理職以外の一般社員・職員」が56.4%、「会社・団体・官公庁の管理職」が46.6%、「パート・アルバイト」「派遣・契約社員」が3割台となっている。

「C. 介護休業」の『とりやすい(計)』については、「管理職以外の一般社員・職員」が40.7%、「派遣・契約社員」「会社・団体・官公庁の管理職」が3割台となっている。

	総数 (人)	とりやすい(計)			とりにくい(計)			制 利 度 用 が で な き い る	無 回 答	とりやすい とりにくい		(%)	
		と り や す い	と ど り ち や す か い と い え ば	い ど え ち な い と も	と ど り ち に ら く か い と い え ば	と り に く い	と り に く い (計)			と り に く い (計)			
A. 有給休暇													
経営者	25	32.0	12.0	20.0	4.0	-	16.0	16.0	44.0	4.0			
家族従業者	7	28.6	-	28.6	-	-	28.6	14.3	28.6	-			
自由業	12	25.0	-	8.3	-	8.3	41.7	16.7	25.0	8.3			
会社・団体・官公庁の管理職	58	46.6	32.8	3.4	6.9	8.6	-	1.7	79.3	15.5			
管理職以外の一般社員・職員	140	40.7	37.1	5.0	4.3	9.3	1.4	2.1	77.9	13.6			
パート・アルバイト	99	40.4	15.2	15.2	6.1	2.0	10.1	11.1	55.6	8.1			
派遣・契約社員	29	55.2	24.1	6.9	10.3	3.4	-	-	79.3	13.8			
家で仕事(人に教える・内職など)	2	-	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-			
その他	10	40.0	30.0	-	10.0	-	10.0	10.0	70.0	10.0			
有識者(計) その他含む	382	41.1	26.2	8.9	5.5	5.8	6.5	6.0	67.3	11.3			
有識者(計) その他除く	372	41.1	26.1	9.1	5.4	5.9	6.5	5.9	67.2	11.3			
B. 育児休業													
経営者	25	8.0	12.0	24.0	4.0	4.0	24.0	24.0	20.0	8.0			
家族従業者	7	14.3	-	-	28.6	-	28.6	28.6	14.3	28.6			
自由業	12	25.0	-	8.3	-	-	50.0	16.7	25.0	-			
会社・団体・官公庁の管理職	58	27.6	19.0	19.0	6.9	19.0	5.2	3.4	46.6	25.9			
管理職以外の一般社員・職員	140	26.4	30.0	16.4	4.3	10.7	7.9	4.3	56.4	15.0			
パート・アルバイト	99	22.2	13.1	18.2	4.0	1.0	22.2	19.2	35.4	5.1			
派遣・契約社員	29	24.1	10.3	17.2	13.8	13.8	17.2	3.4	34.5	27.6			
家で仕事(人に教える・内職など)	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	100.0	-			
その他	10	20.0	20.0	10.0	10.0	10.0	20.0	10.0	40.0	20.0			
有識者(計) その他含む	382	23.8	19.6	17.0	5.8	8.6	14.9	10.2	43.5	14.4			
有識者(計) その他除く	372	23.9	19.6	17.2	5.6	8.6	14.8	10.2	43.5	14.2			
C. 介護休業													
経営者	25	-	12.0	28.0	8.0	4.0	24.0	24.0	12.0	12.0			
家族従業者	7	14.3	-	-	28.6	-	28.6	28.6	14.3	28.6			
自由業	12	25.0	-	8.3	-	-	50.0	16.7	25.0	-			
会社・団体・官公庁の管理職	58	24.1	8.6	29.3	6.9	20.7	6.9	3.4	32.8	27.6			
管理職以外の一般社員・職員	140	20.7	20.0	30.0	5.0	10.0	10.7	3.6	40.7	15.0			
パート・アルバイト	99	16.2	13.1	18.2	6.1	2.0	24.2	20.2	29.3	8.1			
派遣・契約社員	29	13.8	20.7	13.8	13.8	10.3	24.1	3.4	34.5	24.1			
家で仕事(人に教える・内職など)	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	100.0	-			
その他	10	10.0	20.0	20.0	10.0	10.0	20.0	10.0	30.0	20.0			
有識者(計) その他含む	382	18.1	15.2	23.8	6.8	8.6	17.3	10.2	33.2	15.4			
有識者(計) その他除く	372	18.3	15.1	23.9	6.7	8.6	17.2	10.2	33.3	15.3			

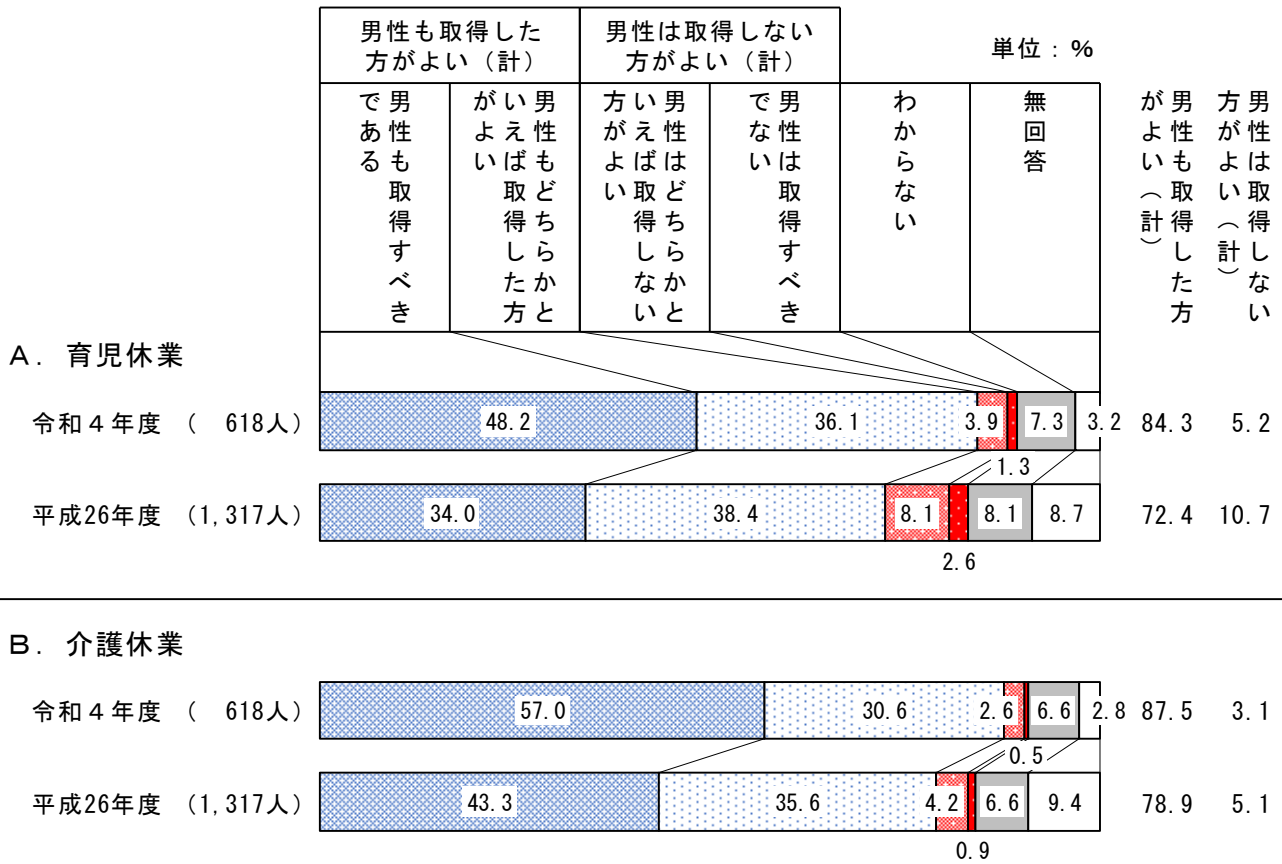
(5) 男性の育児休業や介護休業取得

問9 あなたは男性が育児休業や介護休業をとることについてどう思いますか。

(A～Bのそれぞれについて、1～5のどれかにひとつずつ〇)

男性が育児休業や介護休業をとることについては、「男性も取得すべきである」と「男性もどちらかといえば取得した方がよい」を合わせた『男性も取得した方がよい(計)』は、「A. 育児休業」(84.3%)、「B. 介護休業」(87.5%)とも8割を超えている。

経年変化でみると、平成26年度と比べ、『男性も取得した方がよい(計)』は、「A. 育児休業」が11.9ポイント、「B. 介護休業」が8.6ポイント増加した。



性・年代別にみる「男性の育児休業や介護休業取得」

A. 育児休業

性・年代別にみると、『男性も取得した方がよい（計）』は男女ともすべての年代で7割を超えている。一方、『男性は取得しない方がよい（計）』（「男性はどちらかといえば取得しない方がよい」と「男性は取得すべきでない」の合計）は男性50歳代を除き1割未満となっている。

		男性も取得した方がよい（計）		男性は取得しない方がよい（計）		（％）				
		男性も取得すべきである	男性も取得した方がよい（計）	男性は取得しない方がよい（計）	男性は取得すべきでない	わからない	無回答	男性も取得した方がよい（計）	男性は取得しない方がよい（計）	
全 体		618	48.2	36.1	3.9	1.3	7.3	3.2	84.3	5.2
「性・年代別」	女性（全体）	361	49.0	35.7	3.6	0.8	8.3	2.5	84.8	4.4
	10歳代	3	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-
	20歳代	24	66.7	25.0	-	-	8.3	-	91.7	-
	30歳代	54	50.0	35.2	3.7	1.9	9.3	-	85.2	5.6
	40歳代	62	45.2	40.3	8.1	-	6.5	-	85.5	8.1
	50歳代	63	42.9	33.3	6.3	3.2	14.3	-	76.2	9.5
	60歳代	59	59.3	33.9	1.7	-	3.4	1.7	93.2	1.7
	70歳以上	95	42.1	40.0	1.1	-	8.4	8.4	82.1	1.1
	男性（全体）	242	47.9	37.6	4.1	2.1	5.8	2.5	85.5	6.2
	10歳代	3	66.7	33.3	-	-	-	-	100.0	-
	20歳代	17	58.8	23.5	-	5.9	5.9	5.9	82.4	5.9
	30歳代	28	57.1	32.1	3.6	-	7.1	-	89.3	3.6
	40歳代	40	55.0	35.0	5.0	-	2.5	2.5	90.0	5.0
	50歳代	40	42.5	32.5	5.0	7.5	10.0	2.5	75.0	12.5
60歳代	40	37.5	50.0	7.5	-	5.0	-	87.5	7.5	
70歳以上	74	45.9	40.5	2.7	1.4	5.4	4.1	86.5	4.1	

B. 介護休業

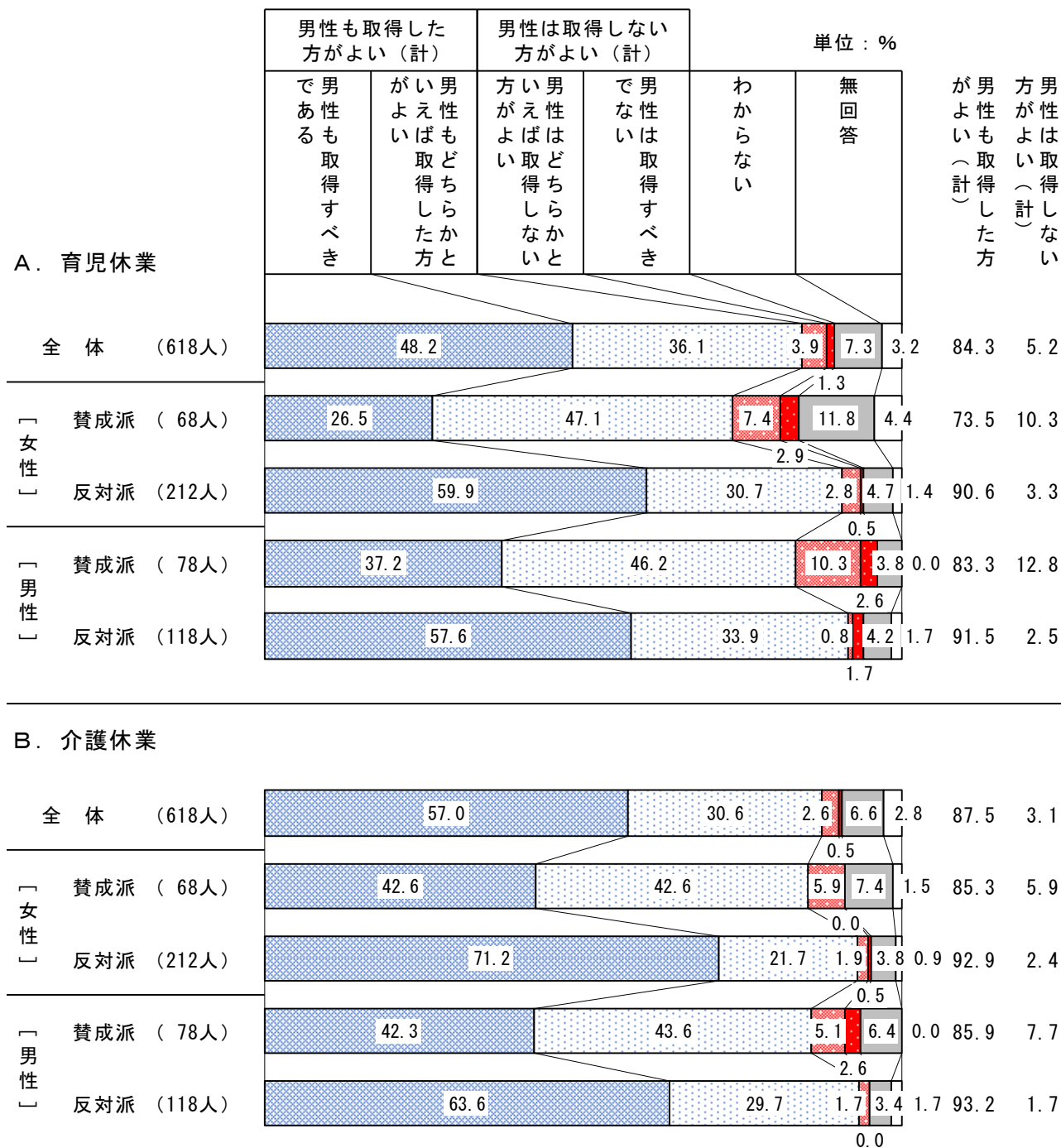
性・年代別にみると、『男性も取得した方がよい（計）』は男女ともすべての年代で8割を超えている。一方、『男性は取得しない方がよい（計）』は男女ともすべての年代で1割未満となっている。

		男性も取得した方がよい（計）		男性は取得しない方がよい（計）		（％）				
		男性も取得すべきである	取得しただけかといえ	取得しただけかといえ	男性は取得すべきでない	わからない	無回答	男性も取得した方がよい（計）	男性は取得しない方がよい（計）	
総数（人）										
全 体		618	57.0	30.6	2.6	0.5	6.6	2.8	87.5	3.1
〔性・年代別〕	女性（全体）	361	60.9	28.3	2.5	0.3	6.1	1.9	89.2	2.8
	10歳代	3	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-
	20歳代	24	70.8	25.0	-	-	4.2	-	95.8	-
	30歳代	54	66.7	25.9	1.9	-	5.6	-	92.6	1.9
	40歳代	62	66.1	25.8	1.6	-	6.5	-	91.9	1.6
	50歳代	63	60.3	30.2	4.8	-	4.8	-	90.5	4.8
	60歳代	59	59.3	32.2	3.4	-	3.4	1.7	91.5	3.4
	70歳以上	95	51.6	29.5	2.1	1.1	9.5	6.3	81.1	3.2
	男性（全体）	242	52.5	34.7	2.5	0.8	7.0	2.5	87.2	3.3
	10歳代	3	66.7	33.3	-	-	-	-	100.0	-
	20歳代	17	58.8	23.5	5.9	-	5.9	5.9	82.4	5.9
	30歳代	28	53.6	35.7	-	-	10.7	-	89.3	-
	40歳代	40	52.5	32.5	5.0	-	7.5	2.5	85.0	5.0
	50歳代	40	52.5	30.0	2.5	5.0	7.5	2.5	82.5	7.5
60歳代	40	52.5	40.0	2.5	-	5.0	-	92.5	2.5	
70歳以上	74	50.0	37.8	1.4	-	6.8	4.1	87.8	1.4	

性別で役割を分担する考え方（問 19）にみる「男性の育児休業や介護休業取得」

性別で役割を分担する考え方別にみると、「A. 育児休業」については、『反対派』は男女とも『男性も取得した方がよい（計）』が9割を超えている。『賛成派』は、男性は『男性も取得した方がよい（計）』が83.3%を占め、女性（73.5%）より約1割多い。

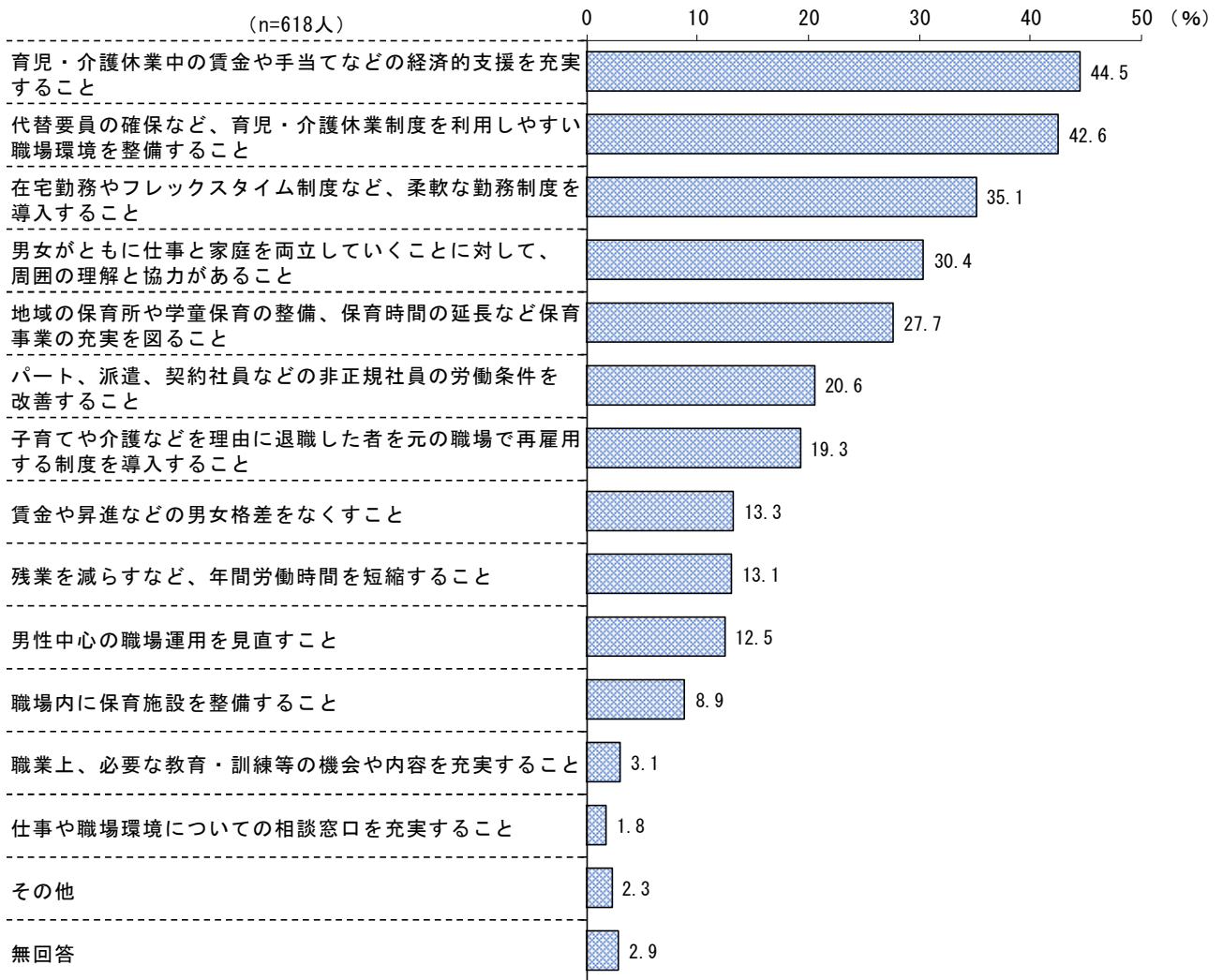
「B. 介護休業」については、『反対派』は男女とも『男性も取得した方がよい（計）』が9割以上、『賛成派』は男女とも8割以上を占め、特に『賛成派』女性は「A. 育児休業」に比べ1割ほど多い。



(6) 仕事と家庭の両立に必要なこと

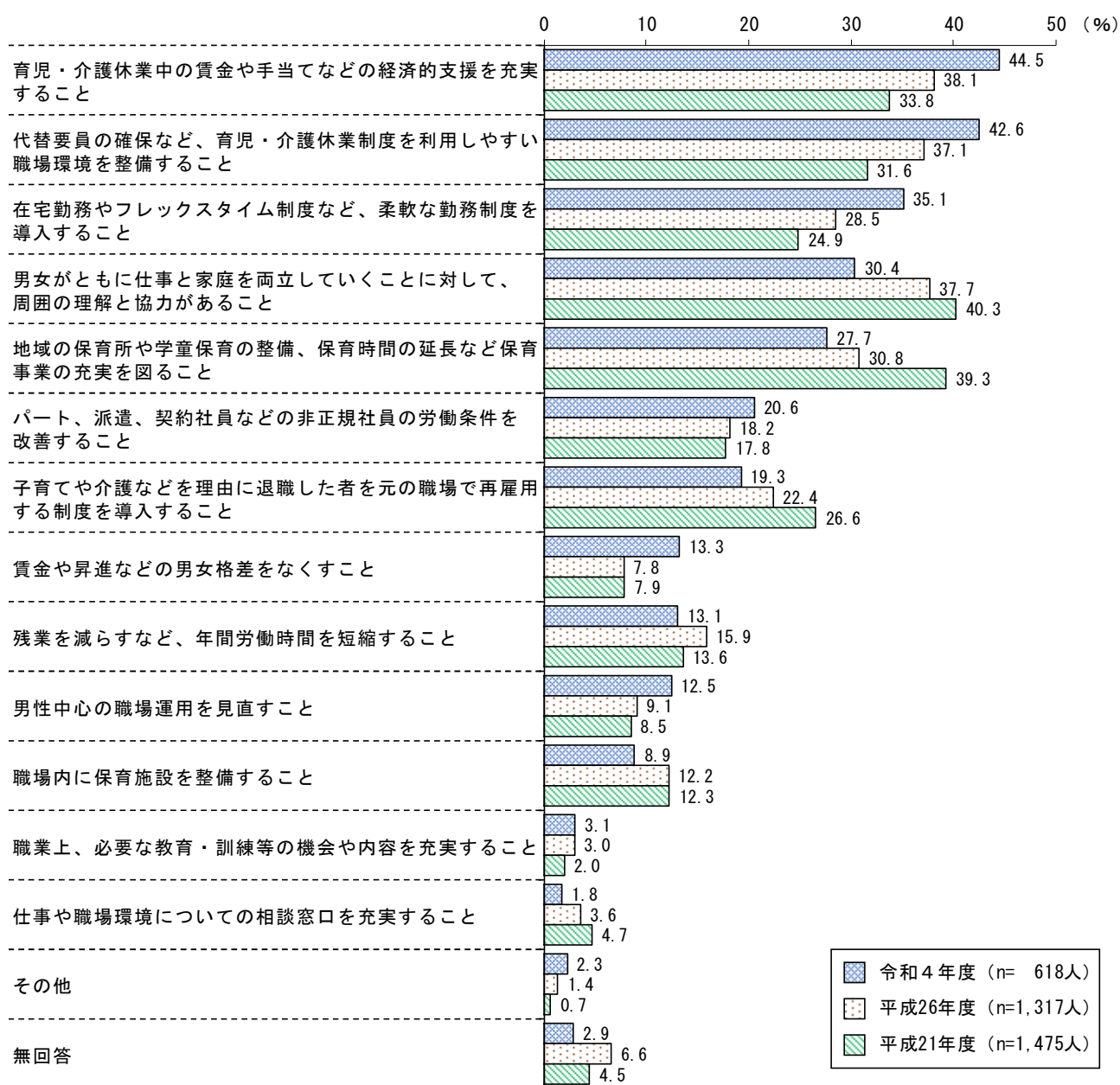
問10 あなたは男女がともに仕事と家庭を両立していくために、どのような環境整備が必要だと思いますか。(あてはまるものに3つまで○)

仕事と家庭を両立していくために必要な環境整備は、「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」が44.5%で最も多く、次いで「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること」(42.6%)、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」(35.1%)、「男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」(30.4%)の順となっている。



経年変化にみる「仕事と家庭の両立に必要なこと」

経年変化でみると、上位3項目は平成21年度以降増加傾向にあり、平成26年度と比べ、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」が6.6ポイント、「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」が6.4ポイント、「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること」が5.5ポイント増加した。「賃金や昇進などの男女格差をなくすこと」(13.3%)についても、平成26年度に比べ5.5ポイント増加した。一方、「男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」、「地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育事業の充実を図ること」(27.7%)、「子育てや介護などを理由に退職した者を元の職場で再雇用する制度を導入すること」(19.3%)などは減少傾向にある。

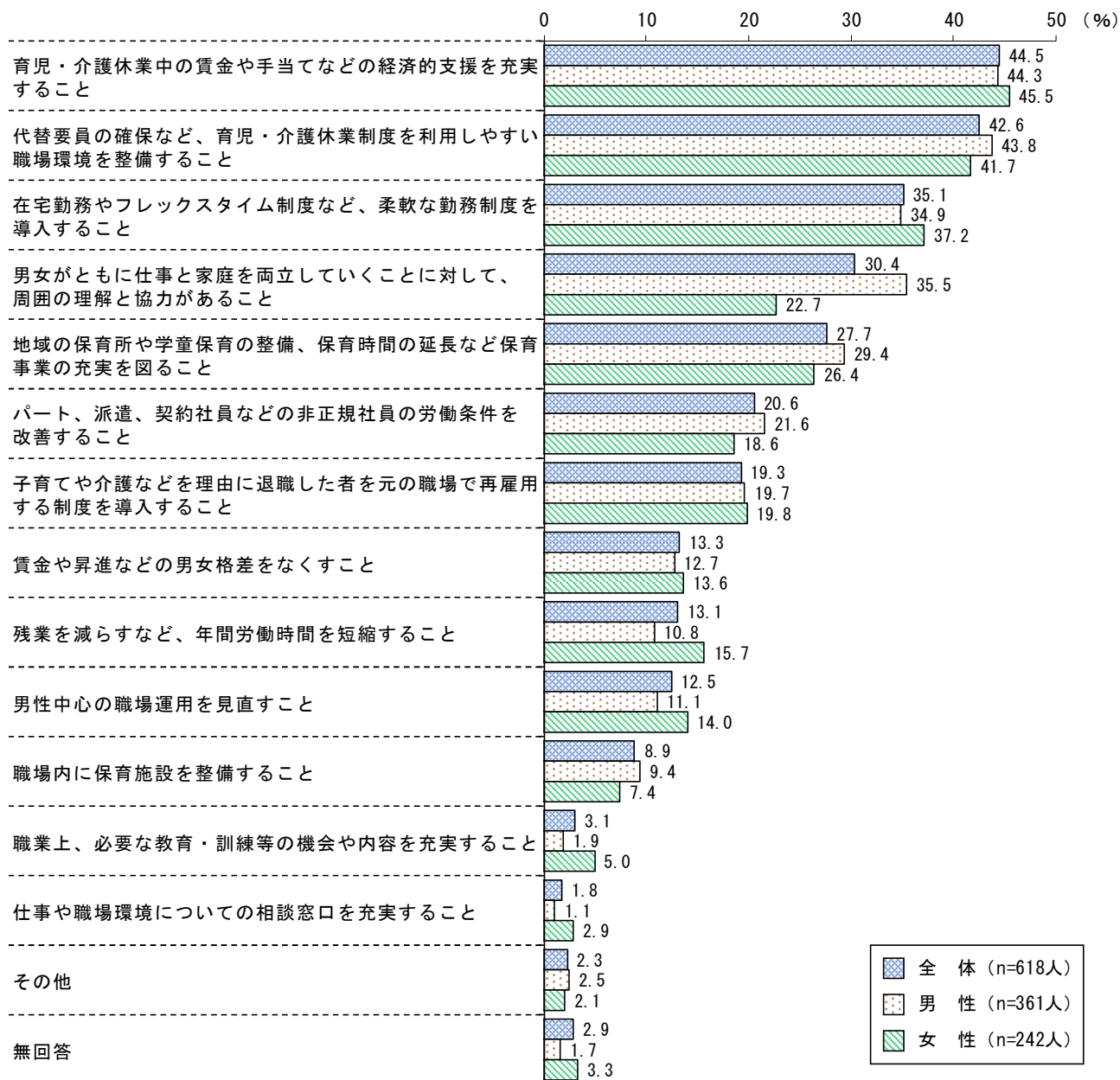


性別にみる「仕事と家庭の両立に必要なこと」

性別にみると、男女とも上位2項目は全体と共通となっている。

男性は「男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」が35.5%で3番目に多く、女性（22.7%）を12.8ポイント上回っている。

女性は「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」が37.2%で3番目に多く、男性も34.9%と同程度になっている。



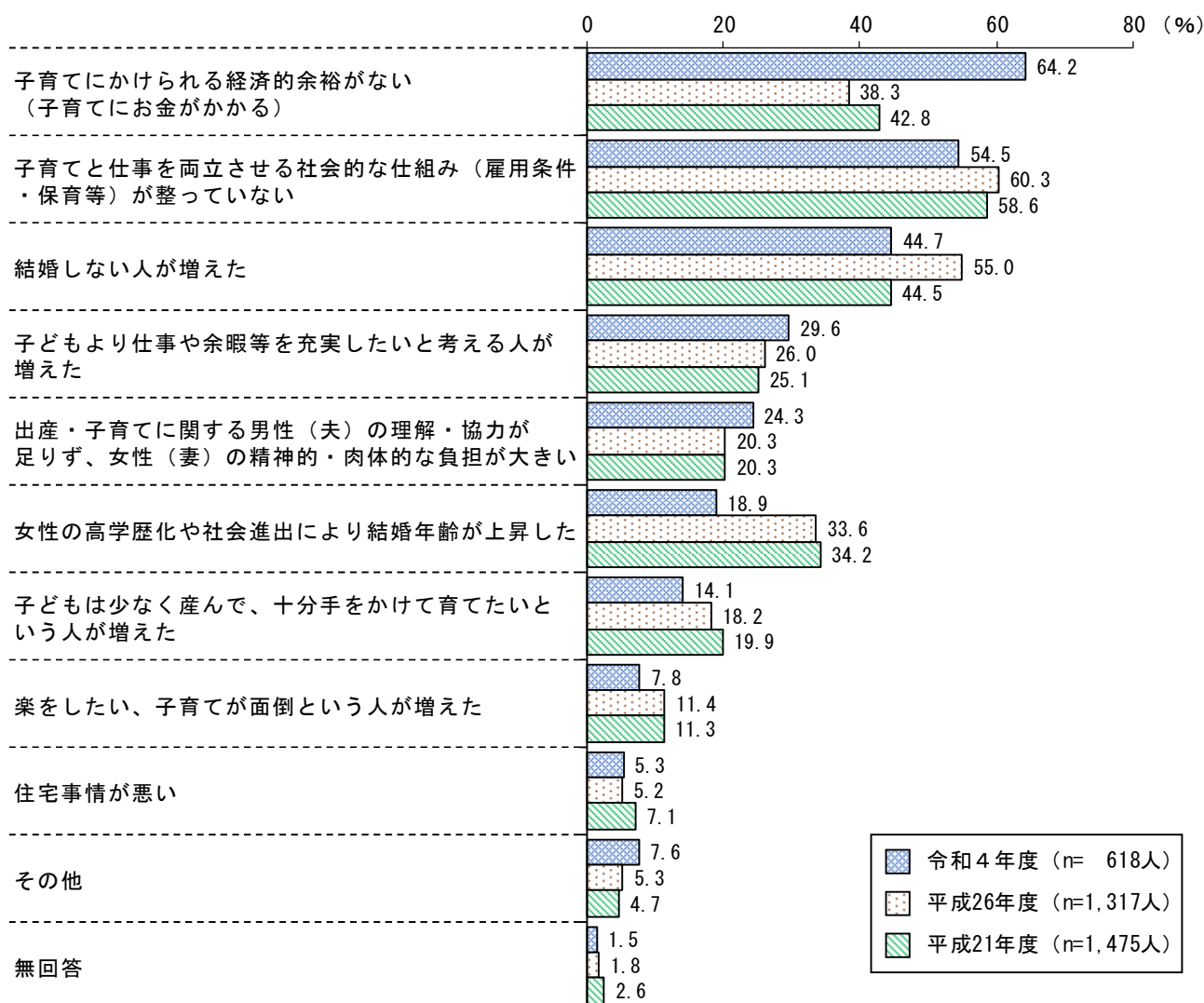
4. 少子・高齢化について

(1) 出生率低下の原因

問11 あなたは出生率が低下しているのは何が原因だと思いますか。(あてはまるものに3つまで○)

出生率が低下している原因については、「子育てにかけられる経済的余裕がない(子育てにお金がかかる)」が64.2%で最も多く、次いで「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み(雇用条件・保育等)が整っていない」(54.5%)、「結婚しない人が増えた」(44.7%)、「子どもより仕事や余暇等を充実したいと考える人が増えた」(29.6%)の順となっている。

経年変化でみると、平成26年度と比べ、「子育てにかけられる経済的余裕がない(子育てにお金がかかる)」が25.9ポイント増加する一方、「女性の高学歴化や社会進出により結婚年齢が上昇した」(18.9%)は14.7ポイント、「結婚しない人が増えた」は10.3ポイント、「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み(雇用条件・保育等)が整っていない」は5.8ポイント減少した。



性・年代別にみる「出生率低下の原因」

性・年代別にみると、男女とも上位3項目は全体と共通となっているが、「子育てにかけられる経済的余裕がない（子育てにお金がかかる）」は男性が74.4%と、女性（58.2%）に比べ16.2ポイント多い。

「子育てにかけられる経済的余裕がない（子育てにお金がかかる）」は男女とも若年層で高まる傾向にある。また、「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない」は男性70歳以上、「結婚しない人が増えた」は女性60歳以上で6割を超え、他の年代に比べて多い。

一方、「出産・子育てに関する男性（夫）の理解・協力が足りず、女性（妻）の精神的・肉体的な負担が大きい」（女性30.7%、男性14.9%）、「女性の高学歴化や社会進出により結婚年齢が上昇した」（女性21.1%、男性15.3%）は男性に比べて女性で多く、前者は40歳代、70歳以上で4割前後を占める。

(%)

	総数 (人)	子育てにかけられる経済的余裕がない (子育てにお金がかかる)	子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない	結婚しない人が増えた	子どもより仕事や余暇等が充実した いと考える人が増えた	精神的・肉体的な負担が大きい 理解・協力が足りず、女性（妻）の	出産・子育てに関する男性（夫）の 理解・協力が足りず、女性（妻）の	女性の高学歴化や社会進出により結 婚年齢が上昇した	子どもは少なく産んで、十分手をか けて育てたいという人が増えた	楽をしたい、子育てが面倒という人 が増えた	住宅事情が悪い	その他	無回答
全体	618	64.2	54.5	44.7	29.6	24.3	18.9	14.1	7.8	5.3	7.6	1.5	
「性・年代別」	女性（全体）	361	58.2	54.6	46.3	30.7	21.1	14.4	6.1	3.3	7.8	1.4	
	10歳代	3	100.0	66.7	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	
	20歳代	24	79.2	58.3	37.5	41.7	16.7	20.8	4.2	-	8.3	12.5	
	30歳代	54	75.9	51.9	40.7	35.2	16.7	16.7	18.5	1.9	3.7	13.0	
	40歳代	62	58.1	59.7	30.6	25.8	38.7	27.4	14.5	4.8	-	11.3	
	50歳代	63	66.7	54.0	34.9	41.3	22.2	14.3	14.3	7.9	1.6	9.5	
	60歳代	59	50.8	52.5	61.0	39.0	30.5	20.3	16.9	8.5	6.8	5.1	
	70歳以上	95	40.0	52.6	60.0	14.7	43.2	25.3	13.7	8.4	3.2	2.1	
	男性（全体）	242	74.4	54.5	43.0	29.3	14.9	15.3	14.5	9.9	7.4	7.9	
	10歳代	3	66.7	66.7	33.3	66.7	-	-	-	33.3	33.3	-	
	20歳代	17	94.1	47.1	52.9	17.6	11.8	11.8	11.8	-	5.9	5.9	
	30歳代	28	78.6	35.7	50.0	39.3	7.1	25.0	21.4	7.1	3.6	10.7	
	40歳代	40	77.5	45.0	52.5	40.0	7.5	15.0	7.5	15.0	2.5	10.0	
	50歳代	40	82.5	52.5	27.5	22.5	15.0	20.0	25.0	10.0	2.5	5.0	
60歳代	40	70.0	57.5	40.0	25.0	17.5	17.5	15.0	-	15.0	10.0		
70歳以上	74	64.9	67.6	43.2	27.0	21.6	9.5	10.8	14.9	9.5	6.8		

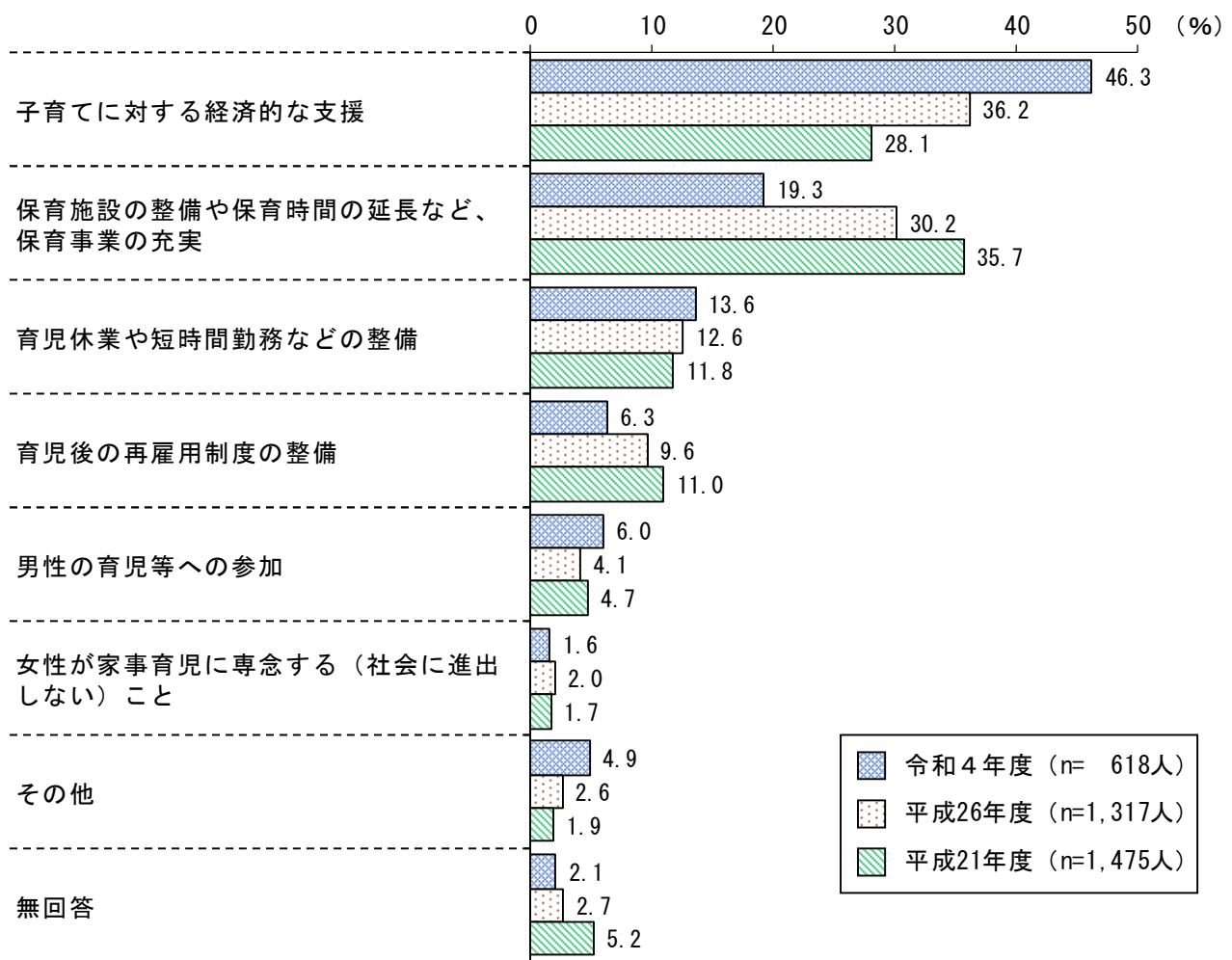
(2) 子どもを産み育てやすい社会にするために必要なこと

問 12 あなたは子どもを産み育てやすい社会にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(ひとつに〇)

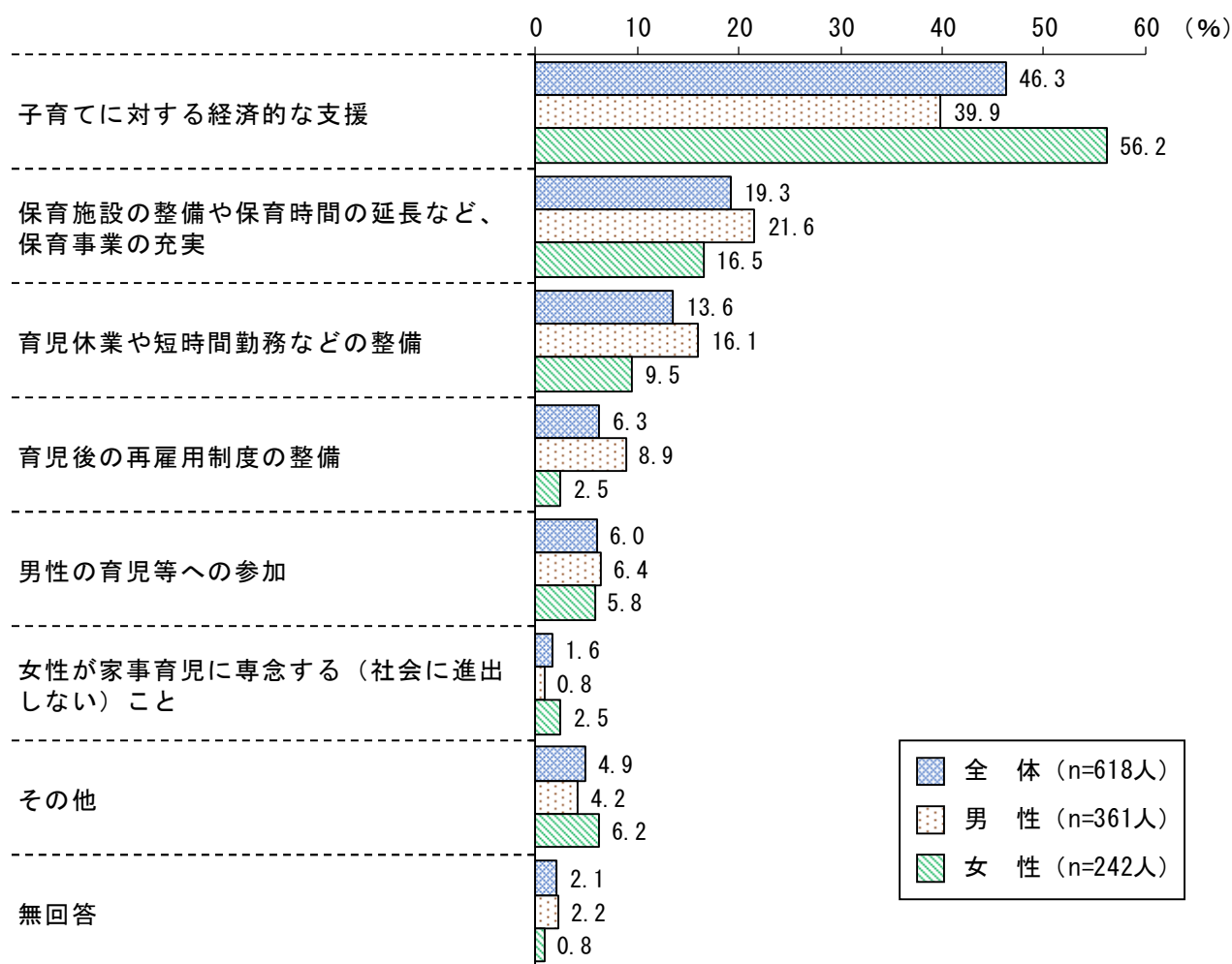
子どもを産み育てやすい社会にするために必要なことは、「子育てに対する経済的な支援」が 46.3% で最も多く、次いで「保育施設の整備や保育時間の延長など、保育事業の充実」(19.3%)、「育児休業や短時間勤務などの整備」(13.6%)、「育児後の再雇用制度の整備」(6.3%) の順となっている。

経年変化でみると、平成 21 年度以降、「子育てに対する経済的な支援」は増加傾向にあり、平成 26 年度と比べ、10.1 ポイント増加した。一方、「保育施設の整備や保育時間の延長など、保育事業の充実」「育児後の再雇用制度の整備」は減少傾向にあり、前者は平成 26 年度と比べ 10.9 ポイント減少した。



性別にみる「子どもを産み育てやすい社会にするために必要なこと」

性別にみると、男女とも上位3項目は共通となっているが、「子育てに対する経済的な支援」は女性が56.2%と、男性(39.9%)に比べて16.3ポイント多い。一方、「保育施設の整備や保育時間の延長など、保育事業の充実」「育児休業や短時間勤務などの整備」は男性の方が5ポイント以上多く、「育児後の再雇用制度の整備」についても、男性が女性を6.4ポイント上回っている。



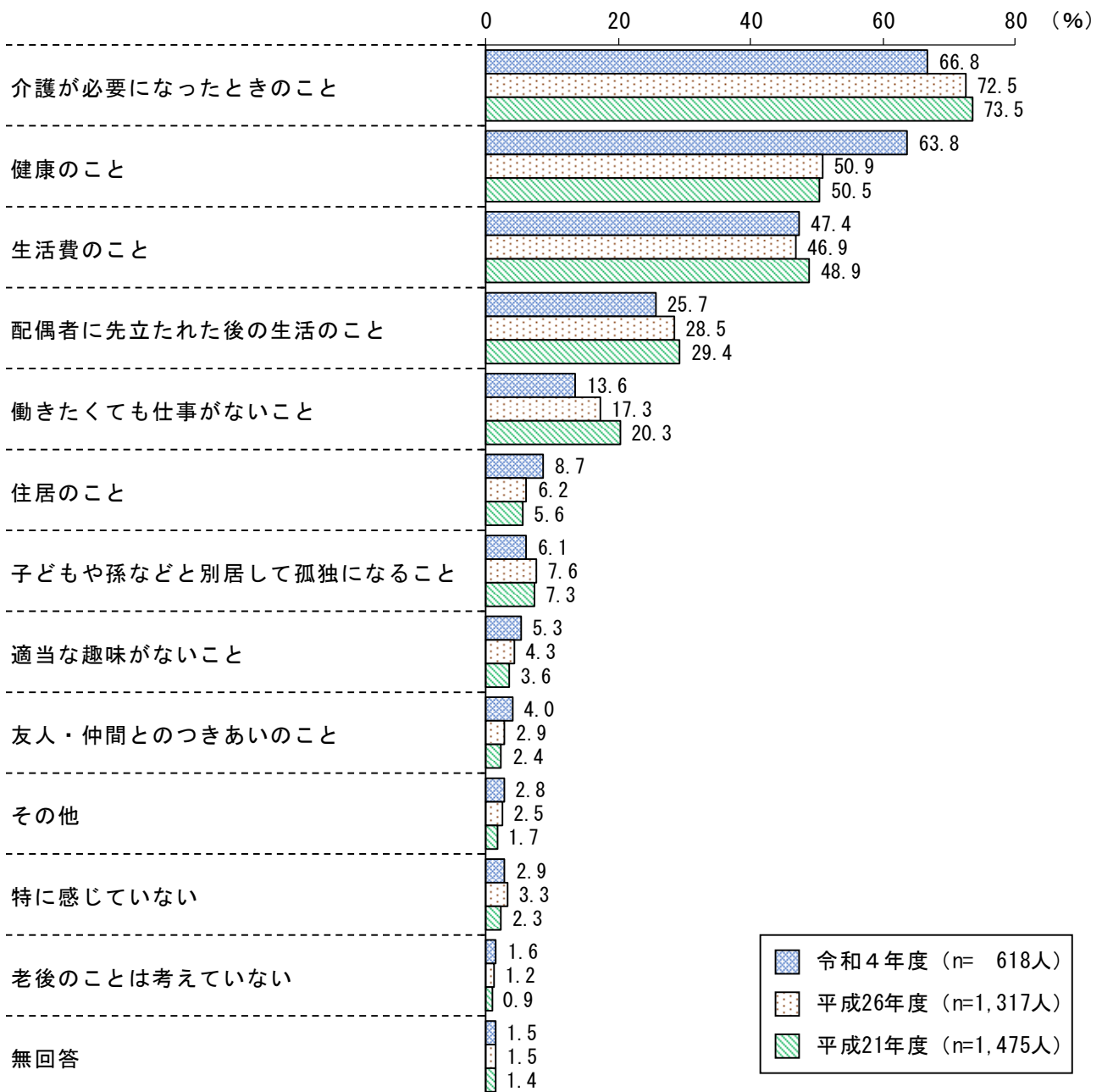
(3) 老後の不安

問 13 あなたが自分の老後に不安を感じるのはどのようなことですか。

(あてはまるものに3つまで○)

自分の老後にどのような不安を感じるかについては、「介護が必要になったときのこと」が 66.8%で最も多く、次いで「健康のこと」(63.8%)、「生活費のこと」(47.4%)、「配偶者に先立たれた後の生活のこと」(25.7%)の順となっている。

経年変化でみると、平成26年度と比べ、「健康のこと」が12.9ポイント増加する一方、「介護が必要になったときのこと」は5.7ポイント減少した。



性・年代別にみる「老後の不安」

性・年代別にみると、女性は「介護が必要になったときのこと」が70.1%で最も多く、男性を7.7ポイント上回っている。特に60歳以上は8割前後と他の年代に比べて多い。女性は「住居のこと」(11.4%)も男性に比べて多い。

男性は「健康のこと」が68.6%で最も多く、女性を7.9ポイント上回っている。「健康のこと」は男女とも60歳以上で7割を超えるが、男性20歳代も70.6%を占める。

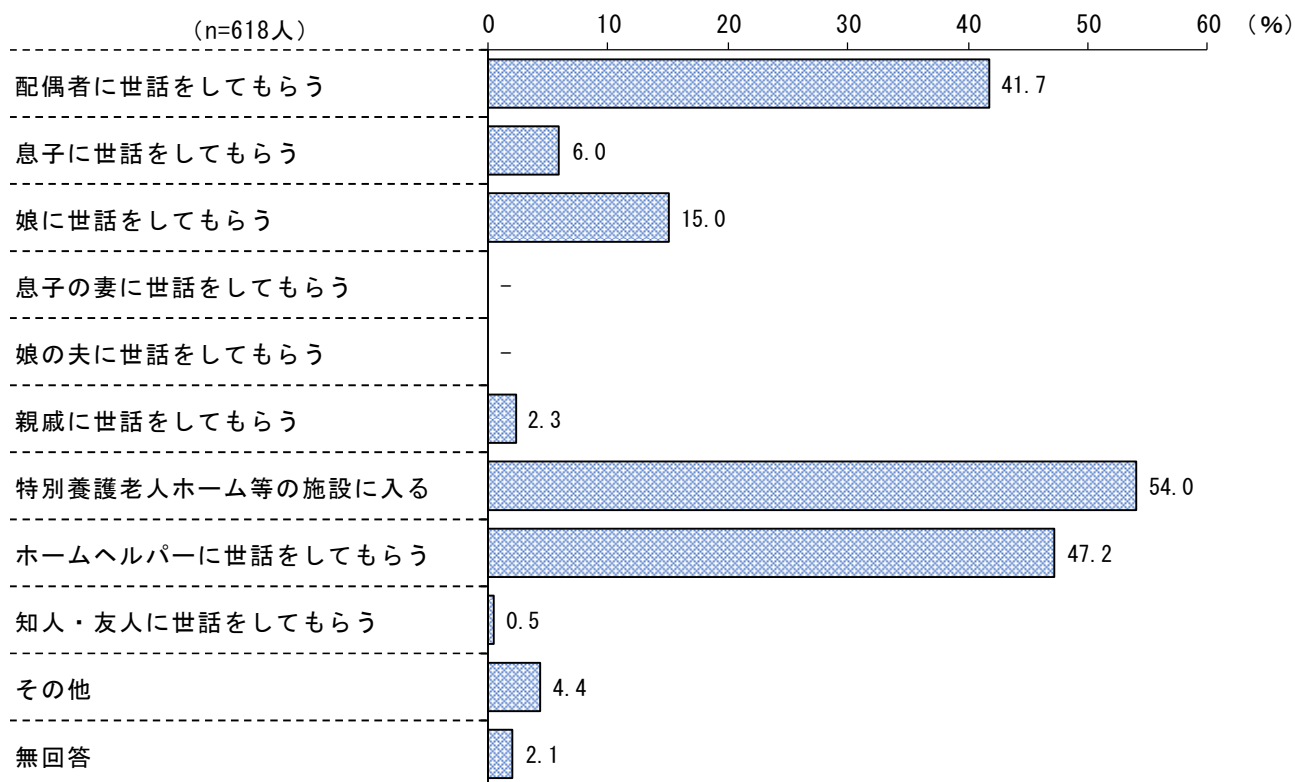
また、「生活費のこと」は男女とも30～50歳代、「働きたくても仕事がないこと」は女性20～30歳代、男性30～40歳代で高く、前者は特に女性30歳代で75.9%を占める。

		(%)													
		総数 (人)	介護が必要になったときのこと	健康のこと	生活費のこと	配偶者に先立たれた後の生活のこと	働きたくても仕事がないこと	住居のこと	子どもや孫などと別居して孤独になること	適当な趣味がないこと	友人・仲間とのつきあいのこと	その他	特に感じていない	老後のことは考えていない	無回答
全体		618	66.8	63.8	47.4	25.7	13.6	8.7	6.1	5.3	4.0	2.8	2.9	1.6	1.5
「性・年代別」	女性(全体)	361	70.1	60.7	49.0	27.4	12.2	11.4	7.2	5.0	2.8	2.8	2.5	1.1	0.8
	10歳代	3	66.7	66.7	66.7	33.3	-	33.3	-	-	-	33.3	-	-	-
	20歳代	24	66.7	45.8	45.8	12.5	25.0	8.3	8.3	-	-	-	4.2	12.5	-
	30歳代	54	53.7	42.6	75.9	27.8	20.4	13.0	9.3	3.7	1.9	3.7	1.9	-	-
	40歳代	62	66.1	51.6	59.7	25.8	19.4	22.6	6.5	1.6	3.2	3.2	1.6	1.6	-
	50歳代	63	65.1	57.1	60.3	27.0	15.9	12.7	6.3	3.2	1.6	3.2	3.2	-	-
	60歳代	59	81.4	72.9	35.6	39.0	3.4	5.1	5.1	11.9	3.4	5.1	1.7	-	-
	70歳以上	95	78.9	75.8	28.4	24.2	3.2	6.3	8.4	6.3	4.2	-	3.2	-	3.2
	男性(全体)	242	62.4	68.6	45.0	24.4	15.7	4.5	4.5	5.8	5.8	2.9	3.7	2.5	1.2
	10歳代	3	100.0	33.3	66.7	-	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-
	20歳代	17	52.9	70.6	35.3	29.4	11.8	-	11.8	-	17.6	5.9	-	11.8	-
	30歳代	28	46.4	42.9	60.7	17.9	25.0	3.6	-	10.7	3.6	7.1	7.1	7.1	-
	40歳代	40	47.5	65.0	55.0	22.5	27.5	-	2.5	10.0	10.0	2.5	2.5	2.5	2.5
	50歳代	40	70.0	67.5	67.5	10.0	15.0	10.0	2.5	2.5	2.5	-	5.0	-	-
60歳代	40	72.5	82.5	35.0	27.5	15.0	2.5	10.0	5.0	5.0	5.0	2.5	2.5	-	
70歳以上	74	67.6	74.3	28.4	33.8	6.8	5.4	4.1	4.1	4.1	1.4	4.1	-	2.7	

(4) 身の回りの世話をしてもらいたい相手

問 14 あなたがもし日常生活が不自由になったとき、身の回りの世話はどなたにしてもらいたいと思いますか。(あてはまるものに2つまで○)

日常生活が不自由になったとき、身の回りの世話をしてもらいたい相手は、「特別養護老人ホーム等の施設に入る」が 54.0%で最も多く、次いで「ホームヘルパーに世話をしてもらおう」(47.2%)、「配偶者に世話をしてもらおう」(41.7%)、「娘に世話をしてもらおう」(15.0%) の順となっている。



経年変化にみる「身の回りの世話をしてもらいたい相手」

経年変化でみると、「配偶者に世話をしてもらう」は平成7年度以降減少傾向にあり、平成26年度までは5割を超え最も多かったが、令和4年度は41.7%で3位となっている。一方、「特別養護老人ホーム等の施設に入る」は増加傾向にあり、令和4年度は平成26年度と比べ7.6ポイント増加し、最も多くなった。「ホームヘルパーに世話をしてもらう」についても、平成26年度と比べ9.0ポイント増加し、2位となった。

(%)

	平成7年度 (n=1,614人)	平成17年度 (n=1,328人)	平成21年度 (n=1,475人)	平成26年度 (n=1,317人)	令和4年度 (n=618人)
配偶者に世話をしてもらう	62.2	56.3	56.3	54.6	41.7
息子に世話をしてもらう	8.3	7.2	5.7	6.8	6.0
娘に世話をしてもらう	27.9	18.8	19.1	15.9	15.0
息子の妻に世話をしてもらう	5.3	2.8	1.8	1.1	-
娘の夫に世話をしてもらう				-	-
親戚に世話をしてもらう	1.9	0.7	1.4	1.2	2.3
特別養護老人ホーム等の施設に入る	37.6	38.7	46.0	46.4	54.0
ホームヘルパーに世話をしてもらう	24.3	39.2	34.0	38.2	47.2
知人・友人に世話をしてもらう	0.4	0.4	0.3	0.7	0.5
その他	1.7	2.0	3.2	4.8	4.4
無回答	1.6	4.2	2.6	1.7	2.1

性・年代別にみる「身の回りの世話をしてもらいたい相手」

性・年代別にみると、男女とも「特別養護老人ホーム等の施設に入る」が5割を超え最も多い。「特別養護老人ホーム等の施設に入る」は女性50歳代、男性40歳代を除き5割を超える。

女性は「ホームヘルパーに世話をしてもらおう」が50.4%で2番目に多く、男性を6.6ポイント上回る。「娘に世話をしてもらおう」についても、女性(20.5%)は男性(7.4%)に比べて13.1ポイント多い。一方、「息子に世話をしてもらおう」に大きな男女差は見られない。

男性は「配偶者に世話をしてもらおう」が54.1%で2番目に多く、女性を19.8ポイント上回る。「配偶者に世話をしてもらおう」は男性30～40歳代、60歳以上で5割以上を占めるが、女性は全年代で4割未満となっている。

		(%)											
		総数 (人)	配偶者に世話を してもらおう	息子に世話を してもらおう	娘に世話を してもらおう	息子の妻に世話を してもらおう	娘の夫に世話を してもらおう	親戚に世話を してもらおう	特別養護老人 ホーム等の施設 に入る	ホームヘル パーに世話を してもらおう	知人・友人に世話を してもらおう	その他	無 回 答
全 体		618	41.7	6.0	15.0	-	-	2.3	54.0	47.2	0.5	4.4	2.1
「性・ 年代別」	女性(全体)	361	34.3	7.5	20.5	-	-	1.7	52.9	50.4	0.6	4.2	1.1
	10歳代	3	33.3	-	-	-	-	-	66.7	33.3	-	-	-
	20歳代	24	33.3	-	-	-	-	12.5	66.7	37.5	-	8.3	-
	30歳代	54	37.0	5.6	11.1	-	-	-	50.0	61.1	-	11.1	1.9
	40歳代	62	35.5	9.7	21.0	-	-	-	53.2	56.5	1.6	1.6	1.6
	50歳代	63	36.5	12.7	25.4	-	-	1.6	46.0	42.9	1.6	1.6	-
	60歳代	59	39.0	-	30.5	-	-	1.7	57.6	49.2	-	3.4	-
	70歳以上	95	28.4	10.5	21.1	-	-	1.1	51.6	50.5	-	3.2	2.1
	男性(全体)	242	54.1	4.1	7.4	-	-	3.3	56.2	43.8	0.4	4.1	2.1
	10歳代	3	33.3	-	-	-	-	33.3	66.7	66.7	-	-	-
	20歳代	17	41.2	5.9	-	-	-	11.8	58.8	41.2	5.9	5.9	-
	30歳代	28	60.7	-	7.1	-	-	7.1	60.7	39.3	-	-	-
	40歳代	40	55.0	2.5	10.0	-	-	2.5	42.5	45.0	-	7.5	7.5
	50歳代	40	37.5	7.5	5.0	-	-	2.5	62.5	52.5	-	-	-
60歳代	40	50.0	5.0	12.5	-	-	2.5	65.0	40.0	-	7.5	-	
70歳以上	74	66.2	4.1	6.8	-	-	-	52.7	41.9	-	4.1	2.7	

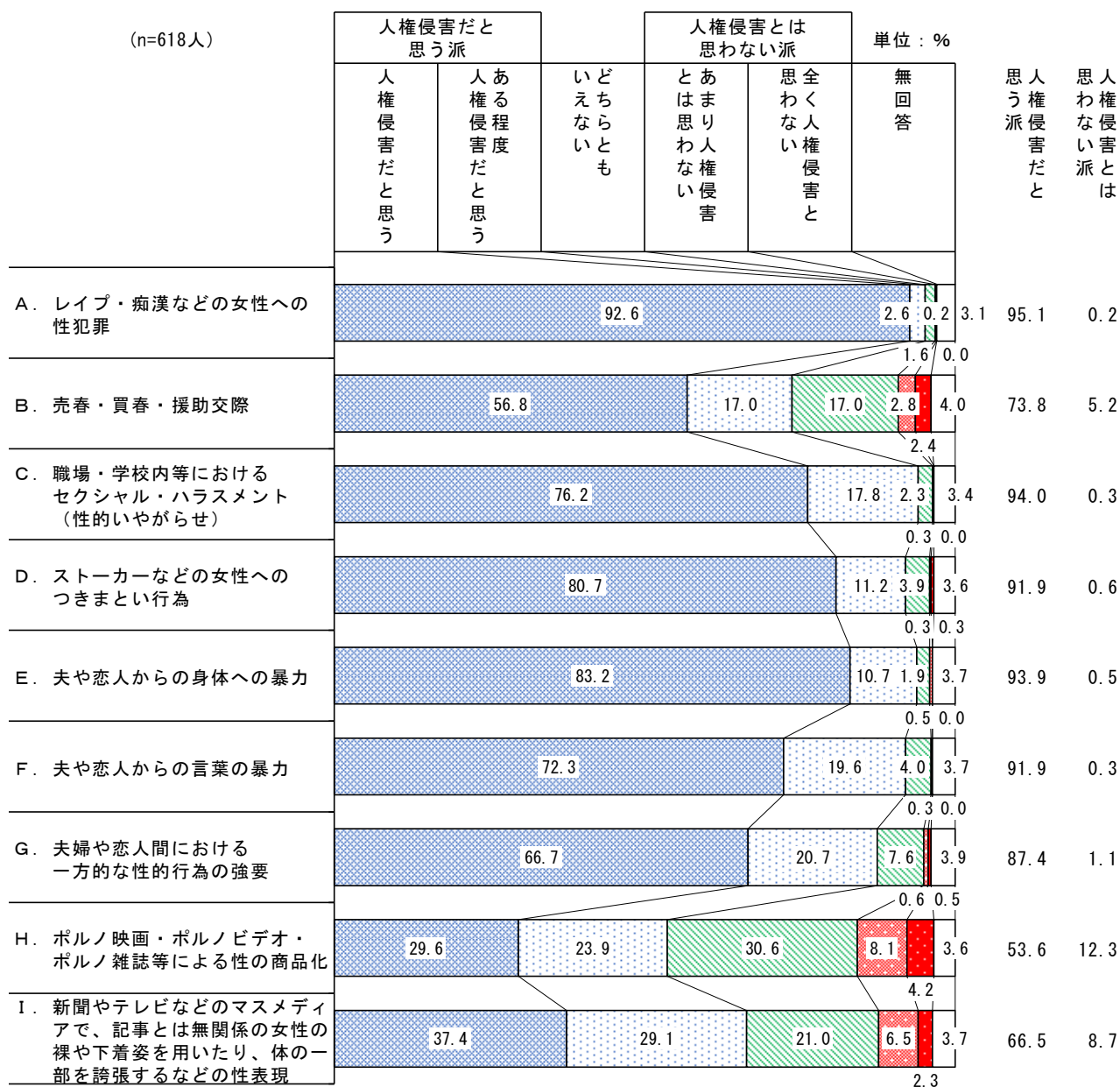
5. 性・暴力と人権について

(1) 女性の人権が侵害されていると感じること

問 15 あなたは、女性の人権が侵害されていると感じるのは、どのようなことですか。

(A～Iのそれぞれについて、1～5のどれかにひとつずつ〇)

女性の人権が侵害されていると感じることについては、全9項目のうち6項目で『人権侵害だと思う派』が8割以上を占めている。残りの3項目の『人権侵害だと思う派』の割合をみると、「B. 売春・買春・援助交際」では73.8%、「I. 新聞やテレビなどのマスメディアで、記事とは無関係の女性の裸や下着姿を用いたり、体の一部を誇張するなどの性表現」では66.5%、「H. ポルノ映画・ポルノビデオ・ポルノ雑誌等による性の商品化」では53.6%となっている。



経年変化にみる「女性の人権が侵害されていると感じること」

経年変化でみると、「A. レイプ・痴漢などの女性への性犯罪」は平成17年度以降、「C. 職場・学校内等におけるセクシャル・ハラスメント（性的いやがらせ）」「D. ストーカーなどの女性へのつきまとい行為」「E. 夫や恋人からの身体への暴力」は平成21年度以降『人権侵害だと思う派』が9割を超えている。

「F. 夫や恋人からの言葉の暴力」「G. 夫婦や恋人間における一方的な性的行為の強要」「I. 新聞やテレビなどのマスメディアで、記事とは無関係の女性の裸や下着姿を用いたり、体の一部を誇張するなどの性表現」については、平成17年度以降『人権侵害だと思う派』が増加傾向にあり、令和4年度はそれぞれ最も多くなっている。

「B. 売春・買春・援助交際」「H. ポルノ映画・ポルノビデオ・ポルノ雑誌等による性の商品化」については、平成17年度と比べ『人権侵害だと思う派』が増加しているものの、増加率は停滞気味となっている。

	総数 (人)	人権侵害だと思う派			人権侵害とは思わない派			(%)	
		人権侵害だと思う	人権侵害程度だと思う	いどちらでもない	とあまり思わない人権侵害	全く人権侵害と思わない	無回答	人権侵害派だと思う	人権侵害派とは
A. レイプ・痴漢などの女性への性犯罪									
令和4年度	618	92.6	2.6	1.6	0.2	-	3.1	95.1	0.2
平成26年度	1,317	91.3	3.7	1.0	0.8	0.2	3.1	95.0	0.9
平成21年度	1,475	90.0	4.1	1.2	0.7	0.4	3.5	94.2	1.2
平成17年度	1,328	83.7	7.9	1.8	0.4	0.3	5.9	91.6	0.7
B. 売春・買春・援助交際									
令和4年度	618	56.8	17.0	17.0	2.8	2.4	4.0	73.8	5.2
平成26年度	1,317	56.0	18.4	9.3	8.5	4.5	3.4	74.3	13.0
平成21年度	1,475	53.1	19.0	10.2	9.8	3.3	4.6	72.1	13.1
平成17年度	1,328	44.7	17.6	14.1	11.5	4.9	7.2	62.3	16.4
C. 職場・学校内等におけるセクシャル・ハラスメント（性的いやがらせ）									
令和4年度	618	76.2	17.8	2.3	0.3	-	3.4	94.0	0.3
平成26年度	1,317	75.9	17.2	1.4	1.6	0.2	3.6	93.1	1.8
平成21年度	1,475	73.1	19.3	1.3	1.6	0.3	4.5	92.3	1.9
平成17年度	1,328	63.6	24.5	2.5	2.0	0.5	6.9	88.1	2.5
D. ストーカーなどの女性へのつきまとい行為									
令和4年度	618	80.7	11.2	3.9	0.3	0.3	3.6	91.9	0.6
平成26年度	1,317	81.1	12.1	1.7	1.3	0.2	3.6	93.2	1.5
平成21年度	1,475	78.4	13.6	1.3	2.0	0.5	4.3	92.0	2.4
平成17年度	1,328	73.3	15.1	1.7	2.6	0.4	6.9	88.4	3.0
E. 夫や恋人からの身体への暴力									
令和4年度	618	83.2	10.7	1.9	0.5	-	3.7	93.9	0.5
平成26年度	1,317	80.6	11.8	2.1	1.7	0.2	3.7	92.3	1.9
平成21年度	1,475	75.9	16.5	1.6	1.2	0.3	4.5	92.4	1.5
平成17年度	1,328	68.9	18.8	2.3	2.0	0.5	7.5	87.7	2.5

	総数 (人)	人権侵害だと思派			人権侵害とは思わない派			無回答	(%)	
		人権侵害だと思	人権ある程度だと思	いどちらとも	とあまり思わない	思わなく人権侵害	思		人権侵害だと思	人権侵害とは思
F. 夫や恋人からの言葉の暴力										
令和4年度	618	72.3	19.6	4.0	0.3	-	3.7	91.9	0.3	
平成26年度	1,317	63.6	26.0	2.7	3.6	0.2	3.9	89.5	3.9	
平成21年度	1,475	56.6	31.5	2.2	4.2	0.6	4.9	88.1	4.8	
平成17年度	1,328	49.6	33.1	4.0	5.3	0.5	7.5	82.7	5.8	
G. 夫婦や恋人間における一方的な性的行為の強要										
令和4年度	618	66.7	20.7	7.6	0.6	0.5	3.9	87.4	1.1	
平成26年度	1,317	58.9	26.7	4.7	4.9	0.9	3.9	85.6	5.8	
平成21年度	1,475	50.8	32.3	5.6	6.1	0.6	4.6	83.1	6.7	
平成17年度	1,328	43.5	32.8	7.4	7.8	1.2	7.3	76.3	9.0	
H. ポルノ映画・ポルノビデオ・ポルノ雑誌等による性の商品化										
令和4年度	618	29.6	23.9	30.6	8.1	4.2	3.6	53.6	12.3	
平成26年度	1,317	27.1	28.5	12.8	22.1	5.8	3.6	55.6	27.9	
平成21年度	1,475	26.2	28.2	12.9	22.4	5.4	4.8	54.4	27.9	
平成17年度	1,328	26.4	25.5	14.2	21.1	5.7	7.2	51.9	26.8	
I. 新聞やテレビなどのマスメディアで、記事とは無関係の女性の裸や下着姿を用いたり、体の一部を誇張するなどの性表現										
令和4年度	618	37.4	29.1	21.0	6.5	2.3	3.7	66.5	8.7	
平成26年度	1,317	32.1	28.8	10.8	20.1	4.7	3.5	60.9	24.8	
平成21年度	1,475	27.3	31.8	11.2	21.0	4.3	4.4	59.1	25.4	
平成17年度	1,328	28.3	28.6	12.5	18.7	4.5	7.4	56.9	23.2	

性別にみる「女性の人権が侵害されていると感じること」

性別にみると、9項目すべてで女性の方が『人権侵害だと思う派』が多い。「B. 売春・買春・援助交際」「H. ポルノ映画・ポルノビデオ・ポルノ雑誌等による性の商品化」「I. 新聞やテレビなどのマスメディアで、記事とは無関係の女性の裸や下着姿を用いたり、体の一部を誇張するなどの性表現」は10ポイント以上、「F. 夫や恋人からの言葉の暴力」「G. 夫婦や恋人間における一方的な性的行為の強要」は5ポイント以上、女性の方が『人権侵害だと思う派』が多くなっている。

	総数 (人)	人権侵害だと思派			人権侵害とは思わない派			(%)	
		人権侵害だと思派	人権侵害だと思派	いどちえちらないとも	とあまり思われない人権侵害	全く思わない人権侵害	無回答	人権侵害だと思派	人権侵害とは思わない派
A. レイプ・痴漢などの女性への性犯罪									
女性	361	93.6	2.5	1.4	-	-	2.5	96.1	-
男性	242	92.1	2.9	1.7	0.4	-	2.9	95.0	0.4
B. 売春・買春・援助交際									
女性	361	63.4	16.3	12.2	2.5	1.7	3.9	79.8	4.2
男性	242	48.3	17.8	24.4	3.3	3.3	2.9	66.1	6.6
C. 職場・学校内等におけるセクシャル・ハラスメント（性的いやがらせ）									
女性	361	79.2	16.6	1.4	-	-	2.8	95.8	-
男性	242	72.3	20.7	3.3	0.8	-	2.9	93.0	0.8
D. ストーカーなどの女性へのつきまとい行為									
女性	361	82.8	11.1	2.8	0.3	-	3.0	93.9	0.3
男性	242	78.5	12.0	5.4	0.4	0.8	2.9	90.5	1.2
E. 夫や恋人からの身体への暴力									
女性	361	84.5	11.6	0.8	-	-	3.0	96.1	-
男性	242	82.2	9.5	3.7	1.2	-	3.3	91.7	1.2
F. 夫や恋人からの言葉の暴力									
女性	361	76.2	18.8	1.9	0.3	-	2.8	95.0	0.3
男性	242	67.4	21.5	7.0	0.4	-	3.7	88.8	0.4
G. 夫婦や恋人間における一方的な性的行為の強要									
女性	361	69.0	20.8	6.4	0.3	0.3	3.3	89.8	0.6
男性	242	64.0	20.7	9.9	1.2	0.8	3.3	84.7	2.1
H. ポルノ映画・ポルノビデオ・ポルノ雑誌等による性の商品化									
女性	361	36.0	23.5	27.1	7.8	2.8	2.8	59.6	10.5
男性	242	21.5	22.7	37.2	8.7	6.6	3.3	44.2	15.3
I. 新聞やテレビなどのマスメディアで、記事とは無関係の女性の裸や下着姿を用いたり、体の一部を誇張するなどの性表現									
女性	361	44.3	28.0	18.0	6.4	0.6	2.8	72.3	6.9
男性	242	28.1	30.6	26.0	6.6	5.0	3.7	58.7	11.6

性別で役割を分担する考え方（問 19）にみる「女性の人権が侵害されていると感じること」

性別で役割を分担する考え方別にみると、「A. レイプ・痴漢などの女性への性犯罪」以外の項目で『反対派』の方が『人権侵害だと思う派』が多いが、「A. レイプ・痴漢などの女性への性犯罪」「D. ストーカーなどの女性へのつきまとい行為」などほぼ同率の項目もある。9項目のうち、「H. ポルノ映画・ポルノビデオ・ポルノ雑誌等による性の商品化」は7.7ポイント、「I. 新聞やテレビなどのマスメディアで、記事とは無関係の女性の裸や下着姿を用いたり、体の一部を誇張するなどの性表現」は6.1ポイント、『反対派』の方が『人権侵害だと思う派』が多くなっている。

	総数 (人)	人権侵害だと思 う派		い ど ち え ら な い と も	人権侵害とは 思わない派		無 回 答	思 う 人 権 派 侵 害 だ と	思 わ な い 人 権 派 侵 害 と は	(%)
		人 権 侵 害 だ と 思 う	人 あ る 程 度 だ と 思 う		と あ ま 思 わ な い 人 権 侵 害	全 く 思 わ な い 人 権 侵 害				
A. レイプ・痴漢などの女性への性犯罪										
賛成派	147	96.6	0.7	1.4	0.7	-	0.7	97.3	0.7	
反対派	337	93.5	3.6	1.2	-	-	1.8	97.0	-	
B. 売春・買春・援助交際										
賛成派	147	61.2	12.9	17.7	4.8	1.4	2.0	74.1	6.1	
反対派	337	57.3	20.2	15.1	2.4	2.7	2.4	77.4	5.0	
C. 職場・学校内等におけるセクシャル・ハラスメント（性的いやがらせ）										
賛成派	147	72.8	22.4	1.4	1.4	-	2.0	95.2	1.4	
反対派	337	78.9	17.5	1.8	-	-	1.8	96.4	-	
D. ストーカーなどの女性へのつきまとい行為										
賛成派	147	81.0	12.9	2.7	0.7	0.7	2.0	93.9	1.4	
反対派	337	81.9	12.2	3.6	0.3	0.3	1.8	94.1	0.6	
E. 夫や恋人からの身体への暴力										
賛成派	147	83.0	11.6	0.7	2.0	-	2.7	94.6	2.0	
反対派	337	85.8	10.4	1.8	-	-	2.1	96.1	-	
F. 夫や恋人からの言葉の暴力										
賛成派	147	69.4	23.1	4.8	0.7	-	2.0	92.5	0.7	
反対派	337	76.0	18.4	3.0	0.3	-	2.4	94.4	0.3	
G. 夫婦や恋人間における一方的な性的行為の強要										
賛成派	147	63.3	22.4	10.9	0.7	-	2.7	85.7	0.7	
反対派	337	71.2	18.7	6.2	0.6	0.9	2.4	89.9	1.5	
H. ポルノ映画・ポルノビデオ・ポルノ雑誌等による性の商品化										
賛成派	147	27.2	21.8	36.1	6.8	5.4	2.7	49.0	12.2	
反対派	337	32.0	24.6	27.6	8.6	4.7	2.4	56.7	13.4	
I. 新聞やテレビなどのマスメディアで、記事とは無関係の女性の裸や下着姿を用いたり、体の一部を誇張するなどの性表現										
賛成派	147	31.3	32.0	23.8	6.8	2.7	3.4	63.3	9.5	
反対派	337	41.5	27.9	17.5	7.7	3.0	2.4	69.4	10.7	

(2) DV (ドメスティック・バイオレンス) だと思ふこと

問 16 配偶者や恋人からの暴力をDV (ドメスティック・バイオレンス) と言いますが、
あなたは次のような行為をDVだと思ひますか。

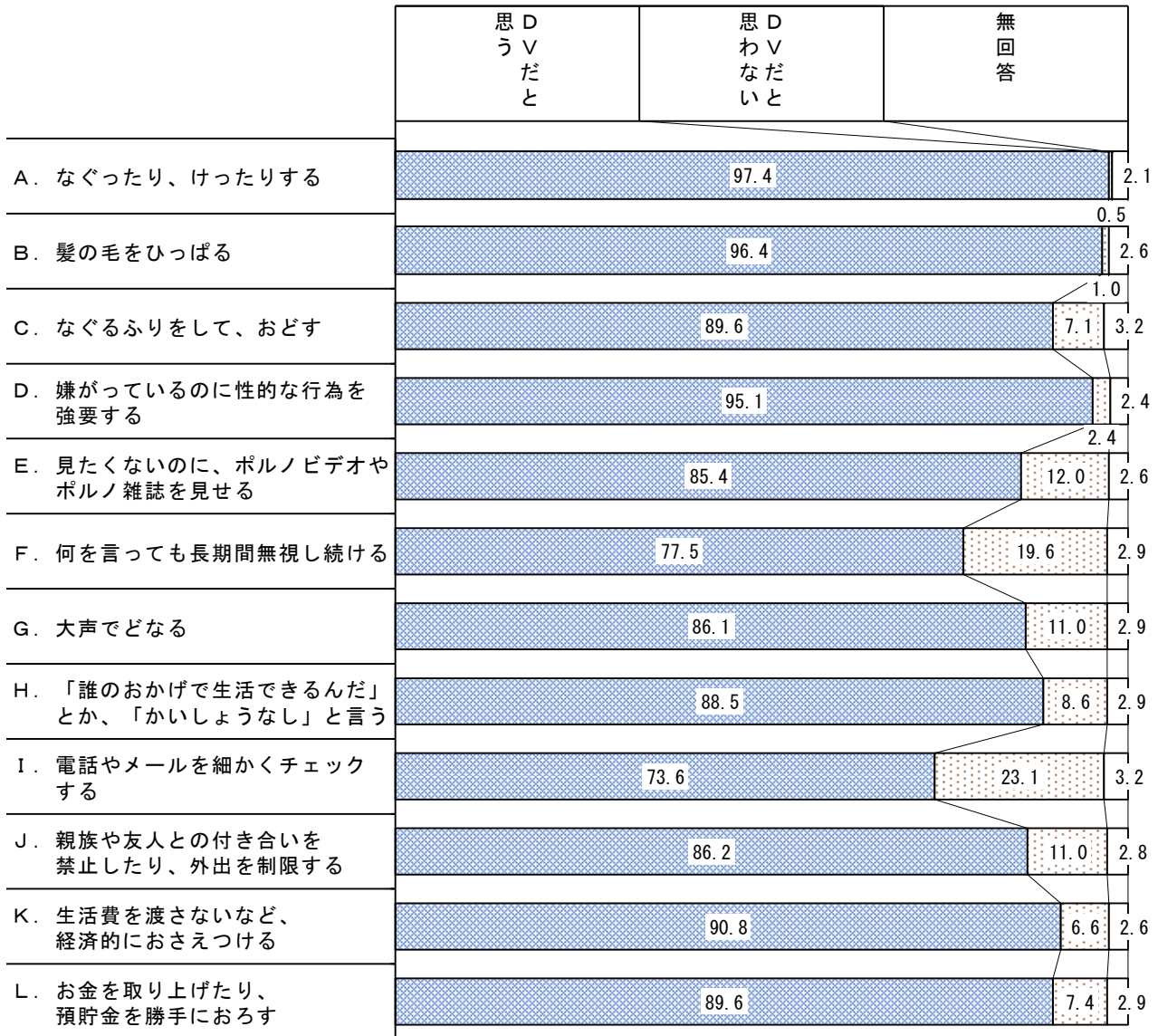
(A~Lのそれぞれについて、1~2のどちらかひとつに○)

DV (ドメスティック・バイオレンス) だと思ふことについては、全12項目のうち10項目で「DVだと思ふ」が8割以上を占めている。「DVだと思ふ」のは、「A. なぐったり、けったりする」が97.4%で最も多く、次いで「B. 髪の毛をひっぱる」(96.4%)、「D. 嫌がっているのに性的な行為を強要する」(95.1%)、「K. 生活費を渡さないなど、経済的におさえつける」(90.8%)の順となっている。

一方、「DVだと思わない」のは、「I. 電話やメールを細かくチェックする」が23.1%で最も多く、次いで「F. 何を言っても長期間無視し続ける」(19.6%)、「E. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」(12.0%)の順となっている。

(n=618人)

単位：%



性別にみる「DV（ドメスティック・バイオレンス）だと思うこと」

性別にみると、12項目中10項目で女性が男性より「DVだと思う」割合が多く、「G. 大声でどなる」は8.6ポイント、「I. 電話やメールを細かくチェックする」は6.7ポイント、「L. お金を取り上げたり、預貯金を勝手におろす」は6.1ポイント、「F. 何を言っても長期間無視し続ける」は5.9ポイント上回っている。

		(%)		
	総数 (人)	D V だ と 思 う	D V だ と 思 わ な い	無 回 答
A. なぐったり、けったりする				
女 性	361	98.6	-	1.4
男 性	242	96.7	1.2	2.1
B. 髪の毛をひっぱる				
女 性	361	97.8	0.3	1.9
男 性	242	95.9	2.1	2.1
C. なぐるふりをして、おどす				
女 性	361	91.4	6.1	2.5
男 性	242	88.4	8.7	2.9
D. 嫌がっているのに性的な行為を強要する				
女 性	361	95.3	3.0	1.7
男 性	242	96.3	1.7	2.1
E. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる				
女 性	361	85.3	13.0	1.7
男 性	242	87.2	10.3	2.5
F. 何を言っても長期間無視し続ける				
女 性	361	80.3	17.7	1.9
男 性	242	74.4	22.7	2.9

		(%)		
	総数 (人)	D V だ と 思 う	D V だ と 思 わ な い	無 回 答
G. 大声でどなる				
女 性	361	90.0	8.0	1.9
男 性	242	81.4	15.7	2.9
H. 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う				
女 性	361	90.9	7.2	1.9
男 性	242	86.4	10.7	2.9
I. 電話やメールを細かくチェックする				
女 性	361	76.5	21.3	2.2
男 性	242	69.8	26.9	3.3
J. 親族や友人との付き合いを禁止したり、外出を制限する				
女 性	361	88.6	9.7	1.7
男 性	242	83.9	13.2	2.9
K. 生活費を渡さないなど、経済的におさえつける				
女 性	361	92.5	5.8	1.7
男 性	242	89.3	8.3	2.5
L. お金を取り上げたり、預貯金を勝手におろす				
女 性	361	92.5	5.8	1.7
男 性	242	86.4	10.3	3.3

性別で役割を分担する考え方（問19）にみる
「DV（ドメスティック・バイオレンス）だと思うこと」

性別で役割を分担する考え方別にみると、12項目いずれも『反対派』が『賛成派』より「DVだと思う」割合が多く、「F. 何を言っても長期間無視し続ける」「I. 電話やメールを細かくチェックする」は10ポイント以上、「C. なぐるふりをして、おどす」「E. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「G. 大声でどなる」「H. 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う」「K. 生活費を渡さないなど、経済的におさえつける」「L. お金を取り上げたり、預貯金を勝手におろす」は5ポイント以上、『反対派』が上回っている。

		(%)		
	総数 (人)	D V だ と 思 う	D V だ と 思 わ な い	無 回 答
A. なぐったり、けったりする				
賛成派	147	98.0	1.4	0.7
反対派	337	98.5	0.3	1.2
B. 髪の毛をひっぱる				
賛成派	147	96.6	1.4	2.0
反対派	337	97.9	0.9	1.2
C. なぐるふりをして、おどす				
賛成派	147	87.8	10.2	2.0
反対派	337	92.9	5.6	1.5
D. 嫌がっているのに性的な行為を強要する				
賛成派	147	95.2	2.7	2.0
反対派	337	97.3	1.8	0.9
E. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる				
賛成派	147	81.6	15.6	2.7
反対派	337	87.8	11.3	0.9
F. 何を言っても長期間無視し続ける				
賛成派	147	68.7	27.9	3.4
反対派	337	83.4	15.7	0.9

		(%)		
	総数 (人)	D V だ と 思 う	D V だ と 思 わ な い	無 回 答
G. 大声でどなる				
賛成派	147	82.3	15.6	2.0
反対派	337	89.3	9.5	1.2
H. 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う				
賛成派	147	83.7	13.6	2.7
反対派	337	92.3	6.8	0.9
I. 電話やメールを細かくチェックする				
賛成派	147	64.6	32.0	3.4
反対派	337	78.0	21.1	0.9
J. 親族や友人との付き合いを禁止したり、外出を制限する				
賛成派	147	84.4	12.9	2.7
反対派	337	88.4	10.7	0.9
K. 生活費を渡さないなど、経済的におさえつける				
賛成派	147	86.4	11.6	2.0
反対派	337	94.1	5.0	0.9
L. お金を取り上げたり、預貯金を勝手におろす				
賛成派	147	86.4	10.9	2.7
反対派	337	92.0	6.8	1.2

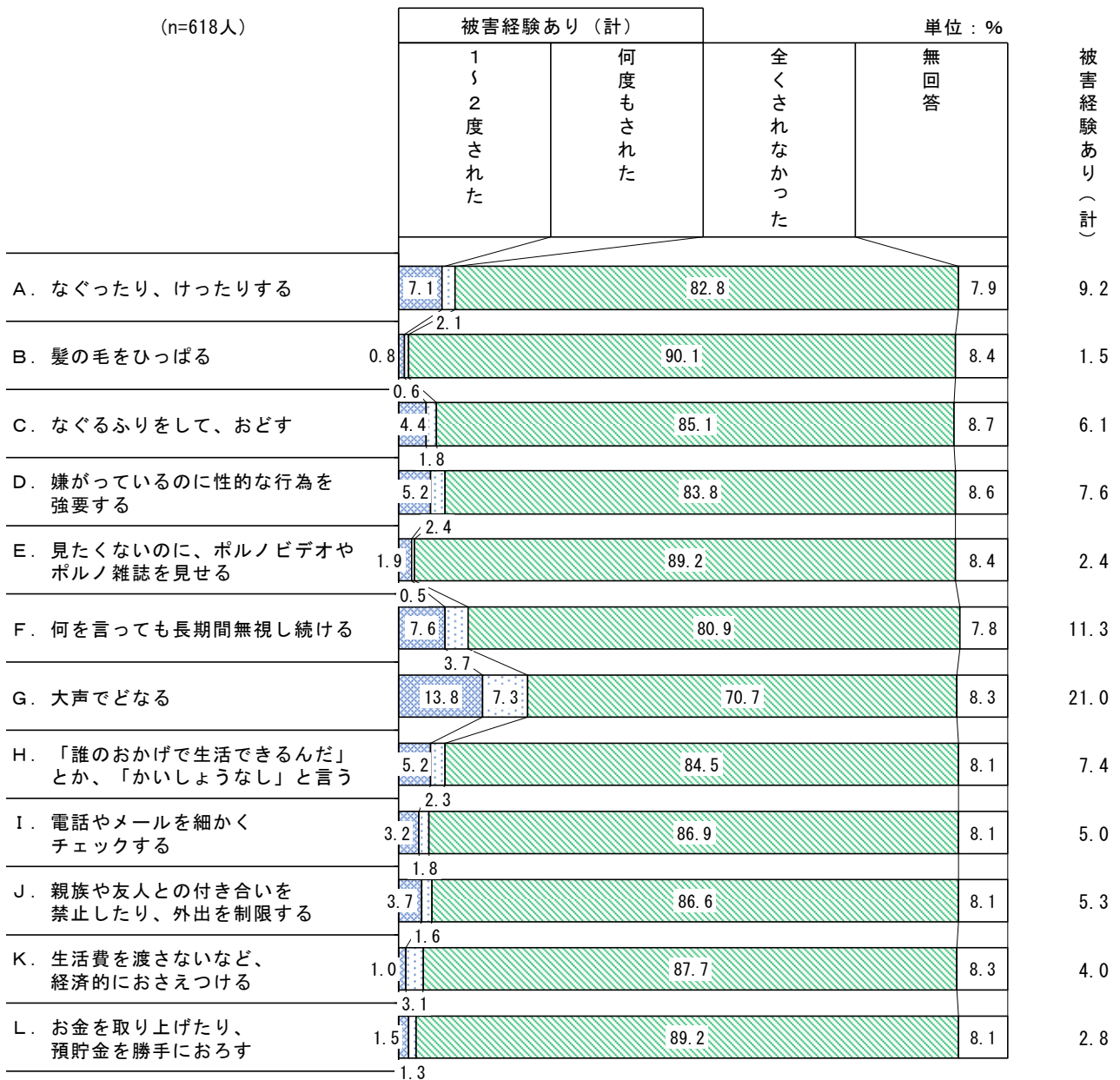
(3) DVの被害経験、加害経験

問17 あなたはこれまで配偶者（事実婚や離別・死別を含む）や恋人などのパートナーから、
次のような行為をされたこと（被害経験）、または、したこと（加害経験）がありますか。

（A～Lのそれぞれについて、被害経験、加害経験ともに1～3のどれかひとつに○）

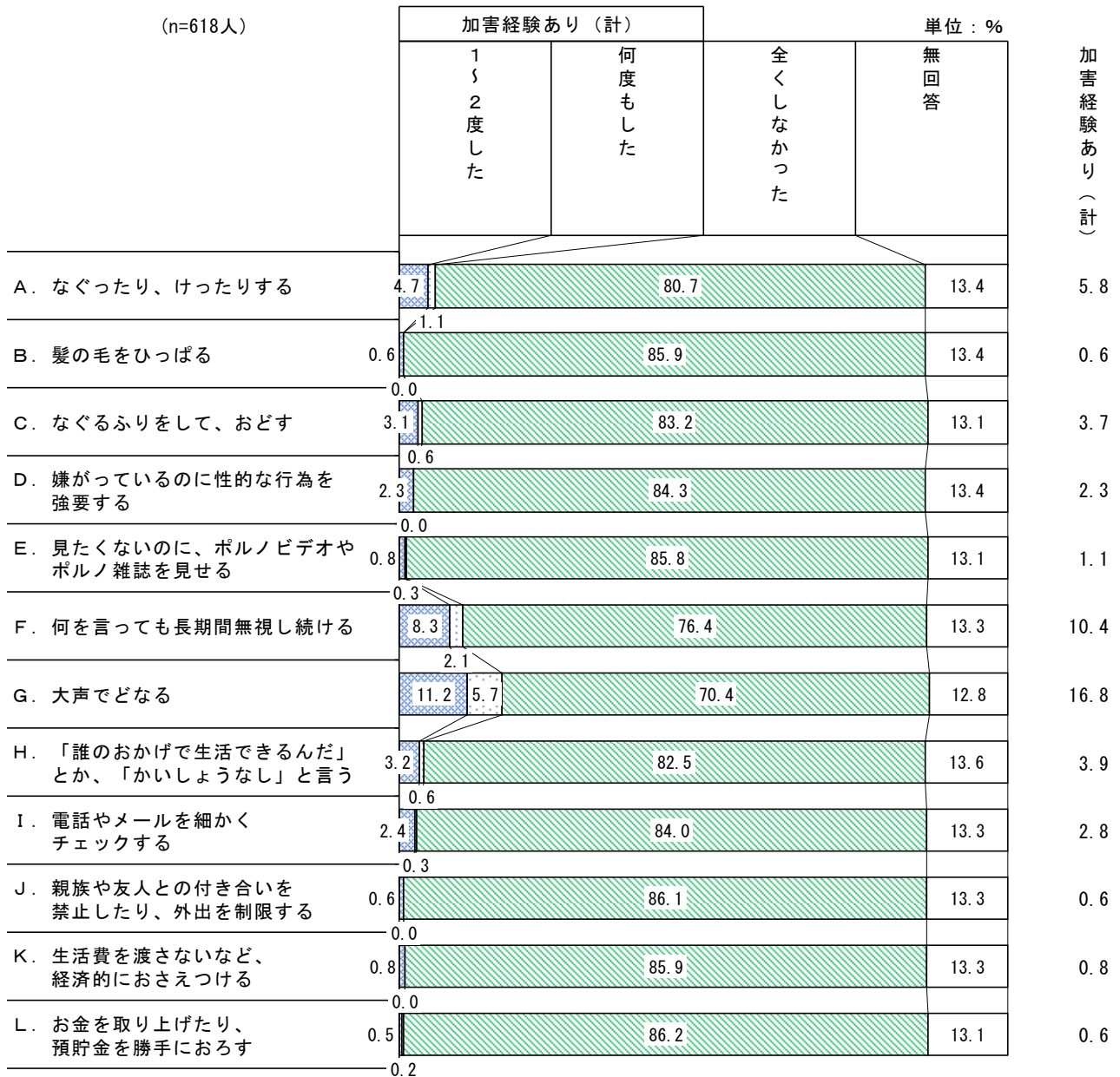
《された経験（被害経験）について》

これまで配偶者（事実婚や離別・死別を含む）や恋人などのパートナーから、A～Lの12項目に当たる行為を「された経験（被害経験）」があるかについては、「1～2度された」と「何度もされた」を合わせた『被害経験あり（計）』の割合は、「G. 大声でどなる」が21.0%で最も多く、次いで「F. 何を言っても長期間無視し続ける」（11.3%）、「A. なぐったり、けったりする」（9.2%）、「D. 嫌がっているのに性的な行為を強要する」（7.6%）の順となっている。『被害経験あり（計）』が1割を超えるのは、「G. 大声でどなる」と「F. 何を言っても長期間無視し続ける」の2項目となっている。



《した経験（加害経験）について》

これまで配偶者（事実婚や離別・死別を含む）や恋人などのパートナーに、A～Lの12項目に当たる行為を「した経験（加害経験）」があるかについては、「1～2度した」と「何度もした」を合わせた『加害経験あり（計）』の割合は、「G. 大声でどなる」が16.8%で最も多く、次いで「F. 何を言っても長期間無視し続ける」（10.4%）、「A. なぐったり、けったりする」（5.8%）、「H. 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う」（3.9%）の順となっている。『加害経験あり（計）』が1割を超えるのは、「G. 大声でどなる」と「F. 何を言っても長期間無視し続ける」の2項目となっている。



性別、年代別にみる「DVの被害経験、加害経験」

A. なぐったり、けったりする

性別にみると、『被害経験あり（計）』は女性が11.9%で男性より6.9ポイント多く、『加害経験あり（計）』はいずれも1割未満となっている。

年代別にみると、『被害経験あり（計）』は、50歳代、70歳以上で1割を超える。

		総数 (人)	被害経験あり（計）				被害 経験 あり (計) (%)	加害経験あり（計）				
			さ し れ た 2 度	何 度 も さ れ た	さ 全 く な か つ た	無 回 答		1 し 2 度 し た	何 度 も し た	し 全 く な か つ た	無 回 答	加 害 経 験 あ り (計) (%)
全 体		618	7.1	2.1	82.8	7.9	9.2	4.7	1.1	80.7	13.4	5.8
「性別」	女 性	361	10.0	1.9	82.5	5.5	11.9	3.3	1.1	79.5	16.1	4.4
	男 性	242	3.3	1.7	84.3	10.7	5.0	7.0	0.8	83.9	8.3	7.9
「年代別」	10歳代	6	-	-	66.7	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-
	20歳代	41	-	-	90.2	9.8	-	-	-	85.4	14.6	-
	30歳代	82	4.9	4.9	86.6	3.7	9.8	6.1	-	86.6	7.3	6.1
	40歳代	106	4.7	3.8	86.8	4.7	8.5	1.9	3.8	90.6	3.8	5.7
	50歳代	103	9.7	1.0	86.4	2.9	10.7	7.8	1.0	80.6	10.7	8.7
	60歳代	101	5.9	1.0	86.1	6.9	6.9	2.0	2.0	81.2	14.9	4.0
	70歳以上	173	11.0	1.7	74.6	12.7	12.7	6.9	-	72.8	20.2	6.9

B. 髪の毛をひっぱる

性別にみると、男女とも『被害経験あり（計）』『加害経験あり（計）』いずれも1割未満となっている。

年代別にみると、すべての年代で『被害経験あり（計）』『加害経験あり（計）』いずれも1割未満となっている。

		総数 (人)	被害経験あり（計）				被害 経験 あり (計) (%)	加害経験あり（計）				
			さ し れ た 2 度	何 度 も さ れ た	さ 全 く な か つ た	無 回 答		1 し 2 度 し た	何 度 も し た	し 全 く な か つ た	無 回 答	加 害 経 験 あ り (計) (%)
全 体		618	0.8	0.6	90.1	8.4	1.5	0.6	-	85.9	13.4	0.6
「性別」	女 性	361	1.1	0.8	91.4	6.6	1.9	0.3	-	83.9	15.8	0.3
	男 性	242	0.4	-	89.7	9.9	0.4	1.2	-	90.5	8.3	1.2
「年代別」	10歳代	6	-	-	66.7	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-
	20歳代	41	-	-	90.2	9.8	-	-	-	85.4	14.6	-
	30歳代	82	2.4	1.2	92.7	3.7	3.7	1.2	-	91.5	7.3	1.2
	40歳代	106	1.9	-	94.3	3.8	1.9	0.9	-	94.3	4.7	0.9
	50歳代	103	-	1.0	95.1	3.9	1.0	1.0	-	88.3	10.7	1.0
	60歳代	101	-	1.0	92.1	6.9	1.0	-	-	85.1	14.9	-
	70歳以上	173	0.6	0.6	84.4	14.5	1.2	0.6	-	79.8	19.7	0.6

C. なぐるふりをして、おどす

性別にみると、男女とも『被害経験あり（計）』『加害経験あり（計）』いずれも1割未満となっているが、『加害経験あり（計）』は男性が女性より6.0ポイント多い。

年代別にみると、『被害経験あり（計）』は女性40歳代で10.4%となっており、『加害経験あり（計）』はいずれも1割未満となっている。

		総数 (人)	被害経験あり（計） (%)				加害経験あり（計） (%)					
			さ 1 れ 2 度	何 度 も さ れ た	さ 全 く な か っ た	無 回 答	(被 害 経 験 あ り 計)	1 と 2 度 し た	何 度 も し た	し 全 く な か っ た	無 回 答	(加 害 経 験 あ り 計)
全 体		618	4.4	1.8	85.1	8.7	6.1	3.1	0.6	83.2	13.1	3.7
「性別」	女 性	361	5.8	1.7	85.9	6.6	7.5	1.1	0.3	82.8	15.8	1.4
	男 性	242	2.1	1.2	86.0	10.7	3.3	6.2	1.2	85.1	7.4	7.4
「年代別」	10歳代	6	-	-	66.7	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-
	20歳代	41	-	2.4	87.8	9.8	2.4	-	2.4	82.9	14.6	2.4
	30歳代	82	4.9	1.2	90.2	3.7	6.1	1.2	-	91.5	7.3	1.2
	40歳代	106	7.5	2.8	84.9	4.7	10.4	3.8	1.9	90.6	3.8	5.7
	50歳代	103	1.9	1.0	92.2	4.9	2.9	2.9	-	86.4	10.7	2.9
	60歳代	101	2.0	2.0	88.1	7.9	4.0	2.0	1.0	82.2	14.9	3.0
	70歳以上	173	5.8	1.7	78.6	13.9	7.5	5.2	-	75.7	19.1	5.2

D. 嫌がっているのに性的な行為を強要する

性別にみると、『被害経験あり（計）』は女性で12.5%を占めるが、男性は0%となっている。『加害経験あり（計）』は男性で5.0%となっている。

年代別にみると、『被害経験あり（計）』は30歳代が14.6%で最も多い。『加害経験あり（計）』はいずれも1割未満となっている。

		総数 (人)	被害経験あり（計） (%)				加害経験あり（計） (%)					
			さ 1 れ 2 度	何 度 も さ れ た	さ 全 く な か っ た	無 回 答	(被 害 経 験 あ り 計)	1 と 2 度 し た	何 度 も し た	し 全 く な か っ た	無 回 答	(加 害 経 験 あ り 計)
全 体		618	5.2	2.4	83.8	8.6	7.6	2.3	-	84.3	13.4	2.3
「性別」	女 性	361	8.9	3.6	80.9	6.6	12.5	0.6	-	83.4	16.1	0.6
	男 性	242	-	-	89.7	10.3	-	5.0	-	87.2	7.9	5.0
「年代別」	10歳代	6	-	-	66.7	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-
	20歳代	41	-	4.9	85.4	9.8	4.9	-	-	85.4	14.6	-
	30歳代	82	11.0	3.7	81.7	3.7	14.6	2.4	-	90.2	7.3	2.4
	40歳代	106	6.6	1.9	86.8	4.7	8.5	1.9	-	94.3	3.8	1.9
	50歳代	103	2.9	1.9	89.3	5.8	4.9	1.9	-	87.4	10.7	1.9
	60歳代	101	3.0	3.0	87.1	6.9	5.9	2.0	-	83.2	14.9	2.0
	70歳以上	173	5.2	1.7	79.8	13.3	6.9	3.5	-	76.3	20.2	3.5

E. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

性別にみると、男女とも『被害経験あり（計）』『加害経験あり（計）』いずれも1割未満となっている。
年代別にみると、すべての年代で『被害経験あり（計）』『加害経験あり（計）』いずれも1割未満となっている。

		総数 (人)	被害経験あり（計） (%)				加害経験あり（計） (%)					
			さ れ た 2 度	何 度 も さ れ た	さ 全 く な か つ た	無 回 答	（ 計 ） 被 害 経 験 あ り	1 〜 2 度 し た	何 度 も し た	し 全 く な か つ た	無 回 答	（ 計 ） 加 害 経 験 あ り
全 体		618	1.9	0.5	89.2	8.4	2.4	0.8	0.3	85.8	13.1	1.1
「性別」	女 性	361	3.0	0.8	90.0	6.1	3.9	-	0.3	83.9	15.8	0.3
	男 性	242	-	-	89.3	10.7	-	2.1	0.4	90.1	7.4	2.5
「年代別」	10歳代	6	-	-	66.7	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-
	20歳代	41	2.4	-	87.8	9.8	2.4	-	-	85.4	14.6	-
	30歳代	82	1.2	-	95.1	3.7	1.2	-	-	92.7	7.3	-
	40歳代	106	0.9	-	94.3	4.7	0.9	-	-	96.2	3.8	-
	50歳代	103	1.9	-	93.2	4.9	1.9	-	1.0	88.3	10.7	1.0
	60歳代	101	-	2.0	91.1	6.9	2.0	1.0	-	84.2	14.9	1.0
	70歳以上	173	4.0	0.6	82.1	13.3	4.6	2.3	0.6	78.0	19.1	2.9

F. 何を言っても長期間無視し続ける

性別にみると、男女とも『被害経験あり（計）』『加害経験あり（計）』いずれも1割前後となっている。
年代別にみると、『被害経験あり（計）』は70歳以上が16.8%で最も多く、30〜40歳代も1割を超える。
『加害経験あり（計）』は50歳代、70歳以上で1割を超える。

		総数 (人)	被害経験あり（計） (%)				加害経験あり（計） (%)					
			さ れ た 2 度	何 度 も さ れ た	さ 全 く な か つ た	無 回 答	（ 計 ） 被 害 経 験 あ り	1 〜 2 度 し た	何 度 も し た	し 全 く な か つ た	無 回 答	（ 計 ） 加 害 経 験 あ り
全 体		618	7.6	3.7	80.9	7.8	11.3	8.3	2.1	76.4	13.3	10.4
「性別」	女 性	361	7.5	4.4	82.5	5.5	11.9	8.9	2.8	73.1	15.2	11.6
	男 性	242	7.9	2.9	79.3	9.9	10.7	7.9	1.2	82.2	8.7	9.1
「年代別」	10歳代	6	-	-	66.7	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-
	20歳代	41	2.4	2.4	85.4	9.8	4.9	4.9	-	80.5	14.6	4.9
	30歳代	82	11.0	2.4	82.9	3.7	13.4	6.1	1.2	85.4	7.3	7.3
	40歳代	106	6.6	5.7	84.0	3.8	12.3	4.7	1.9	88.7	4.7	6.6
	50歳代	103	3.9	3.9	88.3	3.9	7.8	8.7	3.9	78.6	8.7	12.6
	60歳代	101	5.9	-	87.1	6.9	5.9	7.9	2.0	75.2	14.9	9.9
	70歳以上	173	11.0	5.8	71.1	12.1	16.8	12.1	2.3	65.3	20.2	14.5

G. 大声でどなる

性別にみると、『被害経験あり（計）』は女性が25.5%で男性より10.6ポイント多く、『加害経験あり（計）』は男性が25.2ポイントで女性より13.6ポイント多い。

年代別にみると、『被害経験あり（計）』は40歳代が26.4%で最も多く、50歳以上も2割を超える。『加害経験あり（計）』は40歳代が25.5%で最も多く、30歳以上で1割以上となっている。

		被害経験あり（計）					(%)	加害経験あり（計）					(%)
		総数 (人)	さ れ た 2 度	何 度 も さ れ た	さ 全 く な か つ た	無 回 答	(被 害 経 験 あ り 計)	1 と 2 度 し た	何 度 も し た	し 全 く な か つ た	無 回 答	(加 害 経 験 あ り 計)	
全 体		618	13.8	7.3	70.7	8.3	21.0	11.2	5.7	70.4	12.8	16.8	
「性別」	女 性	361	16.3	9.1	68.7	5.8	25.5	7.5	4.2	73.4	15.0	11.6	
	男 性	242	10.7	4.1	74.4	10.7	14.9	17.4	7.9	66.9	7.9	25.2	
「年代別」	10歳代	6	-	-	66.7	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-	
	20歳代	41	2.4	2.4	85.4	9.8	4.9	-	2.4	82.9	14.6	2.4	
	30歳代	82	11.0	6.1	79.3	3.7	17.1	9.8	4.9	78.0	7.3	14.6	
	40歳代	106	17.9	8.5	68.9	4.7	26.4	15.1	10.4	70.8	3.8	25.5	
	50歳代	103	9.7	14.6	71.8	3.9	24.3	7.8	8.7	74.8	8.7	16.5	
	60歳代	101	19.8	4.0	69.3	6.9	23.8	11.9	1.0	72.3	14.9	12.9	
	70歳以上	173	15.0	6.4	65.9	12.7	21.4	14.5	5.2	61.3	19.1	19.7	

H. 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う

性別にみると、『被害経験あり（計）』は女性が10.5%で男性より8.0ポイント多く、『加害経験あり（計）』は男性が7.0ポイントで女性より5.1ポイント多い。

年代別にみると、『被害経験あり（計）』は30～40歳代で1割を超え、『加害経験あり（計）』はいずれも1割未満となっている。

		被害経験あり（計）					(%)	加害経験あり（計）					(%)
		総数 (人)	さ れ た 2 度	何 度 も さ れ た	さ 全 く な か つ た	無 回 答	(被 害 経 験 あ り 計)	1 と 2 度 し た	何 度 も し た	し 全 く な か つ た	無 回 答	(加 害 経 験 あ り 計)	
全 体		618	5.2	2.3	84.5	8.1	7.4	3.2	0.6	82.5	13.6	3.9	
「性別」	女 性	361	7.5	3.0	83.9	5.5	10.5	1.1	0.8	82.0	16.1	1.9	
	男 性	242	2.1	0.4	86.8	10.7	2.5	6.6	0.4	84.7	8.3	7.0	
「年代別」	10歳代	6	-	-	66.7	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-	
	20歳代	41	-	-	90.2	9.8	-	-	-	85.4	14.6	-	
	30歳代	82	7.3	3.7	85.4	3.7	11.0	2.4	-	90.2	7.3	2.4	
	40歳代	106	7.5	3.8	84.0	4.7	11.3	5.7	0.9	89.6	3.8	6.6	
	50歳代	103	3.9	3.9	88.3	3.9	7.8	3.9	2.9	82.5	10.7	6.8	
	60歳代	101	7.9	2.0	83.2	6.9	9.9	2.0	-	82.2	15.8	2.0	
	70歳以上	173	2.9	0.6	83.8	12.7	3.5	3.5	-	76.3	20.2	3.5	

I. 電話やメールを細かくチェックする

性別にみると、男女とも『被害経験あり（計）』『加害経験あり（計）』いずれも1割未満となっている。
 年代別にみると、『被害経験あり（計）』は40歳代で10.4%となっている。『加害経験あり（計）』は
 いずれも1割未満となっている。

		総数 (人)	被害経験あり（計）				（計） 被害 経験 あり	加害経験あり（計）				
			さ れ た 2 度	何 度 も さ れ た	さ 全 く な か つ た	無 回 答		1 〜 2 度 し た	何 度 も し た	し 全 く な か つ た	無 回 答	（計） 加 害 経 験 あ り
全 体		618	3.2	1.8	86.9	8.1	5.0	2.4	0.3	84.0	13.3	2.8
「性別」	女 性	361	3.3	1.7	89.2	5.8	5.0	2.2	0.3	82.0	15.5	2.5
	男 性	242	3.3	1.7	84.7	10.3	5.0	2.9	0.4	88.4	8.3	3.3
「年代別」	10歳代	6	-	-	66.7	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-
	20歳代	41	2.4	-	87.8	9.8	2.4	-	2.4	82.9	14.6	2.4
	30歳代	82	4.9	2.4	89.0	3.7	7.3	1.2	-	91.5	7.3	1.2
	40歳代	106	6.6	3.8	85.8	3.8	10.4	5.7	0.9	88.7	4.7	6.6
	50歳代	103	3.9	1.0	91.3	3.9	4.9	1.9	-	88.3	9.7	1.9
	60歳代	101	-	2.0	91.1	6.9	2.0	1.0	-	84.2	14.9	1.0
	70歳以上	173	2.3	1.2	83.2	13.3	3.5	2.9	-	77.5	19.7	2.9

J. 親族や友人との付き合いを禁止したり、外出を制限する

性別にみると、男女とも『被害経験あり（計）』『加害経験あり（計）』いずれも1割未満となっている。
 年代別にみると、すべての年代で『被害経験あり（計）』『加害経験あり（計）』いずれも1割未満とな
 っている。

		総数 (人)	被害経験あり（計）				（計） 被害 経験 あり	加害経験あり（計）				
			さ れ た 2 度	何 度 も さ れ た	さ 全 く な か つ た	無 回 答		1 〜 2 度 し た	何 度 も し た	し 全 く な か つ た	無 回 答	（計） 加 害 経 験 あ り
全 体		618	3.7	1.6	86.6	8.1	5.3	0.6	-	86.1	13.3	0.6
「性別」	女 性	361	4.2	2.5	87.5	5.8	6.6	0.6	-	83.9	15.5	0.6
	男 性	242	2.9	-	86.8	10.3	2.9	0.8	-	90.9	8.3	0.8
「年代別」	10歳代	6	-	-	66.7	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-
	20歳代	41	4.9	2.4	82.9	9.8	7.3	2.4	-	82.9	14.6	2.4
	30歳代	82	4.9	1.2	90.2	3.7	6.1	1.2	-	91.5	7.3	1.2
	40歳代	106	2.8	2.8	90.6	3.8	5.7	-	-	95.3	4.7	-
	50歳代	103	7.8	1.0	87.4	3.9	8.7	1.9	-	88.3	9.7	1.9
	60歳代	101	1.0	3.0	89.1	6.9	4.0	-	-	85.1	14.9	-
	70歳以上	173	2.3	0.6	83.8	13.3	2.9	-	-	80.3	19.7	-

K. 生活費を渡さないなど、経済的におさえつける

性別にみると、男女とも『被害経験あり（計）』『加害経験あり（計）』いずれも1割未満となっている。
 年代別にみると、すべての年代で『被害経験あり（計）』『加害経験あり（計）』いずれも1割未満となっている。

		総数 (人)	被害経験あり（計）				（計） 被害経験あり	加害経験あり（計）				
			さ れ た 2 度	何 度 も さ れ た	さ 全 く な か つ た	無 回 答		1 〜 2 度 し た	何 度 も し た	し 全 く な か つ た	無 回 答	（計） 加 害 経 験 あ り
全 体		618	1.0	3.1	87.7	8.3	4.0	0.8	-	85.9	13.3	0.8
「性別」	女 性	361	0.8	3.3	90.0	5.8	4.2	0.6	-	83.7	15.8	0.6
	男 性	242	1.2	2.1	86.0	10.7	3.3	1.2	-	90.9	7.9	1.2
「年代別」	10歳代	6	-	-	66.7	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-
	20歳代	41	2.4	-	87.8	9.8	2.4	-	-	85.4	14.6	-
	30歳代	82	1.2	4.9	90.2	3.7	6.1	1.2	-	91.5	7.3	1.2
	40歳代	106	1.9	5.7	87.7	4.7	7.5	0.9	-	95.3	3.8	0.9
	50歳代	103	1.0	1.9	93.2	3.9	2.9	1.9	-	87.4	10.7	1.9
	60歳代	101	-	3.0	90.1	6.9	3.0	-	-	85.1	14.9	-
	70歳以上	173	0.6	2.3	83.8	13.3	2.9	0.6	-	79.8	19.7	0.6

L. お金を取り上げたり、預貯金を勝手におろす

性別にみると、男女とも『被害経験あり（計）』『加害経験あり（計）』いずれも1割未満となっている。
 年代別にみると、すべての年代で『被害経験あり（計）』『加害経験あり（計）』いずれも1割未満となっている。

		総数 (人)	被害経験あり（計）				（計） 被害経験あり	加害経験あり（計）				
			さ れ た 2 度	何 度 も さ れ た	さ 全 く な か つ た	無 回 答		1 〜 2 度 し た	何 度 も し た	し 全 く な か つ た	無 回 答	（計） 加 害 経 験 あ り
全 体		618	1.5	1.3	89.2	8.1	2.8	0.5	0.2	86.2	13.1	0.6
「性別」	女 性	361	2.2	1.4	90.9	5.5	3.6	-	-	84.5	15.5	-
	男 性	242	-	0.8	88.4	10.7	0.8	1.2	0.4	90.5	7.9	1.7
「年代別」	10歳代	6	-	-	66.7	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-
	20歳代	41	-	-	90.2	9.8	-	-	-	85.4	14.6	-
	30歳代	82	1.2	2.4	92.7	3.7	3.7	-	-	92.7	7.3	-
	40歳代	106	3.8	2.8	88.7	4.7	6.6	-	0.9	95.3	3.8	0.9
	50歳代	103	1.0	-	95.1	3.9	1.0	1.0	-	89.3	9.7	1.0
	60歳代	101	2.0	1.0	90.1	6.9	3.0	1.0	-	84.2	14.9	1.0
	70歳以上	173	0.6	1.2	85.5	12.7	1.7	0.6	-	79.8	19.7	0.6

(4) 「された経験（被害経験）」と「した経験（加害経験）」の有無

＜A～Lの12項目のまとめ＞

《された経験（被害経験）の有無》

被害経験について、A～Lの12項目のうち1つでも「された経験がある」人は31.2%、1つも「された経験がない」人は61.7%となっている。

性別に見ると、「された経験がある」人の割合は、女性（37.1%）が男性（22.7%）を14.4ポイント上回っている。

単位：%

		された経験がある	された経験がない	全て無回答
全体	(618人)	31.2	61.7	7.1
「性別」	女性 (361人)	37.1	57.9	5.0
	男性 (242人)	22.7	67.8	9.5

※ A～Lの12項目の「された経験」のうち、1つでも「1～2度された」「何度もされた」という回答があった人を「された経験がある」、逆に1つも「1～2度された」「何度もされた」という回答がなかった人を「された経験がない」として集計した。なお、A～Lの12項目をすべて回答しなかった人を「全て無回答」として集計した。

《した経験（加害経験）の有無》

加害経験について、A～Lの12項目のうち1つでも「した経験がある」人は23.9%、1つも「した経験がない」人は63.8%となっている。

性別に見ると、「した経験がある」人の割合は、男性（30.6%）が女性（20.2%）を10.4ポイント上回っている。

単位：%

		した経験がある	した経験がない	全て無回答
全体	(618人)	23.9	63.8	12.3
「性別」	女性 (361人)	20.2	64.8	15.0
	男性 (242人)	30.6	62.4	7.0

※ A～Lの12項目の「した経験」のうち、1つでも「1～2度した」「何度もした」という回答があった人を「した経験がある」、逆に1つも「1～2度した」「何度もした」という回答がなかった人を「した経験がない」として集計した。なお、A～Lの12項目をすべて回答しなかった人を「全て無回答」として集計した。

(5) 相談の有無

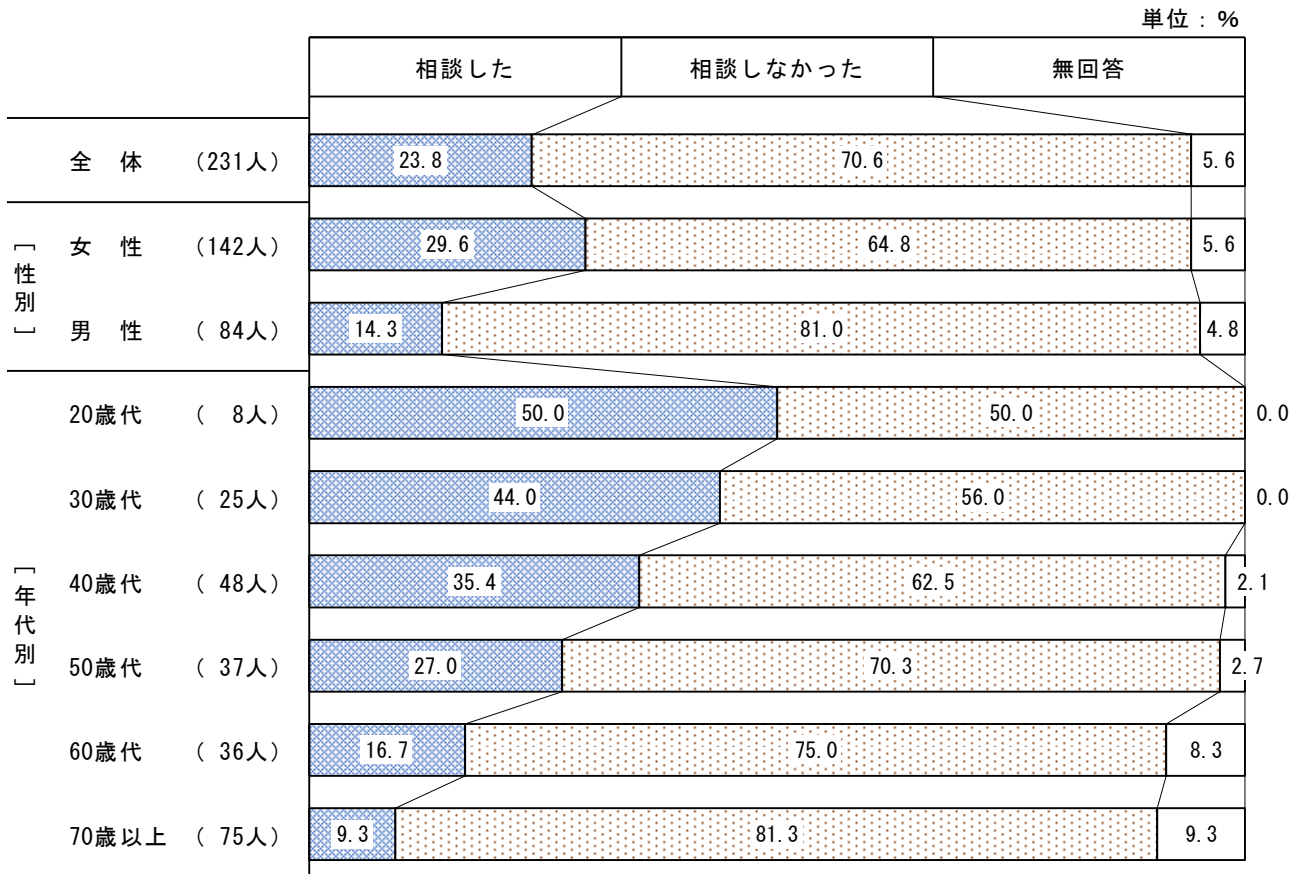
【問17でひとつでも「1～2度された」、「何度もされた」、
「1～2度した」、「何度もした」と回答した方におたずねします】

問18 あなたは、これまで暴力をされた、または、したことについて、誰かに打ち明けたり相談したり
しましたか。(1～2のどちらかに○)

問17のA～Lの12項目のうち、1つでも「された経験がある」「した経験がある」と回答した人に、これまでの「された経験がある」「した経験がある」について、誰かに打ち明けたり相談したりしたかをたずねたところ、全体では、「相談した」は23.8%、「相談しなかった」は70.6%となっており、おおよそ4人に1人しか相談していないことがわかる。

性別でみると、「相談した」は女性が29.6%で男性より15.3ポイント多い。

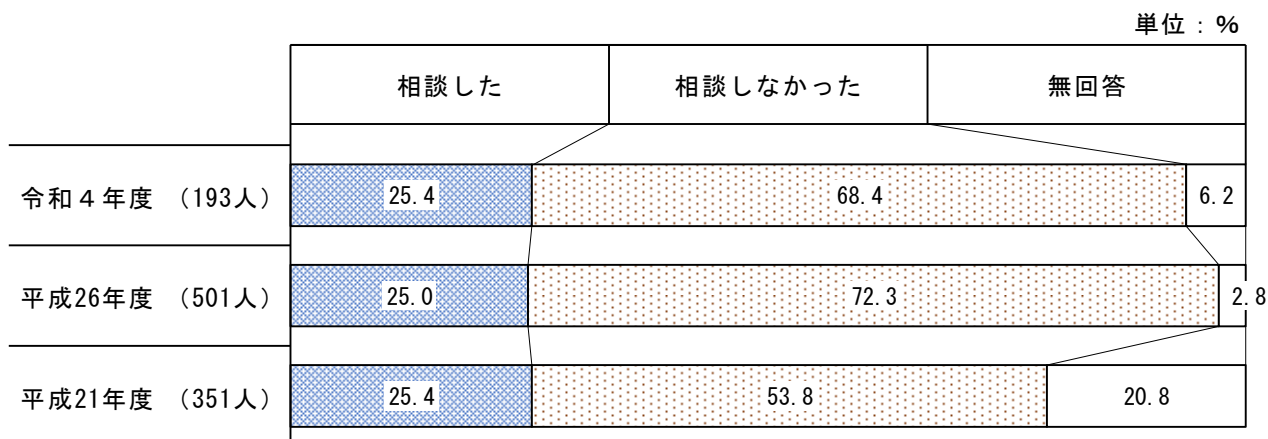
年代別でみると、「相談した」は年代が上がるにつれ減少する傾向にある。一方、「相談しなかった」はすべての年代で5割以上を占めている。



※10歳代は該当者なし

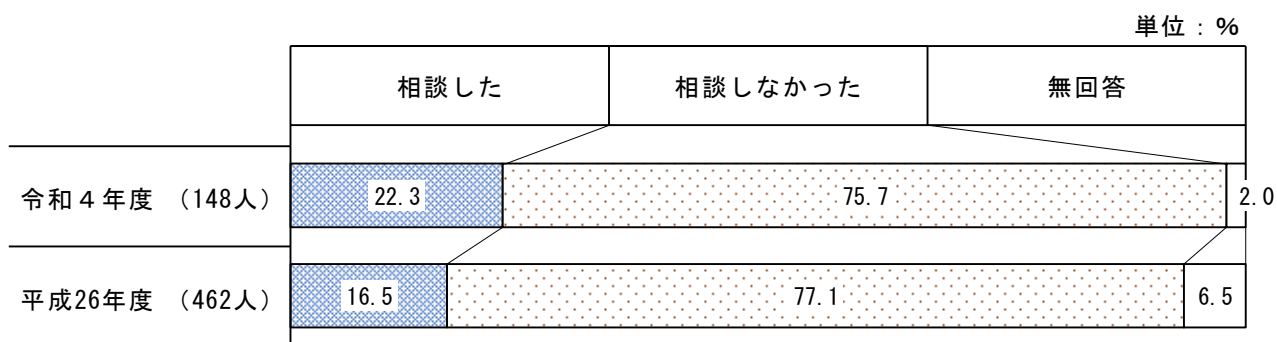
〔された経験（被害経験）〕があると回答した人の「相談の有無」

された経験（被害経験）があると回答した人において、誰かに打ち明けたり相談したりしたかをたずねたところ、「相談した」割合は平成 21 年度以降ほぼ横ばいとなっている。



〔した経験（加害経験）〕があると回答した人の「相談の有無」

した経験（加害経験）があると回答した人において、誰かに打ち明けたり相談したりしたかをたずねたところ、「相談した」割合は平成 26 年度と比べ 5.8 ポイント増加した。

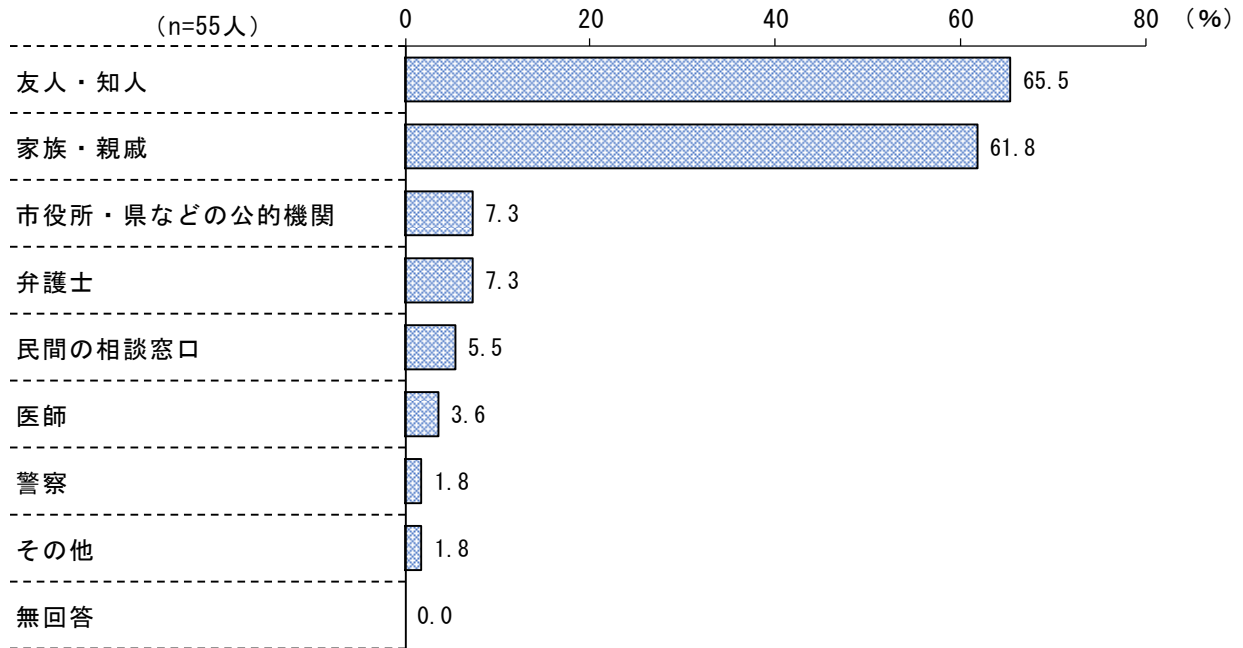


(6) 相談先

【問 18 で「1. 相談した」とお答えの方におたずねします】

問 18-1 どこ（誰）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

相談したと回答した人に、相談先をたずねたところ、「友人・知人」が 65.5%で最も多く、次いで「家族・親戚」（61.8%）、「市役所・県などの公的機関」「弁護士」（各 7.3%）の順となっている。



性別、年代別にみる「相談先」

男女とも「友人・知人」「家族・親戚」に相談する割合が多く、女性は前者、男性は後者がやや多い。

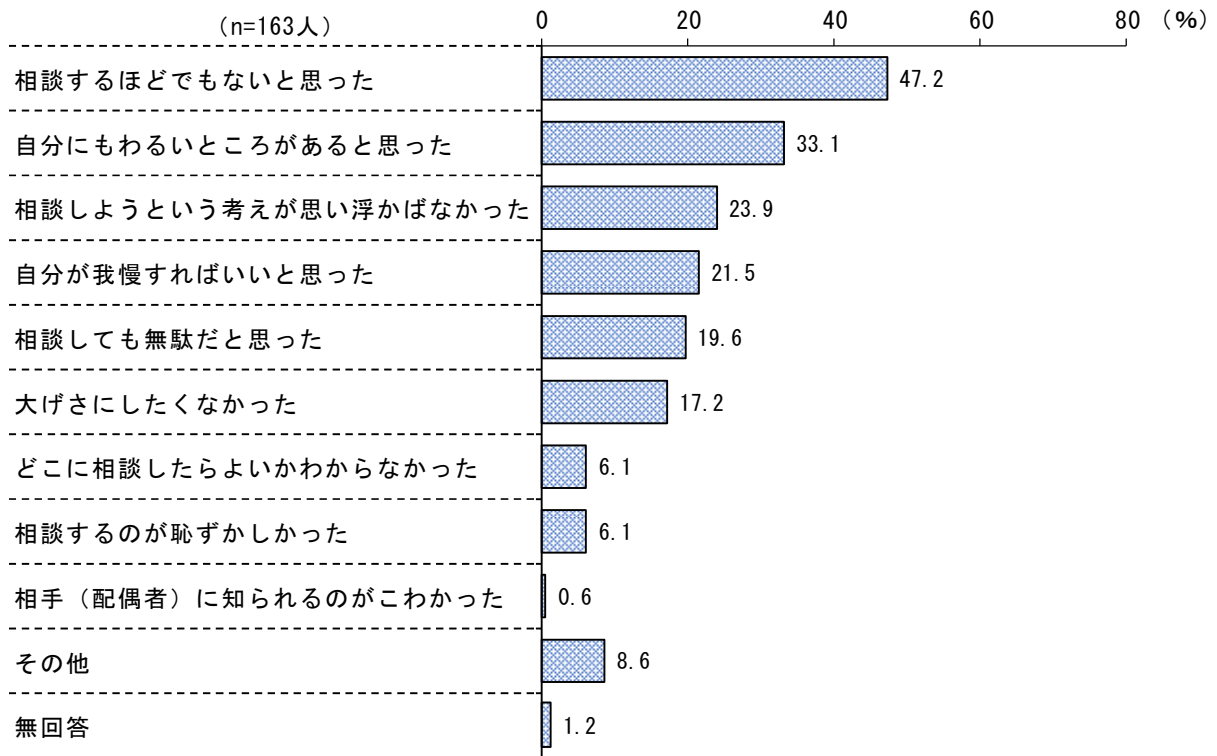
		総数 (人)	友人・ 知人	家族・ 親戚	市役所・ 公的機 関・県 など	弁 護 士	民 間 の 相 談 窓 口	医 師	警 察	そ の 他	無 回 答
全 体		55	65.5	61.8	7.3	7.3	5.5	3.6	1.8	1.8	-
「性別」	女 性	42	66.7	61.9	4.8	7.1	7.1	4.8	-	2.4	-
	男 性	12	58.3	66.7	8.3	8.3	-	-	8.3	-	-
「年代別」	20歳代	4	75.0	25.0	-	25.0	-	-	25.0	-	-
	30歳代	11	63.6	63.6	-	9.1	9.1	-	-	-	-
	40歳代	17	70.6	64.7	11.8	11.8	11.8	5.9	-	5.9	-
	50歳代	10	60.0	80.0	-	-	-	-	-	-	-
	60歳代	6	83.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-
	70歳以上	7	42.9	71.4	-	-	-	14.3	-	-	-

(7) 相談しなかった理由

【問 18 で「2. 相談しなかった」とお答えの方におたずねします】

問 18-2 相談しなかったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

相談しなかったと回答した人に、その理由をたずねたところ、「相談するほどでもないと思った」が 47.2%で最も多く、次いで「自分にもわるいところがあると思った」(33.1%)、「相談しようという考えが思い浮かばなかった」(23.9%)、「自分が我慢すればいいと思った」(21.5%)の順となっている。



性別、年代別にみる「相談しなかった理由」

男女とも「相談するほどでもないと思った」が最も多い。女性は「相談しようという考えが思い浮かばなかった」「相談しても無駄だと思った」、男性は「自分にもわるいところがあると思った」「大きさにしたくなかった」などが多い。

		総数 (人)	も相 ない する と思 った	思と自 つ分 たろ がも あ わ る と い	か う 相 考 し な か が よ つ た い と 浮 い	ば自 い分 が と 我 慢 つ す た れ	だ相 と談 し 思 つ た も 無 駄	な大 な か げ つ た に し た く	なら ど よ こ に た か 相 わ 談 か し た	ず相 か 談 し す か つ た が 恥	こに わ か ら れ る の が	相 手 (配 偶 者)	そ の 他	無 回 答
全 体		163	47.2	33.1	23.9	21.5	19.6	17.2	6.1	6.1	0.6	8.6	1.2	
性別	女 性	92	46.7	29.3	28.3	20.7	21.7	13.0	6.5	6.5	-	6.5	1.1	
	男 性	68	48.5	36.8	19.1	23.5	14.7	23.5	4.4	5.9	-	11.8	1.5	
年代別	20歳代	4	50.0	25.0	50.0	25.0	-	50.0	-	-	-	-	-	
	30歳代	14	35.7	42.9	42.9	42.9	14.3	21.4	7.1	7.1	-	7.1	-	
	40歳代	30	53.3	40.0	23.3	20.0	23.3	26.7	10.0	13.3	3.3	10.0	-	
	50歳代	26	57.7	23.1	19.2	11.5	15.4	11.5	7.7	3.8	-	11.5	-	
	60歳代	27	37.0	22.2	22.2	25.9	18.5	-	3.7	-	-	18.5	-	
	70歳以上	61	45.9	36.1	21.3	18.0	21.3	19.7	4.9	6.6	-	3.3	3.3	

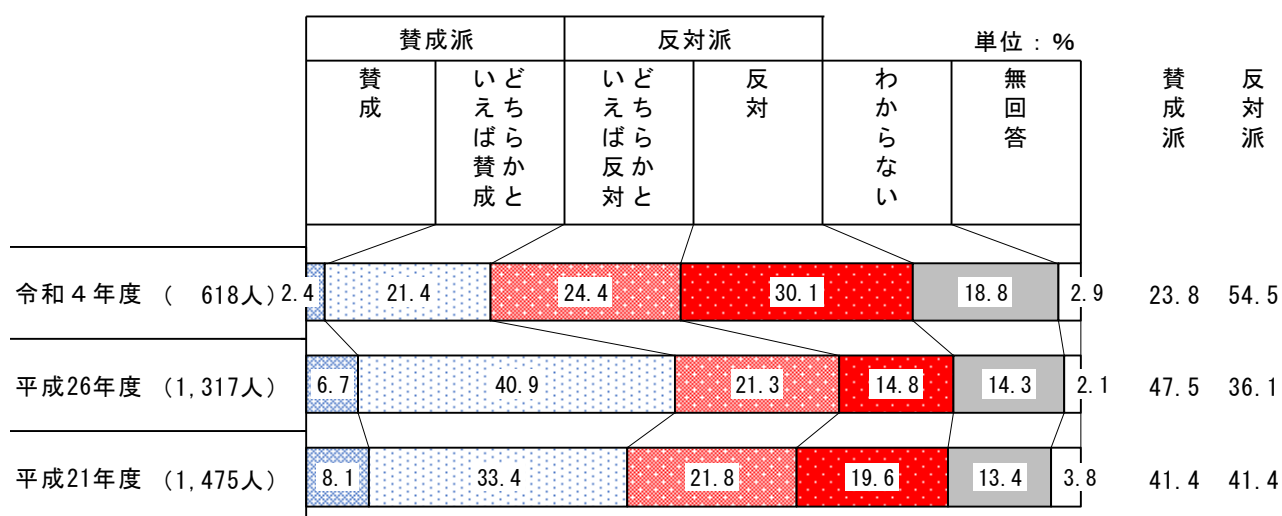
6. 性別の意識や考え方について

(1) 性別で役割を分担する考え方

問 19 「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という考え方をどう思いますか。(ひとつに○)

「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という考え方については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成派』は全体の 23.8%、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対派』は全体の 54.5%で、『反対派』が『賛成派』を 30.7 ポイント上回っている。

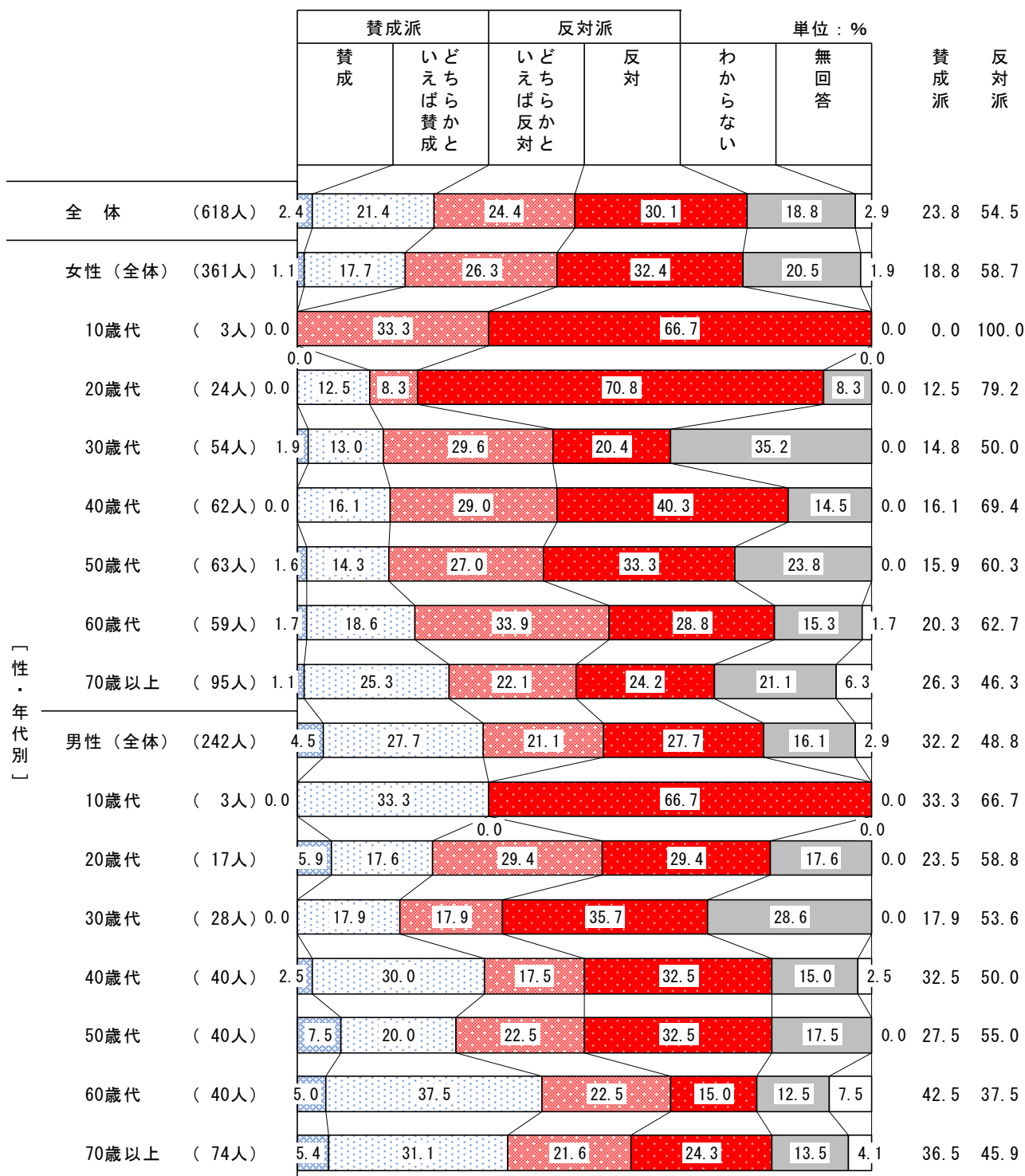
経年変化でみると、平成 26 年度と比べ、『賛成派』は 23.7 ポイント減少し、『反対派』は 18.4 ポイント増加した。



性・年代別にみる「性別で役割を分担する考え方」

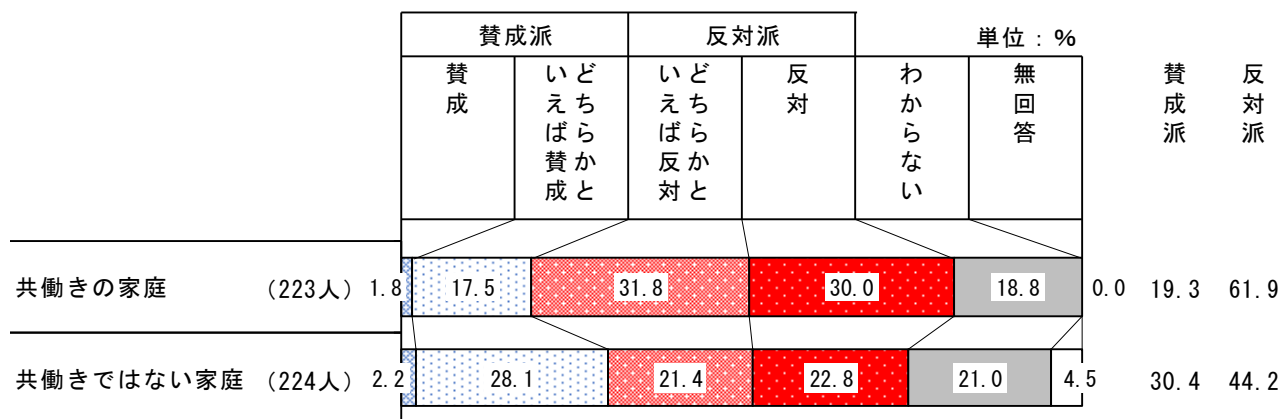
性別にみると、『賛成派』は男性が32.2%で、女性より13.4ポイント多い。『賛成派』は男性60歳代が42.5%で最も多く、男性40歳代、70歳以上なども3割を超える。

一方、『反対派』は女性が58.7%で、男性より9.9ポイント多い。女性は70歳以上を除き『反対派』が5割以上を占め、20歳代は79.2%、40～60歳代も6割台となっている。女性はすべての年代で『反対派』が『賛成派』を上回るが、男性は60歳代で『賛成派』が『反対派』より5.0ポイント多くなっている。



共働きの有無別にみる「性別で役割を分担する考え方」

共働きの有無別にみると、いずれも『反対派』が『賛成派』より多い。『反対派』は「共働きの家庭」が61.9%で、「共働きではない家庭」より17.7ポイント多い。

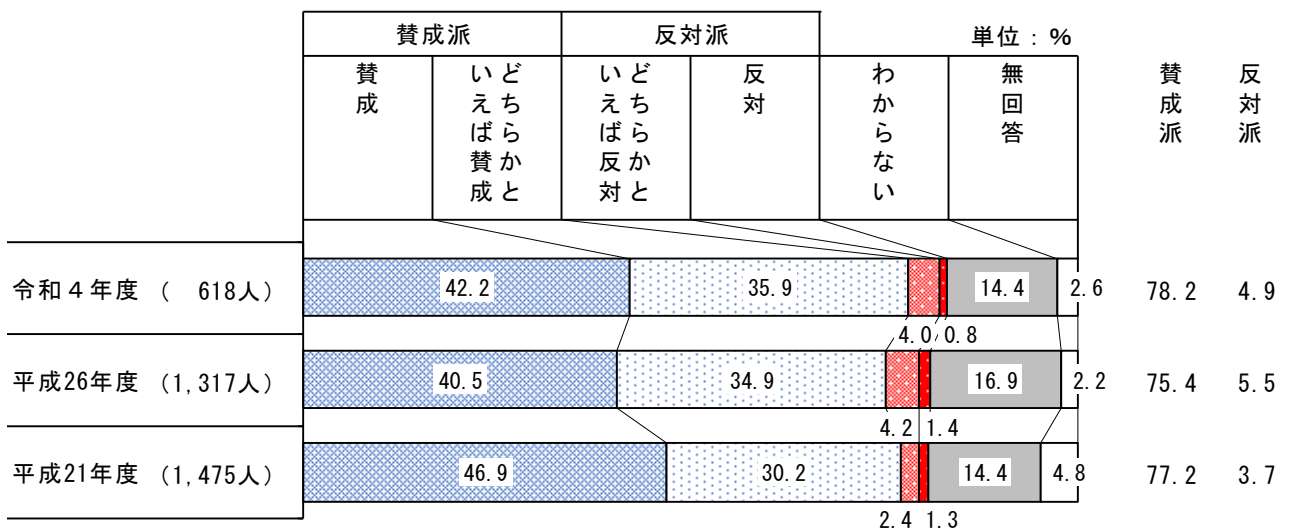


(2) ポジティブ・アクションの考え方

問 20 女性があまり進出していない分野で、女性の登用を計画的に進めていくことをポジティブ・アクション（積極的改善措置）といいます。このような取り組みを行うことについて、どう思いますか。（ひとつに○）

ポジティブ・アクションについては、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成派』は78.2%、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対派』は4.9%で、『賛成派』が『反対派』を73.3ポイント上回っている。

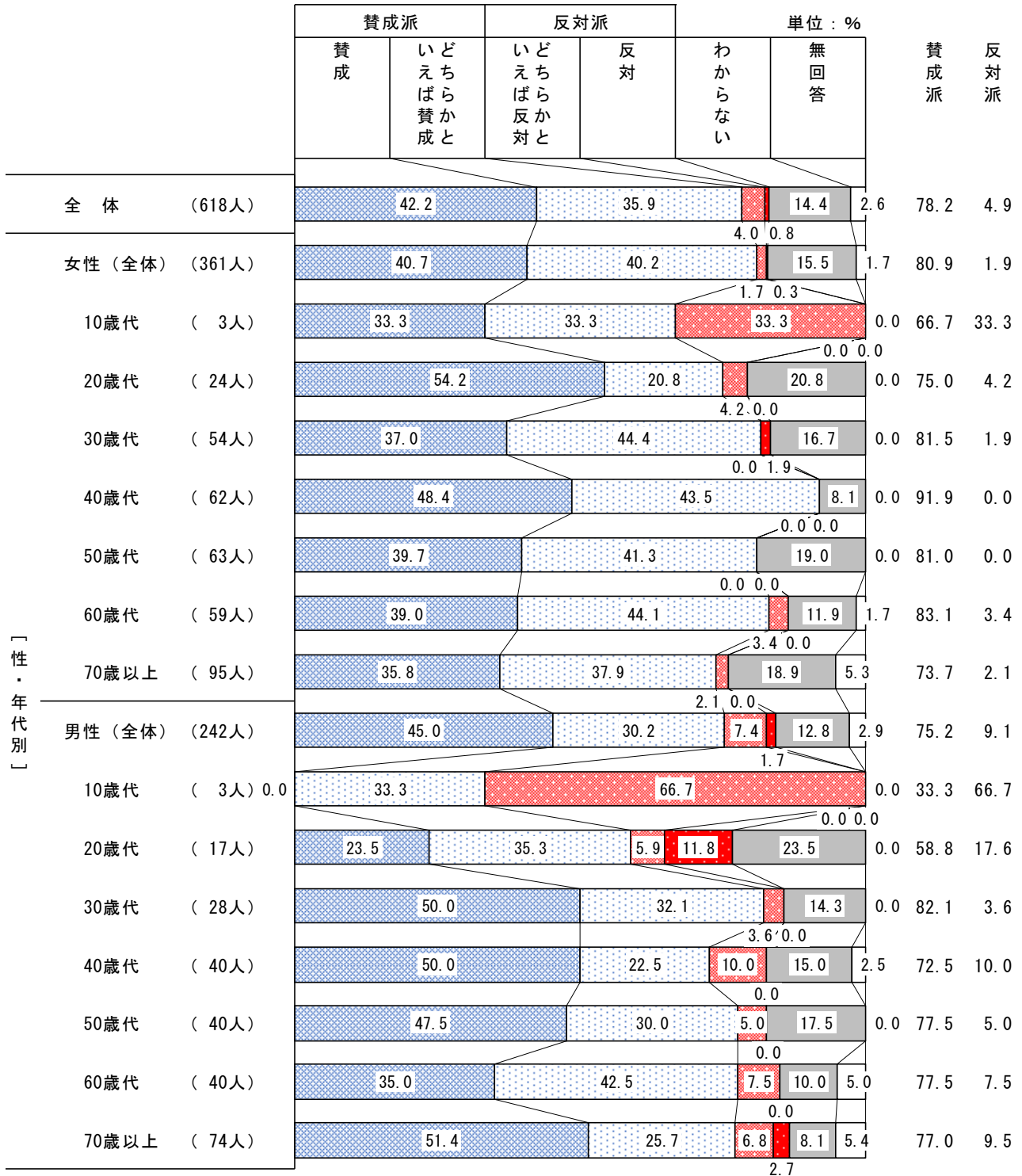
経年変化でみると、平成21年度以降、『賛成派』は7割台、『反対派』は1割未満となっており、大きな変化はみられない。



※平成26年度以前は、「わからない」は「どちらともいえない」としていた。

性・年代別にみる「ポジティブ・アクションの考え方」

性・年代別にみると、『賛成派』は女性が80.9%で、男性より5.7ポイント多い。『賛成派』は女性全年代、男性20歳代以上で過半数を占め、特に女性40歳代は91.9%と他の年代に比べて多い。一方、『反対派』は男性20歳代、40歳代などで1割台となっている。

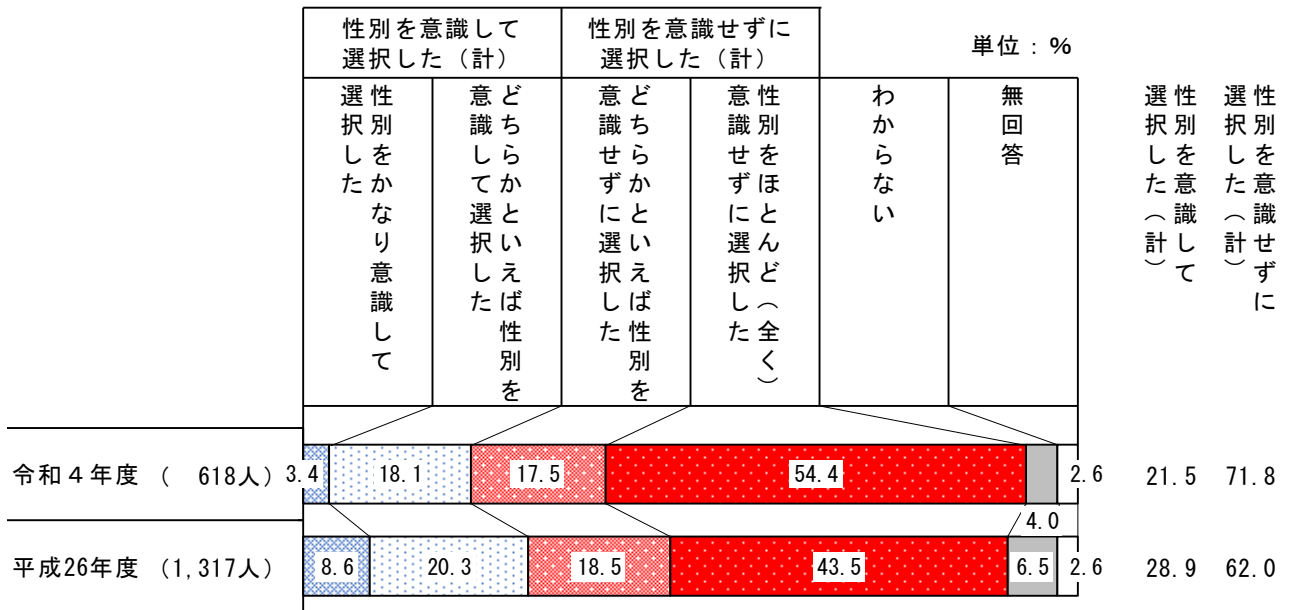


(3) 進路や職業を選択する際の性別意識

問 21 進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。(ひとつに〇)

進路や職業を選択する際に、性別を意識したかについては、「性別をかなり意識して選択した」と「どちらかといえば性別を意識して選択した」を合わせた『性別を意識して選択した(計)』は21.5%、「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」と「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」を合わせた『性別を意識せずに選択した(計)』は71.8%となっている。

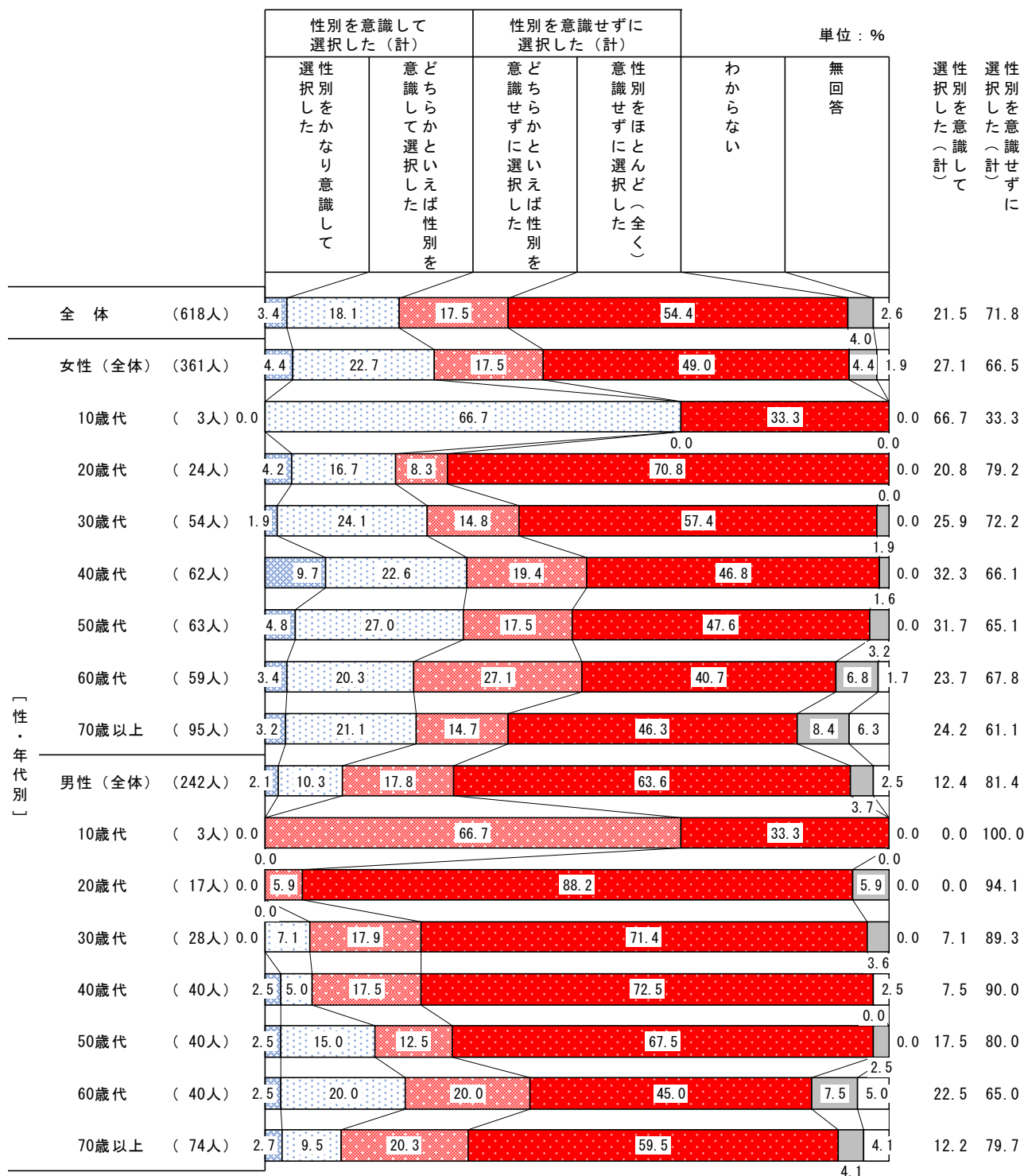
経年変化でみると、平成26年度と比べ、『性別を意識して選択した(計)』が7.4ポイント減少する一方、『性別を意識せずに選択した(計)』は9.8ポイント増加した。



性・年代別にみる「進路や職業を選択する際の性別意識」

性別にみると、『性別を意識して選択した（計）』は女性が27.1%で、男性より14.7ポイント多い。女性は40～50歳代で『性別を意識して選択した（計）』が3割を超え、他の年代も2割以上を占めるが、男性は60歳代を除き2割未満となっている。

一方、『性別を意識せずに選択した（計）』は男性が81.4%で、女性より14.9ポイント多い。男性は50歳代以下で『性別を意識せずに選択した（計）』が8割以上を占め、女性20歳代も『性別を意識せずに選択した（計）』が79.2%と、他の年代に比べて多い。



(4) 各分野での男女平等

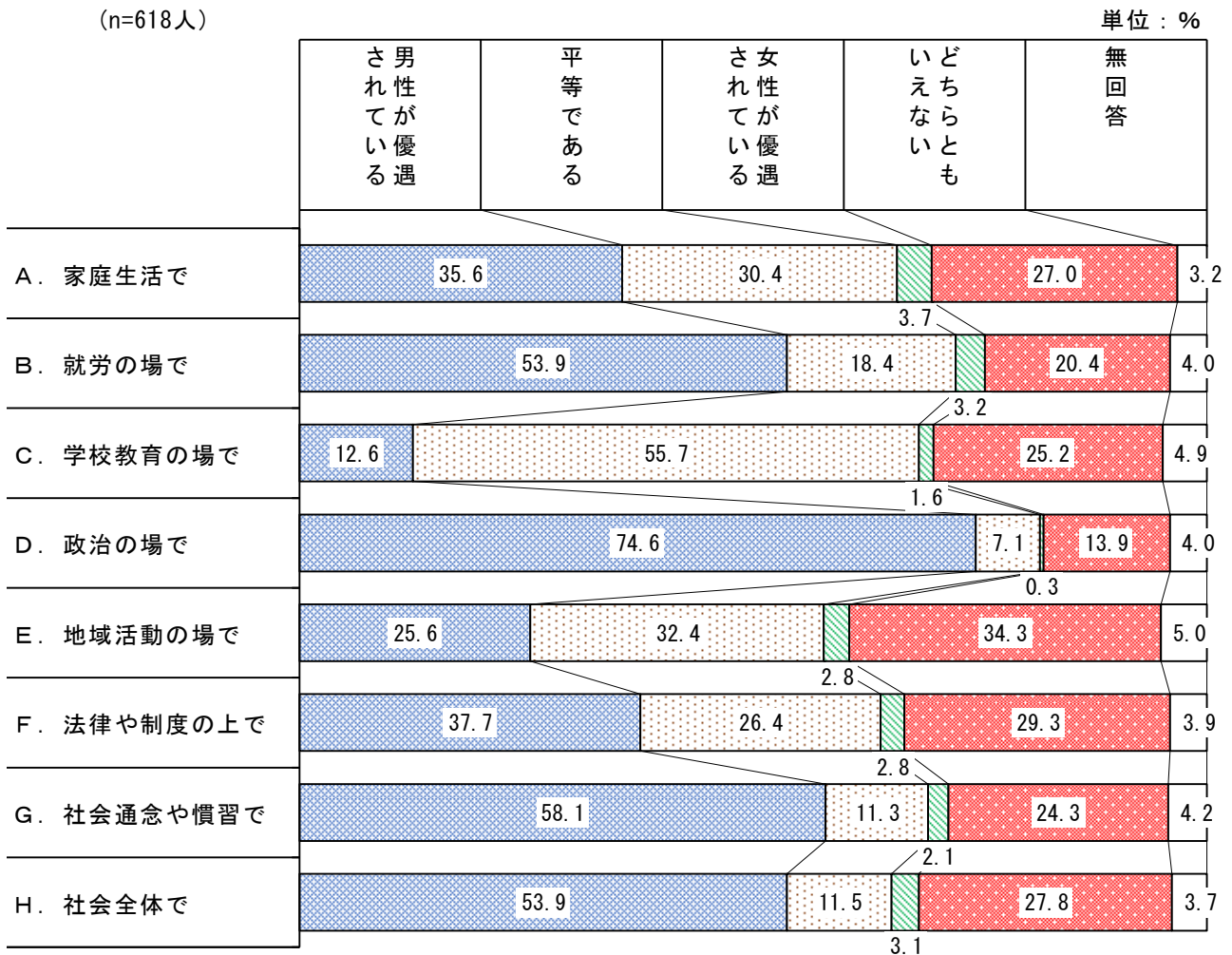
問22 次の分野で男女は平等になっていると思いますか。

(A～Hのそれぞれについて、1～4のどれかひとつに○)

各分野における男女の平等感については、「平等である」は「C. 学校教育の場で」が55.7%で最も多く、次いで「E. 地域活動の場で」(32.4%)、「A. 家庭生活で」(30.4%)、「F. 法律や制度の上で」(26.4%)の順となっている。一方、「平等である」が最も少ないのは「D. 政治の場で」(7.1%)となっている。

「男性が優遇されている」は「D. 政治の場で」が74.6%で最も多く、「G. 社会通念や慣習で」(58.1%)、「B. 就労の場で」「H. 社会全体で」(各53.9%)の4分野で5割を超えている。

一方、「女性が優遇されている」は、最も多い「A. 家庭生活で」(3.7%)でも1割未満となっている。



性別にみる「各分野での男女平等」

性別にみると、8項目すべてで「平等である」は男性、「男性が優遇されている」は女性の方が多い。「平等である」については、「A. 家庭生活で」「E. 地域活動の場で」「F. 法律や制度の上で」「H. 社会全体で」で10ポイント以上、それ以外も7ポイント以上男性の方が多くなっている。

一方、「男性が優遇されている」については、「A. 家庭生活で」「D. 政治の場で」「E. 地域活動の場で」「F. 法律や制度の上で」「H. 社会全体で」で5ポイント以上、女性の方が多くなっている。

(%)						
	総数 (人)	男性が 優遇	平等 である	女性が 優遇	どちら とも	無 回答
A. 家庭生活で						
女性	361	39.3	24.7	2.8	30.7	2.5
男性	242	29.8	40.1	5.4	21.9	2.9
B. 就労の場で						
女性	361	55.4	15.2	1.9	23.5	3.9
男性	242	51.7	24.0	5.4	16.1	2.9
C. 学校教育の場で						
女性	361	12.7	53.2	1.7	27.7	4.7
男性	242	12.0	61.2	1.7	21.9	3.3
D. 政治の場で						
女性	361	78.1	4.2	-	13.6	4.2
男性	242	70.7	11.6	0.8	14.5	2.5
E. 地域活動の場で						
女性	361	27.7	25.5	1.4	39.6	5.8
男性	242	22.7	42.6	5.0	27.3	2.5
F. 法律や制度の上で						
女性	361	40.2	20.5	1.4	34.1	3.9
男性	242	34.3	36.0	5.0	22.3	2.5
G. 社会通念や慣習で						
女性	361	59.0	7.5	1.1	28.0	4.4
男性	242	57.0	17.4	3.7	19.4	2.5
H. 社会全体で						
女性	361	56.8	6.1	1.9	31.3	3.9
男性	242	49.2	19.8	5.0	23.6	2.5

経年変化にみる「各分野での男女平等」

経年変化でみると、「B. 就労の場で」は平成7年度に比べ、「平等である」が4.8ポイント増加し、「男性が優遇されている」が14.9ポイント減少した。

一方、「D. 政治の場で」は平成17年度に比べ「平等である」が11.9ポイント減少し、「男性が優遇されている」が18.1ポイント増加した。「C. 学校教育の場で」「F. 法律や制度の上で」についても、「平等である」が10ポイント以上減少し、「男性が優遇されている」がやや増加している。

それ以外の項目については、「どちらともいえない」が増加傾向にある。

(%)						
	総数 (人)	男性が 優遇さ れている	平等 である	女性が 優遇さ れている	いど ち な ら い と も	無 回 答
A. 家庭生活で						
令和4年度	618	35.6	30.4	3.7	27.0	3.2
平成26年度	1,317	32.5	33.3	9.9	21.3	3.0
平成21年度	1,475	31.2	33.7	4.9	23.3	6.8
平成17年度	1,328	34.9	32.7	3.8	22.4	6.2
平成7年度	1,614	43.4	40.3	5.5	7.6	3.3
B. 就労の場で						
令和4年度	618	53.9	18.4	3.2	20.4	4.0
平成26年度	1,317	59.8	14.5	3.1	19.1	3.5
平成21年度	1,475	54.6	14.2	3.8	18.0	9.4
平成17年度	1,328	59.6	12.7	3.9	16.2	7.5
平成7年度	1,614	68.8	13.6	3.0	10.1	4.5
C. 学校教育の場で						
令和4年度	618	12.6	55.7	1.6	25.2	4.9
平成26年度	1,317	8.7	58.4	2.5	25.7	4.8
平成21年度	1,475	7.2	53.9	2.1	26.0	10.8
平成17年度	1,328	7.2	59.0	1.7	23.7	8.4
平成7年度	1,614	9.1	71.7	2.2	11.8	5.1
D. 政治の場で						
令和4年度	618	74.6	7.1	0.3	13.9	4.0
平成26年度	1,317	68.8	9.8	1.8	15.9	3.7
平成21年度	1,475	53.6	17.4	0.7	18.6	9.6
平成17年度	1,328	56.5	19.0	1.2	16.2	7.2

(%)

	総数 (人)	男性が 優遇さ れる	平等 である	女性が 優遇さ れる	どちら もない	無回 答
E. 地域活動の場で						
令和4年度	618	25.6	32.4	2.8	34.3	5.0
平成26年度	1,317	24.1	33.5	5.2	33.1	4.2
平成21年度	1,475	17.9	37.5	3.2	31.9	9.6
平成17年度	1,328	22.2	36.6	4.7	29.3	7.2
平成7年度	1,614	40.8	34.0	4.2	15.9	5.1
F. 法律や制度の上で						
令和4年度	618	37.7	26.4	2.8	29.3	3.9
平成26年度	1,317	31.3	28.4	5.4	30.5	4.4
平成21年度	1,475	30.1	28.3	3.0	28.7	9.8
平成17年度	1,328	31.6	33.2	3.6	24.2	7.4
平成7年度	1,614	35.8	42.1	3.1	14.4	4.6
G. 社会通念や慣習で						
令和4年度	618	58.1	11.3	2.1	24.3	4.2
平成26年度	1,317	56.2	13.3	3.0	23.7	3.8
平成21年度	1,475	54.4	11.9	2.2	22.0	9.4
平成17年度	1,328	61.9	11.3	2.3	17.5	7.0
平成7年度	1,614	71.1	13.9	2.6	7.7	4.7
H. 社会全体で						
令和4年度	618	53.9	11.5	3.1	27.8	3.7
平成26年度	1,317	54.5	12.3	3.2	26.4	3.6
平成21年度	1,475	50.9	11.8	2.4	26.4	8.5
平成17年度	1,328	55.2	12.2	2.3	23.6	6.8

7. 個人の活動や行政への期待について

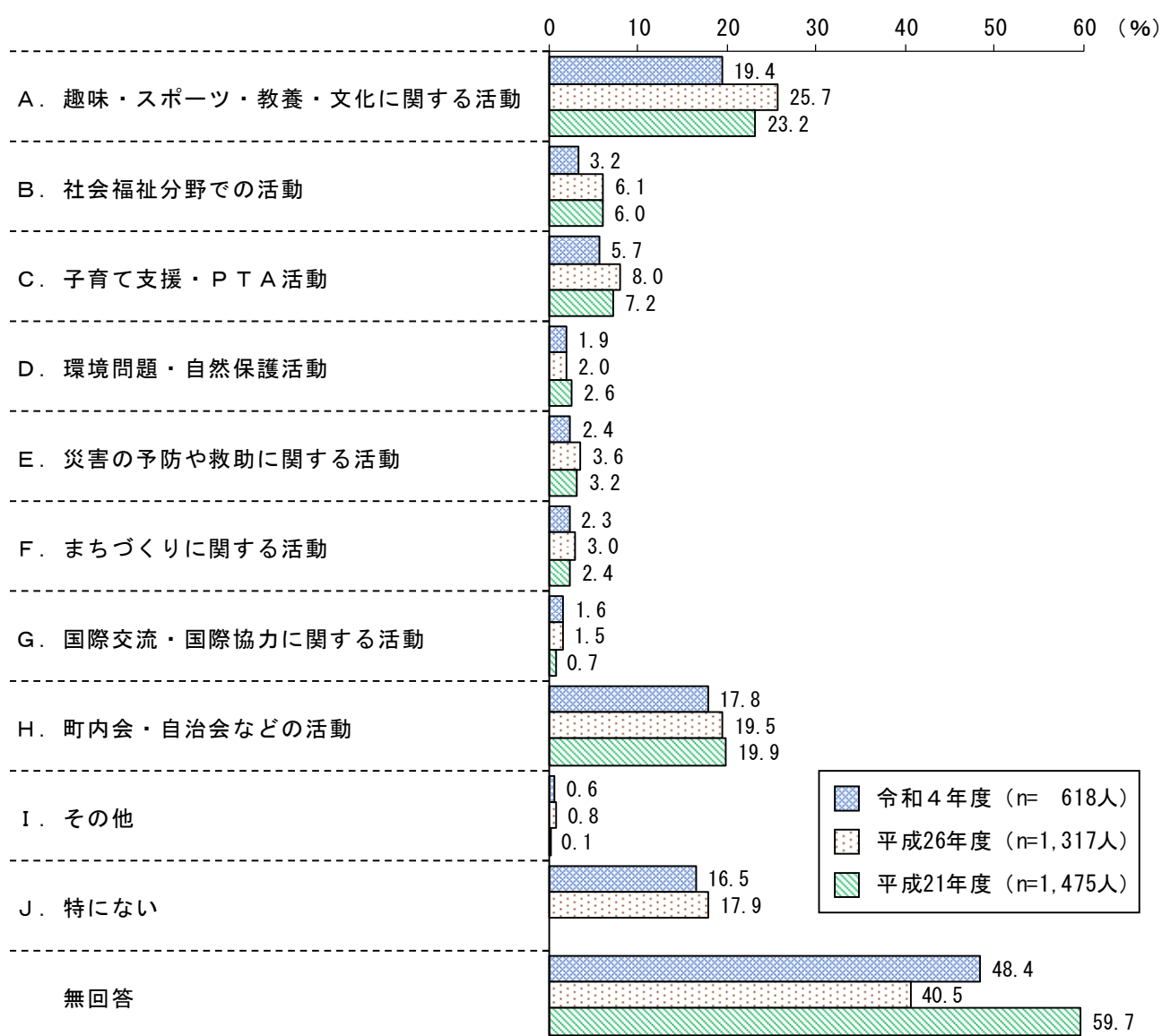
(1) 現在参加している地域活動

問 23 (1) 次の地域活動の中で、現在、参加している地域活動はどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

現在参加している地域活動については、「A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動」が 19.4%で最も多く、次いで「H. 町内会・自治会などの活動」(17.8%)、「C. 子育て支援・PTA活動」(5.7%)、「B. 社会福祉分野での活動」(3.2%)となっている。一方、「特にない」は 16.5%となっている。

経年変化でみると、平成 26 年度と比べ、「A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動」は 6.3 ポイント減少した。



※「J. 特にない」は、平成 26 年度からの新規項目

性別にみる「現在参加している地域活動」上位3項目の経年変化

性別にみると、平成21年度以降男女とも「A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動」「H. 町内会・自治会などの活動」が共通して3位以内となっている。残り1項目は女性が「C. 子育て支援・PTA活動」、男性が「E. 災害の予防や救助に関する活動」および「B. 社会福祉分野での活動」となっている。参加率については、女性の「町内会・自治会などの活動」を除き、平成21年度以降最も少なくなっている。

【女性】

	平成21年度 (n=862人)	平成26年度 (n=739人)	令和4年度 (n=361人)
1位	趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動 23.8	趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動 26.7	町内会・自治会などの活動 20.5
2位	町内会・自治会などの活動 18.9	町内会・自治会などの活動 21.2	趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動 19.9
3位	子育て支援・PTA活動 10.6	子育て支援・PTA活動 12.6	子育て支援・PTA活動 7.8

【男性】

	平成21年度 (n=590人)	平成26年度 (n=541人)	令和4年度 (n=242人)
1位	趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動 22.0	趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動 23.8	趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動 18.2
2位	町内会・自治会などの活動 20.7	町内会・自治会などの活動 16.6	町内会・自治会などの活動 14.5
3位	災害の予防や救助に関する活動 4.4	社会福祉分野での活動 5.7	災害の予防や救助に関する活動 3.3
		災害の予防や救助に関する活動 5.7	

性・年代別にみる「現在参加している地域活動」

性・年代別にみると、女性は「趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動」が年代が上がるにつれ増加する傾向にあり、70歳以上は3割を超える。「町内会・自治会などの活動」についても、女性60歳代で33.9%と、他の年代に比べ多い。「子育て支援・PTA活動」は女性40歳代で24.2%、女性30歳代で14.8%を占めるが、男性は40歳代で10.0%と、女性に比べ少ない。

(%)

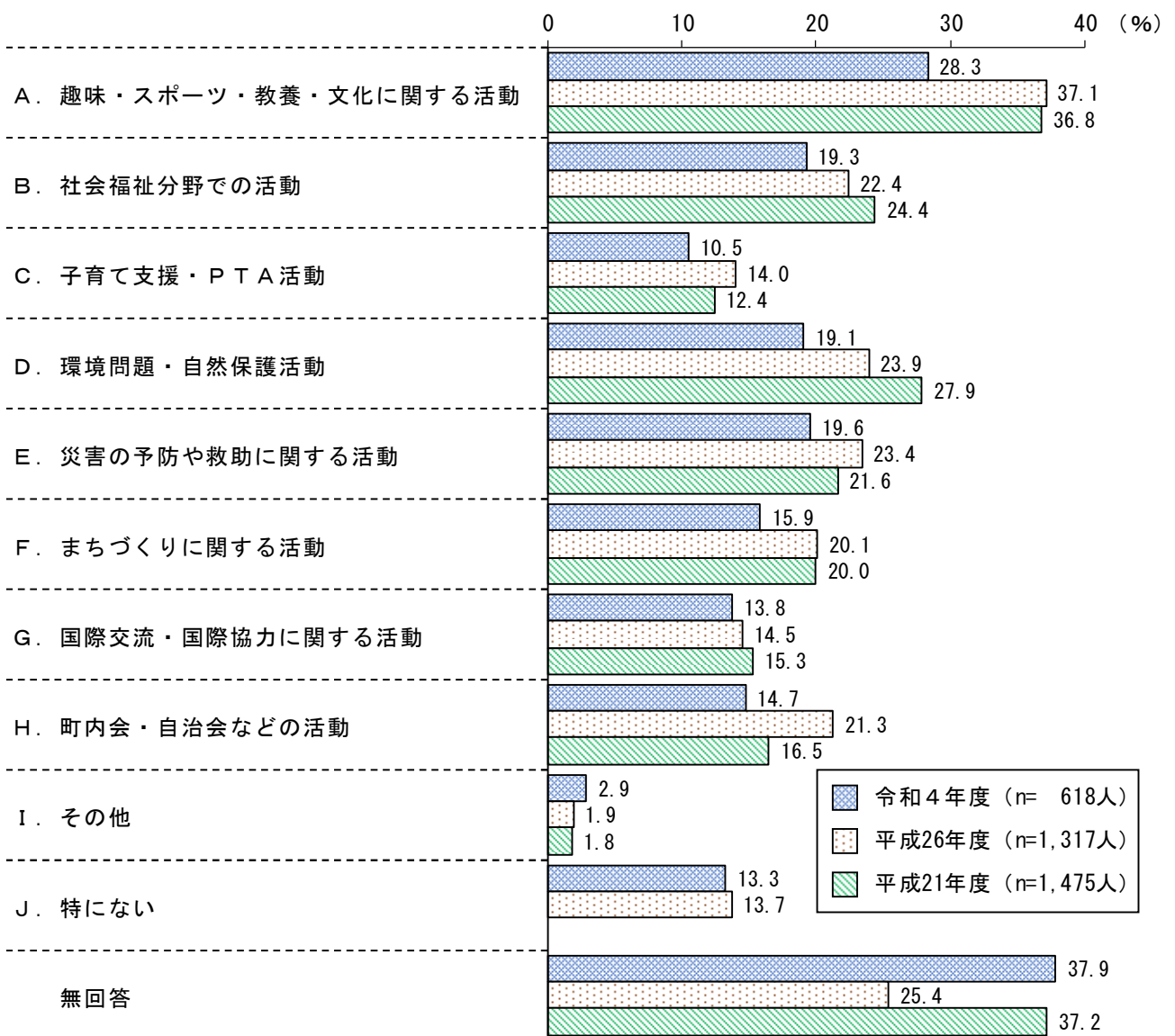
	総数 (人)	趣味・ スポーツ・ 教養・ 文化に 関する 活動	町内 会・ 自治 会な どの 活動	子 育 て 支 援 ・ P T A 活 動	社 会 福 祉 分 野 で の 活 動	災 害 の 予 防 や 救 助 に 関 する 活 動	ま ち づ く り に 関 する 活 動	環 境 問 題 ・ 自 然 保 護 活 動	国 際 交 流 ・ 国 際 協 力 に 関 する 活 動	そ の 他	特 に な い	無 回 答	
全 体	618	19.4	17.8	5.7	3.2	2.4	2.3	1.9	1.6	0.6	16.5	48.4	
〔性・ 年代別〕	女性（全体）	361	19.9	20.5	7.8	3.6	1.7	2.8	2.2	1.7	0.6	15.2	46.3
	10歳代	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	20歳代	24	8.3	4.2	-	-	-	-	-	-	-	25.0	62.5
	30歳代	54	11.1	16.7	14.8	3.7	-	-	-	1.9	-	14.8	50.0
	40歳代	62	12.9	19.4	24.2	4.8	-	1.6	3.2	1.6	-	22.6	37.1
	50歳代	63	15.9	17.5	4.8	-	1.6	3.2	-	-	-	17.5	52.4
	60歳代	59	27.1	33.9	1.7	3.4	1.7	3.4	3.4	3.4	1.7	11.9	39.0
	70歳以上	95	31.6	22.1	1.1	6.3	4.2	5.3	4.2	2.1	1.1	9.5	44.2
	男性（全体）	242	18.2	14.5	2.9	2.5	3.3	1.2	1.7	1.7	0.8	19.0	50.8
	10歳代	3	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-
	20歳代	17	17.6	5.9	-	-	-	-	5.9	5.9	-	41.2	35.3
	30歳代	28	10.7	14.3	-	-	-	-	-	3.6	3.6	17.9	53.6
	40歳代	40	22.5	12.5	10.0	2.5	-	5.0	5.0	-	-	25.0	42.5
	50歳代	40	12.5	12.5	5.0	-	2.5	-	-	-	-	15.0	62.5
60歳代	40	10.0	10.0	-	-	2.5	-	-	-	-	12.5	70.0	
70歳以上	74	24.3	21.6	1.4	6.8	8.1	1.4	1.4	2.7	1.4	16.2	43.2	

(2) 今後参加したい、または引き続き行いたい地域活動

問 23 (2) 次の地域活動の中で、今後参加したい地域活動、または引き続き行いたい地域活動はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

今後参加したい地域活動、または引き続き行いたい地域活動については、「A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動」が28.3%で最も多く、次いで「E. 災害の予防や救助に関する活動」(19.6%)、「B. 社会福祉分野での活動」(19.3%)、「D. 環境問題・自然保護活動」(19.1%)となっている。一方、「特にない」は13.3%となっている。

経年変化でみると、平成26年度と比べ、「A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動」は8.8ポイント、「H. 町内会・自治会などの活動」(14.7%)は6.6ポイント減少した。



※「J. 特にない」は、平成26年度からの新規項目

性別にみる「今後参加したい、または引き続き行いたい地域活動」上位3項目の経年変化

性別にみると、平成21年度以降、女性は「A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動」「B. 社会福祉分野での活動」の2項目、男性は「A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動」「D. 環境問題・自然保護活動」「E. 災害の予防や救助に関する活動」が共通して3位以内となっている。参加意向については、男性の「E. 災害の予防や救助に関する活動」を除き、平成21年度以降最も少なくなっている。

【女性】

	平成21年度 (n=862人)	平成26年度 (n=739人)	令和4年度 (n=361人)
1位	趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動 37.1	趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動 37.8	趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動 28.0
2位	社会福祉分野での活動 26.2	社会福祉分野での活動 23.0	社会福祉分野での活動 18.6
3位	環境問題・自然保護活動 26.0	環境問題・自然保護活動 22.2	災害の予防や救助に関する活動 16.9

【男性】

	平成21年度 (n=590人)	平成26年度 (n=541人)	令和4年度 (n=242人)
1位	趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動 36.3	趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動 37.2	趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動 29.8
2位	環境問題・自然保護活動 30.8	環境問題・自然保護活動 26.2	災害の予防や救助に関する活動 24.0
3位	災害の予防や救助に関する活動 23.7	災害の予防や救助に関する活動 25.3	環境問題・自然保護活動 23.6
	まちづくりに関する活動 23.7		

性・年代別にみる「今後参加したい、または引き続き行いたい地域活動」

性・年代別にみると、「A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動」は女性 20 歳代が 41.7%で最も多いが、男性 20 歳代は 17.6%と全体を下回っている。「D. 環境問題・自然保護活動」は男性 60 歳代で 40.0%を占め、女性 20 歳代、男性 40 歳代なども 3 割台となっている。男性 60 歳代は「町内会・自治会などの活動」「まちづくりに関する活動」など複数の活動で参加意向が全体を上回り、女性 20 歳代も「国際交流・国際協力に関する活動」などが多い。一方、20 歳代は男女とも「特にない」が 2 割台となっている。

		(%)											
		総数 (人)	趣味・ スポーツ・ 教養・ 文化に 関する 活動	災害の 予防や 救助に 関する 活動	社会 福祉 分野で の活動	環境 問題・ 自然 保護 活動	まち づくりに 関する 活動	町内 会・自 治会な どの活 動	国際 交流・ 国際 協力に 関する 活動	子育 て支 援・P T A活 動	その他	特 にな い	無 回 答
全 体		618	28.3	19.6	19.3	19.1	15.9	14.7	13.8	10.5	2.9	13.3	37.9
〔性・ 年代別〕	女性（全体）	361	28.0	16.9	18.6	16.3	11.6	11.9	13.9	9.7	2.2	12.2	39.9
	10歳代	3	33.3	33.3	-	66.7	-	-	-	-	-	-	33.3
	20歳代	24	41.7	29.2	20.8	33.3	12.5	12.5	25.0	12.5	-	20.8	25.0
	30歳代	54	25.9	13.0	18.5	18.5	16.7	11.1	18.5	16.7	5.6	7.4	40.7
	40歳代	62	17.7	11.3	16.1	12.9	9.7	4.8	19.4	3.2	-	19.4	35.5
	50歳代	63	34.9	19.0	27.0	14.3	11.1	15.9	15.9	15.9	3.2	12.7	33.3
	60歳代	59	33.9	20.3	20.3	15.3	15.3	16.9	6.8	8.5	1.7	11.9	37.3
	70歳以上	95	24.2	14.7	13.7	13.7	8.4	11.6	8.4	5.3	2.1	8.4	52.6
	男性（全体）	242	29.8	24.0	20.7	23.6	21.9	18.6	14.0	11.6	3.7	14.5	34.3
	10歳代	3	33.3	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3	33.3	33.3	-	-	33.3
	20歳代	17	17.6	17.6	11.8	5.9	17.6	17.6	5.9	11.8	5.9	23.5	47.1
	30歳代	28	28.6	14.3	10.7	25.0	7.1	7.1	10.7	14.3	7.1	17.9	28.6
	40歳代	40	25.0	32.5	22.5	30.0	22.5	15.0	17.5	12.5	7.5	15.0	27.5
	50歳代	40	35.0	30.0	27.5	20.0	27.5	22.5	20.0	12.5	5.0	20.0	30.0
60歳代	40	35.0	32.5	35.0	40.0	27.5	35.0	12.5	17.5	2.5	5.0	32.5	
70歳以上	74	29.7	16.2	13.5	16.2	20.3	13.5	12.2	5.4	-	13.5	40.5	

(3) 現在の地域活動と今後の参加意向

現在参加している地域活動と今後参加したい地域活動について回答の分布を調べたところ、現在参加している活動内容と今後参加したい活動内容が合致している人（表の着色部分に該当する人）の割合は6.5%（618人中40人）となった。合致度が2割を超えるのは「D. 環境問題・自然保護活動」（25.0%）、「E. 災害の予防や救助に関する活動」（20.0%）のみであり、多くの活動が1割以下となっている。

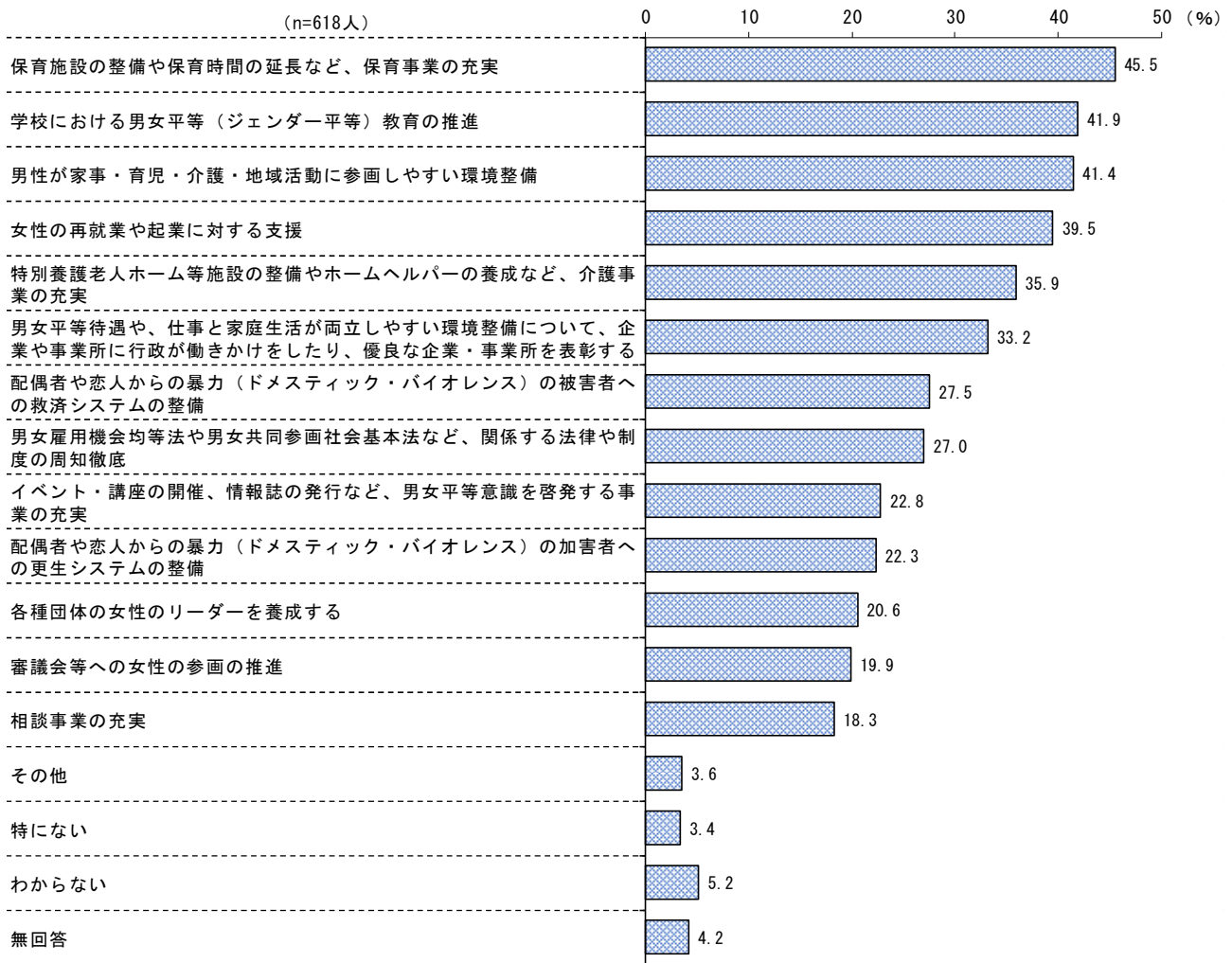
一方、現在参加している活動が「特にない」人の52.0%は、今後参加したい活動も「特にない」となっている。

		(%)											
		今後参加したい地域活動、または引き続き行いたい地域活動											
		総数 (人)	A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動	B. 社会福祉分野での活動	C. 子育て支援・PTA活動	D. 環境問題・自然保護活動	E. 災害の予防や救助に関する活動	F. まちづくりに関する活動	G. 国際交流・国際協力に関する活動	H. 町内会・自治会などの活動	I. その他	J. 特にない	無回答
全 体		618	28.3	19.3	10.5	19.1	19.6	15.9	13.8	14.7	2.9	13.3	37.9
現在、参加している地域活動	A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動	120	15.0	25.0	10.0	20.8	25.0	21.7	14.2	19.2	3.3	2.5	44.2
	B. 社会福祉分野での活動	20	10.0	10.0	20.0	25.0	30.0	35.0	10.0	15.0	5.0	5.0	45.0
	C. 子育て支援・PTA活動	35	20.0	25.7	5.7	28.6	25.7	17.1	34.3	14.3	2.9	-	42.9
	D. 環境問題・自然保護活動	12	25.0	33.3	25.0	25.0	41.7	41.7	8.3	16.7	8.3	-	33.3
	E. 災害の予防や救助に関する活動	15	40.0	20.0	13.3	26.7	20.0	40.0	-	13.3	6.7	-	46.7
	F. まちづくりに関する活動	14	28.6	35.7	21.4	21.4	28.6	7.1	7.1	21.4	7.1	-	57.1
	G. 国際交流・国際協力に関する活動	10	20.0	30.0	30.0	20.0	30.0	30.0	10.0	20.0	-	-	50.0
	H. 町内会・自治会などの活動	110	24.5	16.4	8.2	19.1	21.8	16.4	13.6	9.1	2.7	6.4	46.4
	I. その他	4	25.0	25.0	-	25.0	25.0	25.0	-	25.0	50.0	-	50.0
	J. 特にない	102	17.6	8.8	2.9	6.9	8.8	7.8	3.9	5.9	-	52.0	15.7

(4) 「男女共同参画社会」形成のために取り組むべき施策

問 24 「男女共同参画社会（ジェンダー平等）」を形成していくため、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「男女共同参画社会」を形成していくため、今後、行政が力を入れるべきことは、「保育施設の整備や保育時間の延長など、保育事業の充実」が45.5%で最も多く、次いで「学校における男女平等（ジェンダー平等）教育の推進」（41.9%）、「男性が家事・育児・介護・地域活動に参画しやすい環境整備」（41.4%）、「女性の再就業や起業に対する支援」（39.5%）となっている。



経年変化にみる「男女共同参画社会」形成のために取り組むべき施策」

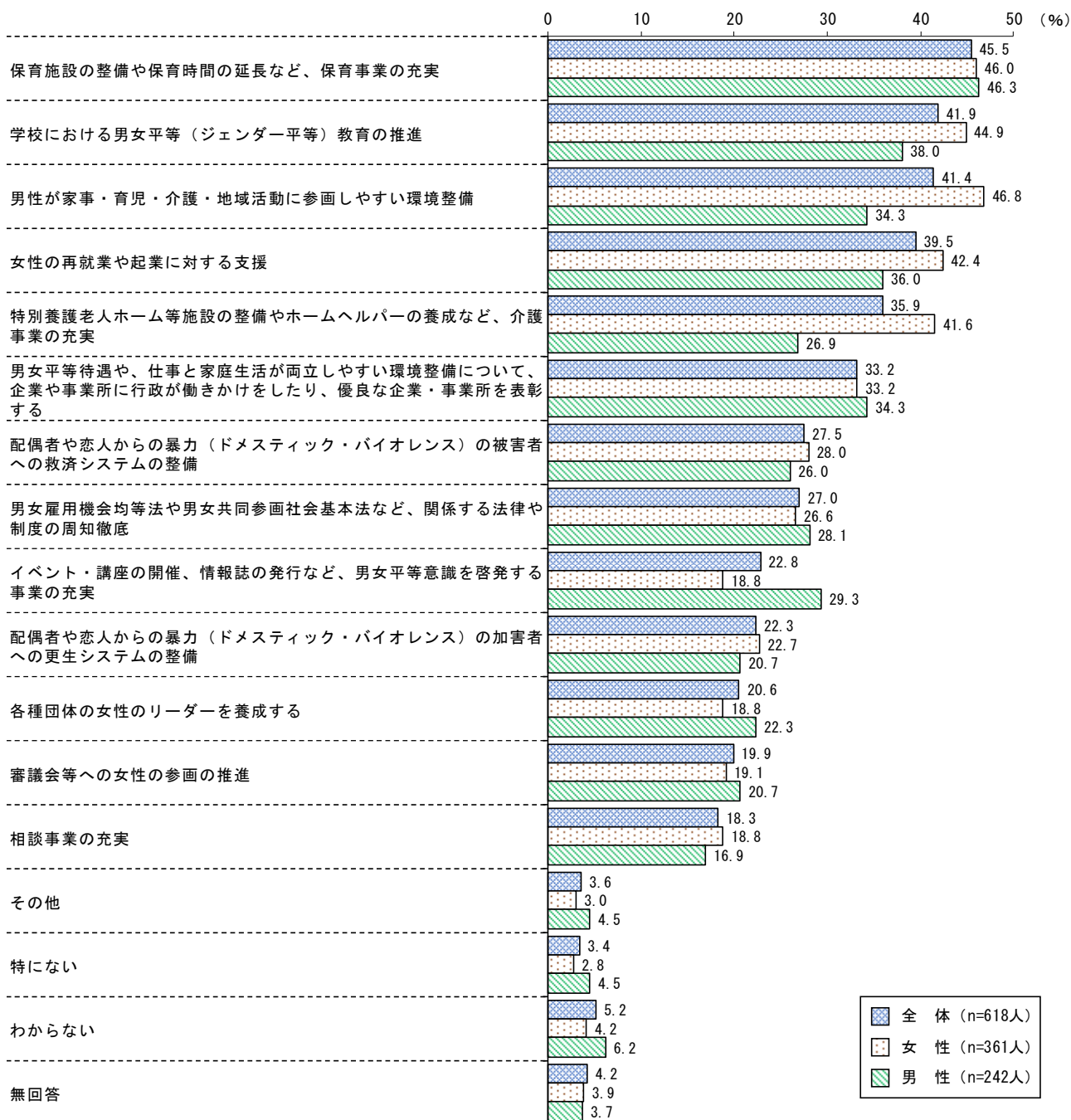
経年変化でみると、平成26年度と比べ、「学校における男女平等（ジェンダー平等）教育の推進」が18.4ポイント、「相談事業の充実」が6.5ポイント、「審議会等への女性の参画の推進」が6.4ポイント増加する一方、「特別養護老人ホーム等施設の整備やホームヘルパーの養成など、介護事業の充実」は10.6ポイント、「保育施設の整備や保育時間の延長など、保育事業の充実」は9.5ポイント、「男女平等待遇や、仕事と家庭生活が両立しやすい環境整備について、企業や事業所に行政が働きかけをしたり、優良な企業・事業所を表彰する」は7.7ポイント減少した。

(%)

	平成17年度 (n=1,328人)	平成21年度 (n=1,475人)	平成26年度 (n=1,317人)	令和5年度 (n=618人)
保育施設の整備や保育時間の延長など、保育事業の充実	51.0	55.4	55.0	45.5
学校における男女平等（ジェンダー平等）教育の推進	27.7	22.6	23.5	41.9
男性が家事・育児・介護・地域活動に参画しやすい環境整備	44.9	44.3	41.6	41.4
女性の再就業や起業に対する支援	44.4	43.3	40.9	39.5
特別養護老人ホーム等施設の整備やホームヘルパーの養成など、介護事業の充実	44.3	44.3	46.5	35.9
男女平等待遇や、仕事と家庭生活が両立しやすい環境整備について、企業や事業所に行政が働きかけをしたり、優良な企業・事業所を表彰する	39.0	38.3	40.9	33.2
配偶者や恋人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）の被害者への救済システムの整備	23.3	24.5	25.5	27.5
男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法など、関係する法律や制度の周知徹底	34.0	29.0	25.9	27.0
イベント・講座の開催、情報誌の発行など、男女平等意識を啓発する事業の充実	28.1	26.5	23.8	22.8
配偶者や恋人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）の加害者への更生システムの整備				22.3
各種団体の女性のリーダーを養成する	22.8	16.5	16.0	20.6
審議会等への女性の参画の推進	25.6	16.9	13.5	19.9
相談事業の充実	14.5	9.8	11.8	18.3
その他	1.4	1.4	2.7	3.6
特にない	2.5	1.7	3.4	3.4
わからない	3.2	3.1	6.1	5.2
無回答	5.9	5.2	3.9	4.2

性別にみる「男女共同参画社会」形成のために取り組むべき施策

性別にみると、女性は「特別養護老人ホーム等施設の整備やホームヘルパーの養成など、介護事業の充実」「男性が家事・育児・介護・地域活動に参画しやすい環境整備」が10ポイント以上、「学校における男女平等（ジェンダー平等）教育の推進」「女性の再就業や起業に対する支援」が6ポイント以上男性より多い。一方、男性は「イベント・講座の開催、情報誌の発行など、男女平等意識を啓発する事業の充実」が10.5ポイント女性を上回る。

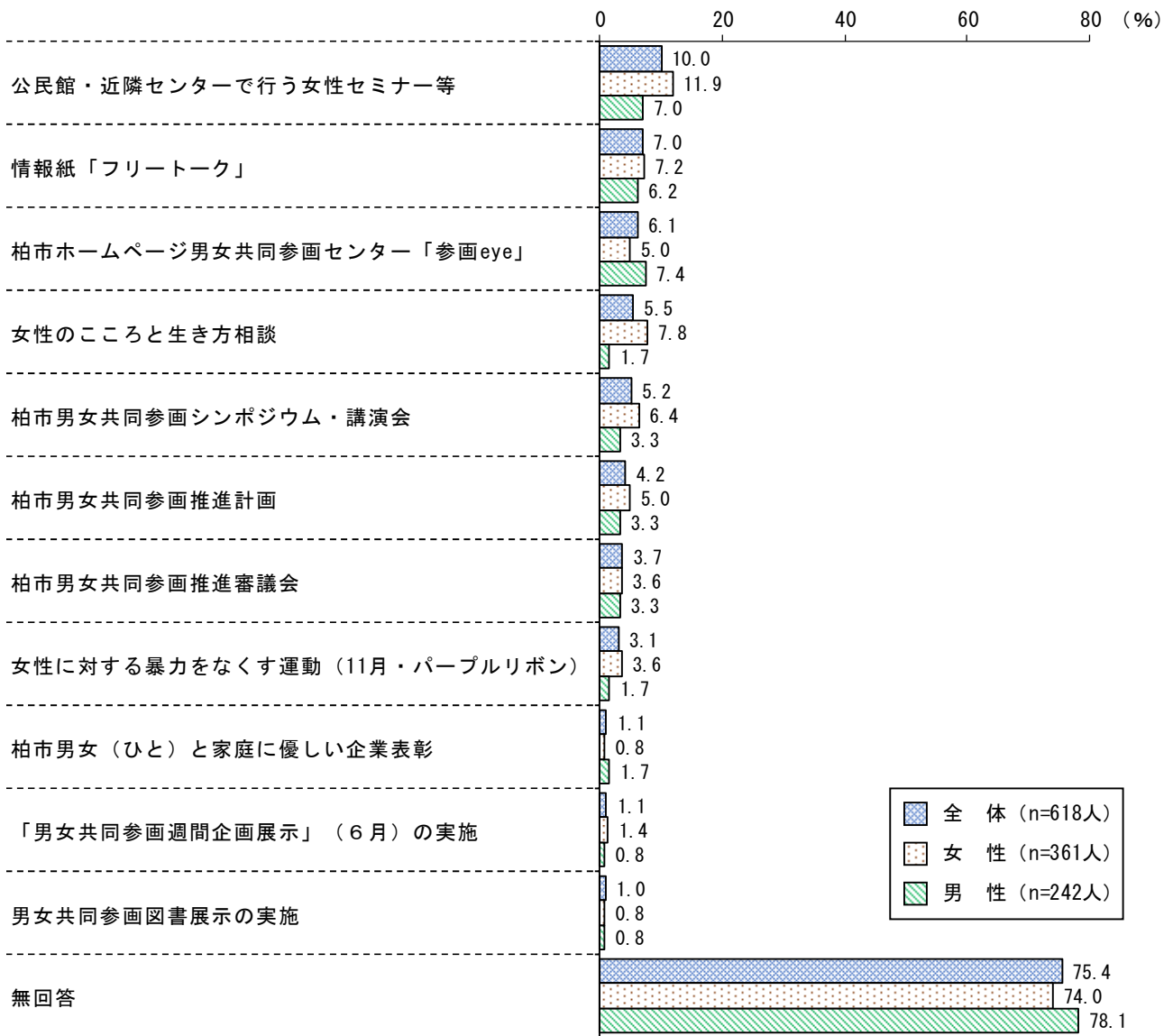


(5) 男女平等推進策の認知状況

問 25 柏市で男女平等を推進するために行っている様々な取り組みのうち、知っているものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

男女平等を推進するために行っている取り組みについて知っているものは、「公民館・近隣センターで行う女性セミナー等」が 10.0%で最も多く、次いで「情報紙「フリートーク」(7.0%)、「柏市ホームページ男女共同参画センター「参画eye」(6.1%)、「女性のこころと生き方相談」(5.5%)となっている。

性別でみると、「女性のこころと生き方相談」は女性が7.8%で、男性より6.1ポイント多い。



経年変化にみる「男女平等推進策の認知状況」

経年変化で見ると、平成17年度以降上位2項目は減少傾向にあり、「公民館・近隣センターで行う女性セミナー等」は平成26年度と比べ7.1ポイント減少した。

(%)

	平成17年度 (n=1,328人)	平成21年度 (n=1,475人)	平成26年度 (n=1,317人)	令和4年度 (n=618人)
公民館・近隣センターで行う女性セミナー等	27.4	23.9	17.1	10.0
情報紙「フリートーク」	13.0	10.2	8.4	7.0
柏市ホームページ男女共同参画センター 「参画eye」	5.3	4.5	3.7	6.1
女性のこころと生き方相談	6.2	6.1	5.2	5.5
柏市男女共同参画シンポジウム・講演会	9.3	6.8	6.1	5.2
柏市男女共同参画推進計画	8.5	8.2	6.9	4.2
柏市男女共同参画推進審議会	6.0	4.3	4.2	3.7
女性に対する暴力をなくす運動 (11月・パープルリボン)			4.3	3.1
柏市男女(ひと)と家庭に優しい企業表彰		1.8	1.4	1.1
「男女共同参画週間企画展示」(6月)の実施			0.9	1.1
男女共同参画図書展示の実施			1.0	1.0
無回答	57.2	62.8	67.6	75.4

令和4年度 男女共同参画に関するアンケート調査 結果報告書

令和5年4月

発行： 柏市企画部 共生・交流推進センター

〒277-0005

千葉県柏市柏1-7-1-301 Day One タワー3F

パレット柏内

TEL：04-7167-0941

FAX：04-7165-7323